



第3回WBSC U-15 ベースボールワールドカップ2016 in いわき 実行委員会

活動記録誌



福島県いわき市の復興の歩み

東日本大震災

2011年3月11日 いわき市で最大震度6弱を観測。
いわき市に甚大かつ壊滅的な被害をもたらしました。

震災直後のいわき



火災が発生した集落は、家屋が燃え尽き廃墟となりました。



廃墟となった建物の中を捜索する隊員。

毎年のようにプロ野球が開催されていたグリーンスタジアムは震災直後自衛隊の宿営地となりました。



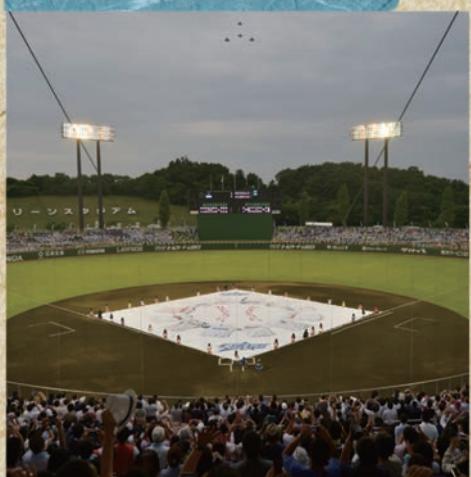
過酷な任務に従事した自衛隊員も子どもたちとの野球交流によって癒されました。



自衛隊員は、野球の復興が地域復興のシンボルとなることを願い帰隊しました。

野球の力で復興を

震災から2年後、2013年プロ野球オールスターゲームがいわき市で開催され、多くの被災者に元気と勇気を与えました。



復興に向かういわき市の元気な姿を世界各地に発信するため「第3回 WBSC U-15ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」が開催されることになりました。



2大会連続2回目の優勝を飾ったキューバ代表。歓喜の瞬間。



惜しくも決勝で敗れた日本代表。閉会式後のミーティングでは全員が涙に暮れた。

目 次

ごあいさつ	6
【第Ⅰ章】 第3回 WBS C U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき 実行委員会の歩み	7
【第Ⅱ章】 第3回 WBS C U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき 出場国・地域	13
【第Ⅲ章】 試合記録	21
【第Ⅳ章】 写真でふり返る活動記録	46
【第Ⅴ章】 寄稿文	82
【第Ⅵ章】 経済効果算定	113
【第Ⅶ章】 報道記録	116



ごあいさつ

第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき 実行委員会 会長 後 勝

「野球の力で復興を」の合言葉のもと、2011年3月に発災した東日本大震災からの復興に歩む「いわき市」を舞台に、国内で初開催となるU-15世代の野球世界一を決める大会「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」が無事終了できましたこと、心より感謝申し上げます。

今大会は、将来の世界各国・地域の野球界を背負うであろうU-15世代が主役の大会であり、国・地域の威信と誇りをかけ、真剣勝負で戦うことはもちろんのことながら、人間として大きく成長する多感なこの時期に世界の仲間と触れ合い、交流を深めることは、貴重で意義深く、大変有意義な大会となりました。

地元いわき市には、大会準備の段階から絶大なる御支援を賜り、他の世代の世界大会でも類を見ないほど、沢山の市民の皆様の参画を得た大会となりました。特に選手達と同世代の中学生は、「1校1国・地域運動」を中心にスタンドに大勢足を運んでいただき、吹奏楽部などによる大声援を日本代表以外の各国・地域選手団に送っていました。

異国の地で自国・地域の国歌等を演奏してもらい、大きな声援を送ってもらえた各国・地域の選手にとっては、一生の思い出に残る大会になったと思います。

また、グランド整備、食事の手配、ランドリーやメディカルの対応、休養日の市内観光に至るすべての面で、多くのボランティアの皆様に支えていただきました。大会期間を通して2,500名を超える方に大会を支えていただき、どの分野においても親切、丁寧に対応いただき、選手団はもとより世界各国から来日された大会関係者、応援団から称賛の声も数多く届きました。

大会では日本代表が過去最高成績となる銀メダルを獲得し、すべての面で大成功の大会になりました。改めまして、今大会に協力いただきました地元関係団体、スポンサー各社、ボランティアの皆様、そしてスタンドから大声援を送っていただいた地元応援団の皆様にこの場を借りまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、いわき市で野球世界大会が開催され、皆様にお会いできますことを楽しみしております。

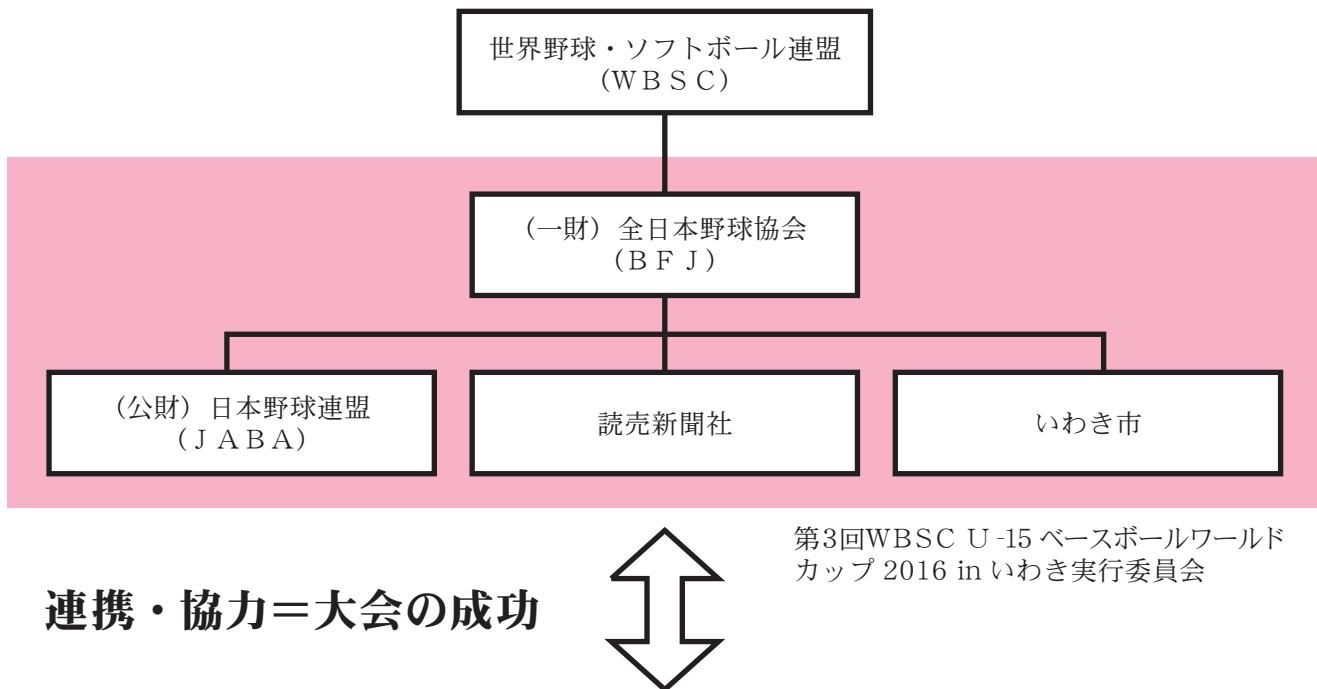


第Ⅰ章

第3回 WBSU-15ベースボール
ワールドカップ 2016 in いわき
実行委員会の歩み

大会運営の組織

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」を開催するために主催者である世界野球・ソフトボール連盟（W B S C）と連携を図り、大会の成功と野球の振興を目指し、国内の各種野球団体、開催地が一体となった組織体制（実行委員会、開催支援委員会）で大会準備、運営にあたった。



主な役割

●実行委員会

大会運営に関すること、主催者との調整など

●市開催支援委員会

開催機運の高揚、会場整備、運営ボランティアの教育、来市者へのおもてなし、情報発信など

大会概要

大会名称	第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき
大会会場	いわきグリーンスタジアム、南部スタジアム、平野球場
大会期間	2016年7月29日(金)–8月7日(日)
主催	世界野球・ソフトボール連盟
共催・主管	一般財団法人 全日本野球協会、公益財団法人 日本野球連盟、読売新聞社、いわき市
後援	外務省
協賛	アットホーム、ガンホー、相双リテック、明治
WBSCグローバルパートナー	エスエスケイ、ミズノ

大会組織

大会役員

大会名誉会長	Riccardo Fraccari
大会会長	市野 紀生
大会顧問	内堀 雅雄、清水 敏男、石井 一夫
大会参与	内藤 雅之、野端 啓夫、山田 隆、林 清一、藤田 英輝、満生 穎次郎、高田 省三、吉留 勝巳

技術委員

委員長	Giuseppe Guilizzoni
委員	麻生 紘二、Angel Bonilla、David Nagy、Ro Jun Park、Ruggero Bagialemani、林 清一、江原 昭博、伊藤 栄治、小島 啓民、加藤 登志久、柴田 穢、高橋 大地

審判員

委員長	Marco Screti
審判員	Maite Bullones Aranguren、William Cogollo Rocha、Silvano Filippi、Luís González、Dae Nam Kim、David Kulhanek、Juan de Dios León Morales、小原 公、Angelo Rios、James Shields、Wen Yen Tseng、Carlos Utrera Arguelles、高橋 進也、藤田 和成、氏家 康孝、渡部 貴浩、星 知巳、渡辺 敏男
公式記録委員長	Pablo Carpio
公式記録員	Cindy Chan、Beverley McCabe、Marco Travagli、Wong Pak Wah、中村 風香、松本 奈都美、小島 菜月、浪上 皇祿、迫 飛河、平田 貢一、前田 大輝、中川 雅夫

順不同・敬称略

実行委員会概要

実行委員会は、「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」を円滑に実施するために必要な事業を行い、世界の子どもたちが、野球を通じて友情を育むとともに、国際理解を深めることを目的とし、以下のメンバーで設立。

第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき 実行委員会名簿

役職名	氏 名	所属団体役職名
大会実行委員会		
大会実行委員長	後 勝	日本中学硬式野球協議会会長
副委員長	大田垣耕造	日本野球連盟副会長
	吉見 淳一	読売新聞東京本社事業局総務
委員	蘿野 正明	全日本野球協会国際委員長
	柴田 穢	全日本野球協会事務局長
	崎坂 徳明	日本野球連盟事務局長
	江村 伸	読売新聞東京本社事業局専門委員
	安齋 瞳男	福島県文化スポーツ局長
	大和田 洋	いわき市特定政策推進監
	山下 二郎	日本リトルシニア中学硬式野球協会事務局長
	三浦 重人	日本少年野球連盟東北支部長
	児島 康廣	日本ボニーベースボール協会副理事長
	田中 宏	全日本少年硬式野球連盟副理事長
	西尾 健一	九州硬式少年野球協会副会長
委員（審判代表）	中本 尚	日本野球連盟常任理事
委員（医師団代表）	大歳 憲一	福島県立医科大学スポーツ医学講座主任・教授
監事	内海 利彦	日本野球連盟理事
	金丸 信一	読売新聞東京本社事業管理部主任
	小針 正人	いわき市文化スポーツ室スポーツ振興課長
大会事務局		
事務局長	吉岡 則雄	読売新聞東京本社スポーツ事業部次長
事務局	佐藤 栄一	日本野球連盟事務局事業課長
	柳澤 潤	開催支援委員会事務局

順不同・敬称略



定期的に都内で会議を持ち、大会準備にあった他、WBSCとスカイプ会議を行い、情報共有などを図った。

開催支援委員会概要



第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき 開催支援委員会名簿

役職名	氏 名	団体名	所属団体役職名
会長	清水 敏男	いわき市	市長
副会長	安齋 瞳男	福島県文化スポーツ局	局長
	菅波 健	いわき市議会	議長
	小野 栄重	いわき商工会議所	会頭
委員	吉田 尚	いわき市教育委員会	教育長
	斎藤 一彦	一般社団法人いわき観光まちづくりピューロー	会長
	遠藤 弘道	公益社団法人いわき青年会議所	理事長
	草野 昭男	いわき市旅館ホテル業連絡協議会	理事
	高野 公秀	新常磐交通株式会社	代表取締役社長
	浅倉 哲也	福島民報社いわき支社	支社長
	草野 幸雄	福島民友新聞社いわき支社	支社長
	野沢 達也	いわき民報社	代表取締役社長
	鈴木 賢司	福島テレビいわき支社	支社長
	斎藤 昌	福島中央テレビいわき支社	支社長
	上沢 和也	テレビユー福島いわき支社	支社長
	左雨 弘光	福島放送いわき支社	支社長
	渡辺 弘	いわき市民コミュニティ放送	代表取締役社長
監事	神山 敬章	いわき明星大学	教授
	福迫 昌之	東日本国際大学	教授
	松本 伸一	いわき市中学校長会	会長
	木村 恵三	いわき市中体連野球専門部会	会長
	丹野 益男	いわき市中学校野球一球会	会長
	太田 邦彦	いわきボーイズ	代表
	野崎 裕康	いわきリトルシニア	会長
	大和田 洋	いわき市	特定政策推進監
	高木 桂一	いわき市 都市建設部	部長
	増子 裕昭	いわき市教育委員会事務局	部長
	坂本 満恵	いわき市体育協会	会長
	出澤 政雄	いわきベースボールコミュニケーション	代表

順不同・敬称略

2015年3月20日に「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016in いわき」を成功に導くため、関係団体等が集い、開催支援委員会（発足時組織名称は、「いわき市U 15 野球ワールドカップ推進委員会」）を発足させ、次の「テーマ」と「実施内容」に基づき、事業を実施。

テーマ

野球の力で復興を

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016in いわき」の本市開催を通して、将来の地域の担い手となる子供達がふるさとへの誇りと愛着を感じ、市民一丸となり、今後の更なる本市復興への弾みと加速をつける機会を創出する。

実施内容

- 1 市民一丸となった開催支援の取り組み
- 2 子供達が交流、参画できる事業の展開



具体的な活動目標として、上記の5つ柱を基軸に事業展開を実施。



開催支援委員会公式ホームページを開通し、情報発信に務めた。

日本語、英語、スペイン語、中国語、韓国語、チェコ語の6ヶ国語のパンフレットを用意し来市対応の準備を行った。

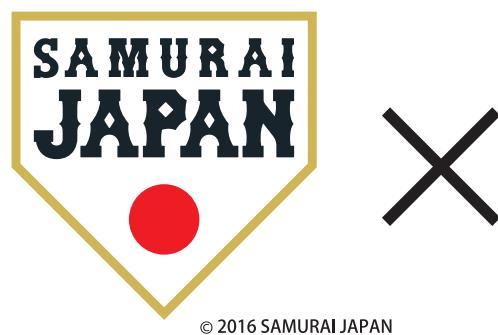
応援キャラクター



侍ジャパンを運営する株式会社NPBエンタープライズの協力のもと、「第3回WBSC U-15ベースボールワールドカップ2016inいわき」の開催を盛り上げるために、侍ジャパンのユニフォームを纏った「いわき市野球応援キャラクター『フラ・たまみ』」が、今大会の侍ジャパンU-15代表の応援キャラクターを務めた。

「フラ・たまみ」は今大会の開催地である「観光の街 いわき」の象徴であるフラガール、「被災地 いわき」の復興のシンボルとなった野球をモチーフとしたキャラクターで、これまで2013年のプロ野球オールスター GAMEなどでも活躍。

侍ジャパンのユニフォームを着用した今回は、侍ジャパン公式マスコット「応援侍たまペエ」と一緒に大会を盛り上げた。



様々なイベントに参加し、「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016in いわき」開催PRを行った。



第Ⅱ章

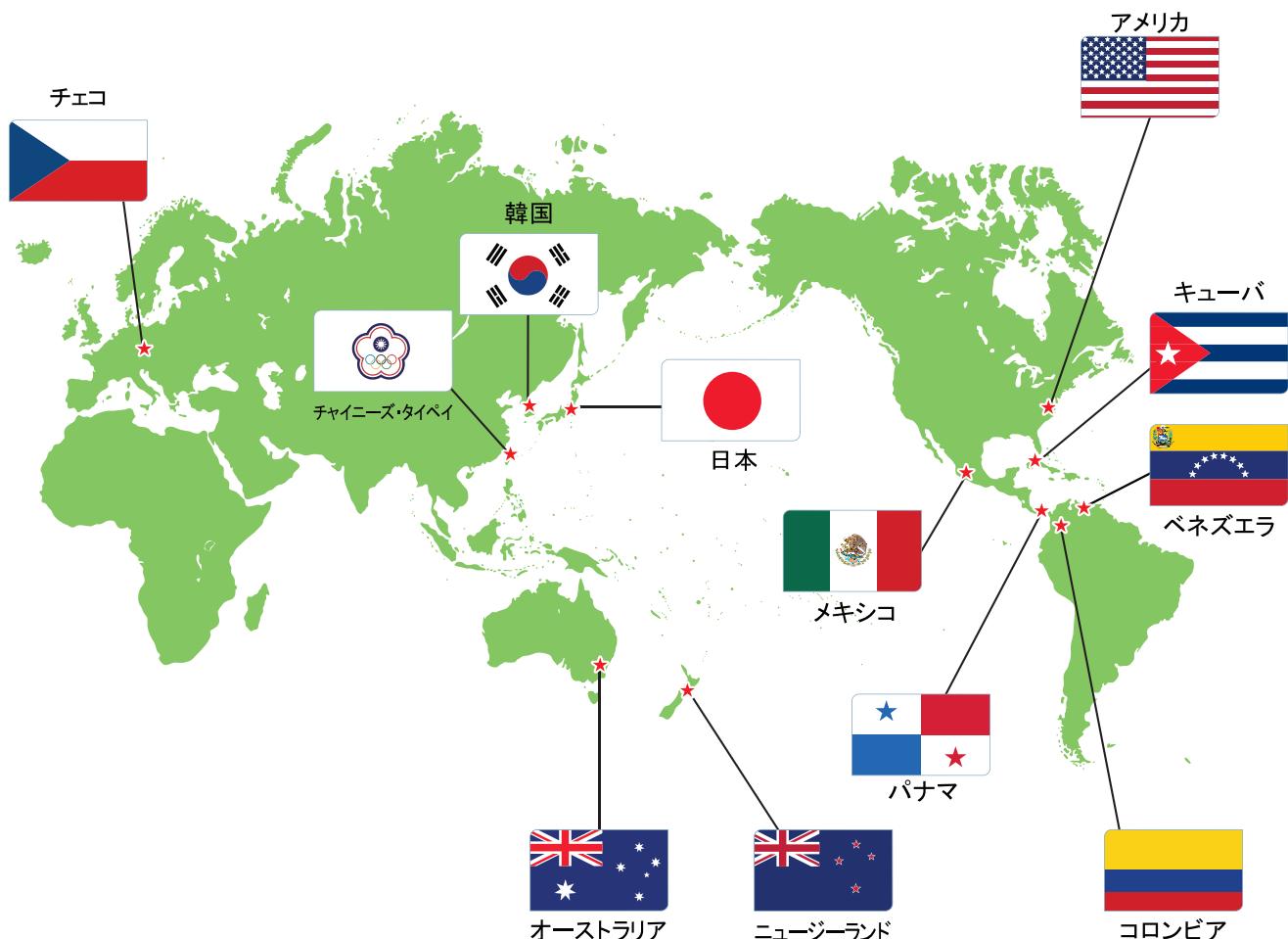
出場国・地域

第3回 WBSC U-15 ベースボール
ワールドカップ 2016 in いわきル

第3回 W B S C

U-15 ベースボールワールドカップ

2016 in いわき 出場国・地域



Group A

	JAPAN
	<i>Korea</i>
	<i>Cuba</i>
	<i>AUSTRALIA</i>
	<i>CZECH REPUBLIC</i>
	COLOMBIA

Group B

	<i>Venezuela</i>
	<i>MEXICO</i>
	<i>Panama</i>
	<i>NEW ZEALAND</i>



Group A

日本 / JAPAN



→ スタッフ STAFF

団長/HEAD OF THE TEAM
藤田 英輝
Hideki Fujita

監督/MANAGER
鹿取 義隆
Yoshitaka Katori

コーチ/COACH
田代 栄次
Eiji Tashiro

コーチ/COACH
石崎 学
Manabu Ishizaki

コーチ/COACH
大野 久
Hisashi Ohno

→ 選手 PLAYERS

投手/PITCHER

1 北田 雅也

Masaya Kitada

投手/PITCHER

3 不後 祐将

Yuma Fugo

投手/PITCHER

11 及川 雅貴

Masaki Oyokawa

投手/PITCHER

17 岡田 幹太

Kanta Okada

投手/PITCHER

18 櫻井 佑輝

Yuki Sakurai

投手/PITCHER

19 星野 恒太朗

Kotaro Hoshino

投手/PITCHER

21 宮城 大弥

Hiroya Miyagi

投手/PITCHER

23 増木 武寛

Takehiro Masuki

捕手/CATCHER

2 鈴木 瑞景

Ryusei Suzuki

捕手/CATCHER

10 野口 海音

Minon Noguchi

捕手/CATCHER

22 星子 海勢

Kaisei Hoshiko

内野手/INFILDER

4 田口 夢人

Yumeto Taguchi

内野手/INFILDER

5 嘉手苅 将太

Shota Katekaru

内野手/INFILDER

6 近藤 大樹

Daiki Kondo

内野手/INFILDER

12 辻 憲伸

Kenshin Tsuji

内野手/INFILDER

15 中田 惟斗

Yuito Nakata

内野手/INFILDER

16 小山 翔暉

Shoki Koyama

外野手/OUTFIELDER

7 黒須 大誠

Taisei Kurosu

外野手/OUTFIELDER

8 稲生 賢二

Kenji Inoh

外野手/OUTFIELDER

9 植田 太陽

Taiyo Ueda



Group A

韓国 / SOUTH KOREA



→ スタッフ STAFF

団長/
HEAD OF THE TEAM
クォン・オキ
Oki Kwon

監督/
MANAGER
白 逢起
Bongki Baek

コーチ/
COACH
チュ・ギョジュン
Gyojoon Choo

コーチ/
COACH
金 星在
Kim Sungjae

コーチ/
COACH
車 正煥
Junghwan Cha

→ 選手 PLAYERS

投手/PITCHER

1 黃 炳在

ファン・ビョンジェ Byeongjae Hwang

投手/PITCHER

11 金 陳燮

キム・ジンソブ Jinseob Kim

投手/PITCHER

12 金 成穆

キム・ソンモク Seongmok Kim

投手/PITCHER

14 朴 亨埈

パク・ヒョンジュン Hyunjun Park

投手/PITCHER

18 パク・ソヌウ

Sungeo Park

投手/PITCHER

19 徐 埼祐

ソ・ジュンウ Junwoo Seo

投手/PITCHER

24 朴 珍炫

パク・ジンヒョン Jinhyeon Park

捕手/CATCHER

10 李 沢俊

イ・ウォンジュン Wonjun Lee

捕手/CATCHER

22 朴 正桓

パク・ジョンファン Junghwan Park

捕手/CATCHER

26 裴 炎源

ペ・ジョンウォン Jeongwon Bae

内野手/INFILDER

2 趙 民成

チョ・ミンソン Minsung Cho

内野手/INFILDER

3 白 宇赫

ベク・ウヒョク Woohyeok Baek

内野手/INFILDER

5 金 相輝

キム・サンフィ Sanghwi Kim

内野手/INFILDER

7 申 潤佑

シン・ジュンウ Junwoo Shin

内野手/INFILDER

8 鄭 在欽

ジョン・ジェフム Jaehum Jung

内野手/INFILDER

9 金 峻佑

キム・ジュンウ Junwoo Kim

外野手/OUTFIELDER

16 金 滿洙

キム・マンス Mansoo Kim

外野手/OUTFIELDER

17 高 京杓

コ・ギョンピヨ Kyungpyo Ko

外野手/OUTFIELDER

23 陳 允

ジン・ウン Yoon Jin

外野手/OUTFIELDER

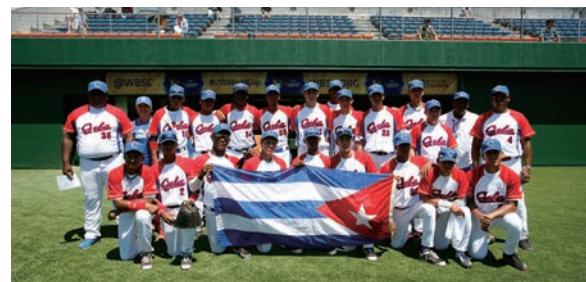
27 李 承昊

イ・スンホ Seungho Lee



Group A

キューバ / CUBA



→ スタッフ STAFF

団長/HEAD OF THE TEAM コロベア ブラボ・エリベルト Heriberto Corbea Brabo	監督/MANAGER ファブレス アルマンサ・ゲーティ ダミアン Gerty Damian Febles Almanza	コーチ/ COACH クバ ロドリゲス・ビクトル エベリオ Victor Evelio Cuba Rodríguez	コーチ/ COACH ピノ フェオ・ミチエル Michel Pino Feo	コーチ/ COACH ロドリゲス バルボン・オルベ ルイス Orbe Luis Rodríguez Barbón
---	--	--	--	--

→ 選手 PLAYERS

投手/PITCHER 5 カステジャノス ベレス・アルビン Harbin Castellanos Pérez	投手/PITCHER 15 ロドリゲス ガルシア・オシエル Osiel Rodríguez García	投手/PITCHER 20 ロドリゲス オブレゴン・オスダニイ Osdany Rodríguez Obregón	投手/PITCHER 21 メヒアス ロドリゲス・ウベルト ルイス Uberl Luis Mejías Rodríguez
投手/PITCHER 34 コボス クラロ・フラニー Franny Cobos Claro	投手/PITCHER 35 チャビアノ オルデス・リヴァン Livan Chaviano Ordaz	投手/PITCHER 43 ケサダ コト・アンディ Andy Quesada Coto	投手/PITCHER 99 マルティネス パルメロ・エドガル アルベルト Edgar Alberto Martínez Palmero
捕手/CATCHER 13 エチエンディア ヘレラ・シクスト マロン Sixto Marlon Echemendía Herrera	捕手/CATCHER 17 ペレス ガルシア・アンドリス Andrys Pérez García	捕手/CATCHER 64 ベタンコール ベラスケス・マルコス アントニオ Marcos Antonio Betancourt Velázquez	内野手/INFILDER 2 カステイジョ スアレス・ダニエル アレハンドロ Daniel Alejandro Castillo Suárez
内野手/INFILDER 11 マルティネス マレージョ・ヨナタン デビス Jhonatan Devys Martínez Marrero	内野手/INFILDER 19 エスピノサ オルテス・ロランド ヘスス Rolando Jesús Espinosa Ortiz	内野手/INFILDER 54 ヌニエス ビジャヌエバ・マルコン ジャニエル Malcom Yaniel Nuñez Villanueva	内野手/INFILDER 95 チャペジ スルエタ・ロイデル Loidel Chapelli Zulueta
外野手/OUTFIELDER 10 メサリオス・ビクトル Víctor Mesa Ríos	外野手/OUTFIELDER 32 アロンソ ヘルナンデス・ランディ Randy Alonso Hernández	外野手/OUTFIELDER 42 オタメンディ ピニャ・アンセル Hansel Otamendi Piña	外野手/OUTFIELDER 51 パルマ フォンセカ・ダリアン Darian Palma Fonseca



Group A

オーストラリア / AUSTRALIA



→ スタッフ STAFF

団長/HEAD OF THE TEAM バロウクリフ・ニール Neil Barrowcliff	監督/MANAGER カイル・アンドル Andrew Kyle	コーチ/ COACH ロイド・グレアム Graeme Lloyd	コーチ/ COACH シャナハン・ダミアン Damian Shanahan	コーチ/ COACH シプリー・マーク Mark Shipley
---	---------------------------------------	--	---	--

→ 選手 PLAYERS

投手/PITCHER 4 マッカラム・リアム Liam McCallum	投手/PITCHER 6 カビル・ブレイク Blake Cavill	投手/PITCHER 7 フィエレンジ・ベンジャミン Benjamin Fierenzi	投手/PITCHER 8 エバンズ・リアム Liam Evans
投手/PITCHER 9 コルテカース・ウイル Will Kortekaas	投手/PITCHER 14 マンスフィールド・ザック Zac Mansfield	投手/PITCHER 15 マーティン・マシュー Matthew Martin	投手/PITCHER 16 マッキー・タイソン Tyson McKee
投手/PITCHER 23 ワトソン・マキシム Maxim Watson	投手/PITCHER 25 ホーン・トーマス Thomas Horne	投手/PITCHER 28 タウンセンド・ブレイク Blake Townsend	投手/PITCHER 29 クローカー・デクラン Declan Croker
投手/PITCHER 30 ワルシュ・ディラン Dylan Walsh	捕手/CATCHER 3 バーク・クリス Chris Burke	捕手/CATCHER 21 ウィンロー・ジョナサン Jonathan (jd) Winlaw	内野手/INFILDER 2 バノン・ダニエル Daniel Bannon
内野手/INFILDER 5 スティシー・イーサン Ethan Stacy	内野手/INFILDER 18 スティーブンス・ジョー Jo Stevens	内野手/INFILDER 26 シエバード・カレブ Caleb Shepherd	外野手/OUTFIELDER 10 リバロ・プロス・ヘイデン Hayden Lyberopoulos

Group A



チェコ / CZECH REPUBLIC



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM
プロハースカ・マトウシュ
Matouš Procházka

監督 / MANAGER
スボボダ・トマーシュ
Tomáš Svoboda

コーチ / COACH
ナブラーチル・アレシュ
Aleš Navrátil

コーチ / COACH
ノボトニー・ペトル
Petr Novotný

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER 2 フルプナ・オンドジェイ Ondrej Chlubna	投手 / PITCHER 12 レグネル・マルティン Martin Regner	投手 / PITCHER 21 コホウト・ミハル Michal Kohout	投手 / PITCHER 28 ザホヴァル・トマーシュ Tomáš Zachoval
投手 / PITCHER 29 クラシュカ・マルティン Martin Klaška	投手 / PITCHER 31 ボイタ・ペトル Petr Vojta	投手 / PITCHER 39 コモロウス・ダービト David Komorous	投手 / PITCHER 40 フルベク・トマーシュ Tomáš Hrbek
投手 / PITCHER 41 グルンドマン・マルティン Martin Grundmann	投手 / PITCHER 43 マレシュ・ダービト David Mareš	捕手 / CATCHER 30 クレイチー・ダニエル Daniel Krejcí	捕手 / CATCHER 37 ロフマン・オンドジェイ Ondrej Lochman
内野手 / INFILDER 23 カランドラ・オンドジェイ Ondrej Kalandra	内野手 / INFILDER 24 ハヌシュ・ミクラーシュ Mikuláš Hanuš	内野手 / INFILDER 25 ハディム・トマーシュ Tomáš Chadim	内野手 / INFILDER 44 クレイチジーク・マレク Marek Krejcirk
外野手 / OUTFIELDER 10 カドルノシュカ・パトリック Patrik Kadnožka	外野手 / OUTFIELDER 27 ベスト・ミハエル Michael Best	外野手 / OUTFIELDER 42 ペルニツァ・マルティン Martin Pernicka	

Group A

コロンビア / COLOMBIA



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM
ガルシア エスタリタ・カルロス 口ケ
Carlos Roque Garcia Estarita

監督 / MANAGER
モスケラ クリソン・ホセ アルマンド
Jose Armando Mosquera Crisson

コーチ / COACH
アブレウ カルデロン・パブロ
Pablo Abreu Calderin

コーチ / COACH
エジェス サンチェス・アルノルド
Arnold Elles Sanchez

コーチ / COACH
サレセド ベルガラ・ダイロ エンリケ
Dairo Enrique Salcedo Vergara

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER 12 デアビラ パハロ・ルイス フェリペ Luis Felipe De Avila Pajaro	投手 / PITCHER 7 ガリンド ナール・ルベン アントニオ Ruben Antonio Galindo Naar	投手 / PITCHER 21 モレロ ゴンサレス・フライ ダビ Fray David Morelo Gonzalez	投手 / PITCHER 11 プエジョ ガルセス・ヘスス ダビ Jesus David Puello Garces
投手 / PITCHER 18 バルガス アングロ・レオナルド ホセ Leonardo Jose Vargas Angulo	投手 / PITCHER 16 ヒメネス オスピオ・グレイデル ダビ Greider David Jimenez Ospino	投手 / PITCHER 1 メレンヘロ ハス・アロルド ダビ Harold David Melenge Rojas	投手 / PITCHER 8 マルティネス ビジャロボス・カミロ ホセ Camilo Jose Martinez Villalobos
捕手 / CATCHER 13 ノリエガ パラシオ・アンドレス フェリペ Andres Felipe Noriega Palacio	捕手 / CATCHER 5 キンタナ アビラ・ギエルモ エンリケ Guillermo Enrique Quintana Avila	捕手 / CATCHER 17 ヤンセス ソリス・ドナルド ハイメ Donaldo Jaime Yances Solis	内野手 / INFILDER 2 アロヨ パティージャ・カルロス アンドレス Carlos Andres Arroyo Padilla
内野手 / INFILDER 4 ゴンサレス トース・ウリアン フェルナンド William Fernando Gonzalez Torres	内野手 / INFILDER 14 パディージャ モレロ・ホセ アントニオ Joseph Antonio Padilla Morelo	内野手 / INFILDER 9 ゴメス パテルニナ・アンドレス カミロ Andres Camilo Gomez Paternina	内野手 / INFILDER 3 ベルベル フェリア・ディエゴ アルマンド Diego Armando Verbel Feria
外野手 / OUTFIELDER 15 アルスサ ノリエガ・ルイス カルロス Luis Carlos Arzuza Noriega	外野手 / OUTFIELDER 10 カンテジョ ランビス・マーシャル ステphen Marshall Steven Cantillo Lambis	外野手 / OUTFIELDER 22 ミランダ カネシア・ウイリアン アルベルト William Alberto Miranda Canencia	外野手 / OUTFIELDER 19 カリージョ メサ・アンドレス ダビ Andres David Carrillo Meza



Group B

アメリカ / UNITED STATES



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM
ウェブ・ブルックス
Brooks Webb

監督 / MANAGER
ストリックランド・マイク
Mike Strickland

コーチ / COACH
ブリーゼ・ドリュー
Drew Brieze

コーチ / COACH
マックスウェル・ジェイソン
Jason Maxwell

コーチ / COACH
シャバンスキー・ロブ
Rob Shabansky

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER
11 バークウィッチ・ネルソン
Nelson Berkwich

投手 / PITCHER
27 キャンベル・ジャステイン
Justin Campbell

投手 / PITCHER
17 ファルティン・サンソン
Sanson Faltine

投手 / PITCHER
24 ゴルビー・ニコラス
Nicholas Gorby

投手 / PITCHER
7 ジエイコブ・トニー
Tony Jacob

投手 / PITCHER
23 ジョーンズ・ジャレッド
Jared Jones

投手 / PITCHER
22 ロング・イーサン
Ethan Long

投手 / PITCHER
3 マルティネズ・ザカリー
Zachary Martinez

投手 / PITCHER
26 ナランジョ・ジョゼフ
Joseph Naranjo

投手 / PITCHER
15 スコット・ウェズリー
Wesley Scott

投手 / PITCHER
21 シムズ・ランドン
Landon Sims

捕手 / CATCHER
13 ブリオーンズ・ガブリエル
Gabriel Briones

内野手 / INFILDER
6 ブリグマン・コールマン
Coleman Brigman

内野手 / INFILDER
1 カイロ・クリスチャン
Christian Cairo

内野手 / INFILDER
14 ダウティー・ケイド
Cade Doughty

内野手 / INFILDER
4 オラシン・コルトン
Colton Olasin

内野手 / INFILDER
2 ボルベ・アンソニー
Anthony Volpe

内野手 / INFILDER
5 ヤング・カーター
Carter Young

外野手 / OUTFIELDER
12 ディクソン・ジャザイヤ
Jasiah Dixon

外野手 / OUTFIELDER
29 ウォールゲムス・ネイト
Nate Wohlgemuth



Group B

チャイニーズ・タイペイ / CHINESE TAIPEI



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM
林 華章
リン・ハウエイ
Huawei Lin

監督 / MANAGER
郭 東晏
グオ・ドンイエン
Tungyen Kuo

コーチ / COACH
蘇 又申
スゥ・イオウシェヌ
Yushen Su

コーチ / COACH
江 奎寬
ジアン・クオイクアン
Kueikuan Chiang

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER
6 陳 柏毓
チエヌ・ボユイ Poyu Chen

投手 / PITCHER
8 郭 定泓
グオ・ディンホン Dinghong Guo

投手 / PITCHER
10 黄 震武
ホアン・ジンウ Chengwu Huang

投手 / PITCHER
11 林 家恩
リン・ジアエン Chiaen Lin

投手 / PITCHER
13 陳 柏均
チエヌ・ボジュン Pochun Chen

投手 / PITCHER
18 王 淳勛
ワン・ホンジュン Hungsun Wang

捕手 / CATCHER
2 高 家俊
ガオ・ジアジュン Chiachun Kao

捕手 / CATCHER
16 胡 佳成
フウ・ジアチョン Chihcheng Hu

捕手 / CATCHER
21 李 孟哲
リ・モンジョ Mengche Lee

内野手 / INFILDER
3 王 柏崴
ワン・ボウイェイ Powei Wang

内野手 / INFILDER
5 陳 勝騰
チエヌ・シントン Shengteng Chen

内野手 / INFILDER
7 翁 耀宗
ウォン・ヤオジョン Yaotsung Weng

内野手 / INFILDER
12 陳 致均
チエヌ・ジジュン Chihchun Chen

内野手 / INFILDER
17 林 吳 晉璋
リンウ・ジンウエイ Chinwei Linwu

内野手 / INFILDER
20 盧 彦祖
ルウ・イエンズウ Yantsu Lu

外野手 / OUTFIELDER
1 簡 瑞文
ジエン・ルオイウェン Juiwen Chien

外野手 / OUTFIELDER
4 黃 凱倫
ホアン・カイルン Kailun Huang

外野手 / OUTFIELDER
9 羅 哉捷
ルオ・ウエイイエ Weichieh Lo

外野手 / OUTFIELDER
14 許 元泰
シュイ・ユアヌイ Tai Hsu

外野手 / OUTFIELDER
19 林 聖榮
リン・ジョンルウォン Shengrong Lin



Group B

ベネズエラ / VENEZUELA



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM モゴジョン メンデス・アルヘニス ラファエル Argenis Rafael Mogollon Mendez	監督 / MANAGER サンブリア マルティネス・リチャード エラディオ Richard Eladio Sanabria Martinez	コーチ / COACH ペニヤ トレホ・ホセ アントニオ Jose Antonio Peña Trejo	コーチ / COACH アルバレス ロサダ・クレメンテ ラファエク Clemente Rafael Alvarez Lozada	コーチ / COACH トバル メンデス・カリル ロリイ Caryl Rory Tovar Mendez
--	---	---	---	---

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER 1 ロンドン カロ・ミゲル エリアス Miguel Elias Rondon Caro	投手 / PITCHER 7 ガラテ モンティージャ・カルロス アントニオ Carlos Antonio Guarate Montilla	投手 / PITCHER 11 ガジャルド ラモス・リチャード エドゥアルド Richard Edgardo Gallardo Ramos	投手 / PITCHER 12 ウルタド ペニヤ・カルロス ホセ Carlos Jose Hurtado Peña
投手 / PITCHER 13 コーリイ ロドリゲス・エリアス マテオ Elias Mateo Koury Rodriguez	投手 / PITCHER 36 ベタンコル カステイージョ・カルロス エドゥアルド Carlos Eduardo Betancourt Castillo	投手 / PITCHER ラスカロ アルバレス・ロニエル エドゥアルド Ronier Eduardo Lascarro Alvarez	投手 / PITCHER バイバ ベヘラノ・マリオ エンリケ Mario Enrique Pavia Bejarano
捕手 / CATCHER 2 グティエレス サバラ・セルヒオ ダニエル Sergio Daniel Gutierrez Zabala	捕手 / CATCHER 15 マイス サパタ・ミゲル ガブリエル Miguel Gabriel Maiz Zapata	捕手 / CATCHER 23 シルバ オバジェス・ルイス アルフレド Luis Alfredo Silva Ovalles	捕手 / CATCHER 33 マルカノ イバレト・ダビ アレハンドロ David Alejandro Marcano Ibarreto
内野手 / INFIELDER 3 モラ ロペス・サンデル ホセ Sander Jose Mora Lopez	内野手 / INFIELDER 10 ロハス ロドリゲス・ファン ホセ Juan Jose Rojas Rodriguez	内野手 / INFIELDER 17 カステイージョ・ボルハ・スダニエル アレハンドロ Daniel Alejandro Castillo Borjas	内野手 / INFIELDER ゴンサレス アスカニオ・ヘスス アンドレス Jesus Andres Gonzalez Ascanio
外野手 / OUTFIELDER 5 オレッchia セラノ・ヘスス アレハンドロ Jesus Alejandro Orecchia Serrano	外野手 / OUTFIELDER 6 ロドリゲス フアリド・マウリシオ アレハンドロ Mauricio Alejandro Rodriguez Fajardo	外野手 / OUTFIELDER 20 マルティネス エンリケス・ペドロ ミゲル Pedro Miguel Martinez Henriquez	外野手 / OUTFIELDER レオン アブレウ ヘスス・アルベルト Jesus Alberto Leon Abreu



Group B

メキシコ / MEXICO



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM マルティネス ゴンサレス・ロドルフォ Rodolfo Martinez Gonzalez	監督 / MANAGER ミゲル・フローレス Miguel Angel Flores Gonzalez	コーチ / COACH フローレス アギラル・ファン ルイス Juan Luis Flores Aguilar	コーチ / COACH レアル・ヘラルド Gerardo Javier Leal Perez	コーチ / COACH サウセド・ロベルト Roberto Saucedo Montalvo
---	--	--	---	---

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER 1 フランシスコ・ペロネス Asis Francisco Berrones Martinez	投手 / PITCHER 8 ビジャカーニャ モラレス・フェルナンド アルフレド Fernando Alfredo Villicana Morales	投手 / PITCHER 11 バレンスエラ・オスカル Oscar Valenzuela Patron	投手 / PITCHER 21 フェルナンデス・セサル Cesar Adrian Fernandez Hernandez
投手 / PITCHER 24 アギーレ グスマン・カルロス ホセ Marcelo Jose Aguirre Guzman	投手 / PITCHER 28 モレノ エレラ・ピクトル Victor Moreno Herrera	投手 / PITCHER 35 チャベス ゴトイ・クリスティアン エルネスト Christian Ernesto Chavez Godoy	投手 / PITCHER 38 ロペス・ミサエル Misael Lopez Mendivil
捕手 / CATCHER 5 ガルシア・ケビン Kevin Geovanny Garcia Sotelo	捕手 / CATCHER 13 ゲレロ・ハレ Jared Orlando Guerrero Gonzalez	捕手 / CATCHER 44 セリス ロペス・リカルド Ricardo Celis Lopez	内野手 / INFIELDER 7 ブルシアガ ヘルナンデス・セバスティアン Sebastian Burciaga Hernandez
内野手 / INFIELDER 12 バジェステロス・ド・アルテオ・マール アレハンドロ Omar Alejandro Ballesteros Duarte	内野手 / INFIELDER 15 パラフォクス・アブラアム Abraham Palafox Colmenero	内野手 / INFIELDER 27 ガルサ・ファン Juan Jesus Garza Angulo	内野手 / INFIELDER 32 フレグリ リイス・ブラデミル ティオニシオ Bladimir Dionicio Fregoso Ruiz
内野手 / INFIELDER 99 ロドリゲス カレオン・ダニエル グエルシンド Danier Gumercindo Rodriguez Carreon	外野手 / OUTFIELDER 18 ヘスス・カステイージョ Jesus Rodrigo Castillo Reyes	外野手 / OUTFIELDER 22 サスエタ・ピクトル Victor Manuel Zazueta De La Paz	外野手 / OUTFIELDER 70 セルヒオ・ビジャルバ ロハス Sergio Villalba Rojas



Group B

パナマ / PANAMA



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM レルス・アニバル Anibal Reluz	監督 / MANAGER ロドリゲス・マヌエル Manuel Rodriguez	コーチ / COACH マドリス・イルビン Irving Madriz	コーチ / COACH ロペス・クリストバル Cristobal Lopez	コーチ / COACH マルティネス・フランシスコ Francisco Martinez
---	--	---	--	--

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER 2 ベガ・アリエル Ariel Vega	投手 / PITCHER 5 セデニョ・ホセ Jose Cedeño	投手 / PITCHER 6 レモン・ホルヘ Jorge Remon	投手 / PITCHER 15 カバジェロ・ホナサン Jonathan Caballero
投手 / PITCHER 32 ロドリゲス・カタリノ Catalino Rodriguez	投手 / PITCHER 37 ゴンサレス・フリオ Julio Gonzalez	捕手 / CATCHER 13 モラレス・セケンディノ Secundino Morales	捕手 / CATCHER 13 サンチェス・ブライアン Bryan Sanchez
捕手 / CATCHER 18 アイスブルア・ファン Juan Aizprua	捕手 / CATCHER 24 ビジャロボス・ウゴ Hugo Villalobos	内野手 / INFILDER 10 スアレス・ノエル Noel Suarez	内野手 / INFILDER 17 ヒメネス・レオナルド Leonardo Jimenez
内野手 / INFILDER 20 アグラサル・ホルダン Jordan Agrazal	内野手 / INFILDER 29 モラレス・アブディエル Abdiel Morales	内野手 / INFILDER 42 カスティージョ・ダビ David Castillo	内野手 / INFILDER 72 モンテロ・アドリアン Adrian Montero
外野手 / OUTFIELDER 8 エリス・ビクトル Victor Ellis	外野手 / OUTFIELDER 9 アンドレデ・リカルド Ricardo Andrade	外野手 / OUTFIELDER 30 ゴメス・マウリセ Maurice Gomez	外野手 / OUTFIELDER 99 ゴンサレス・フェルナンド Fernando Gonzalez



Group B

ニュージーランド / NEW ZEALAND



→ スタッフ STAFF

団長 / HEAD OF THE TEAM ラフ・アダム Adam Lough	監督 / MANAGER シミズ・ナオユキ Naoyuki Shimizu	コーチ / COACH エリソン・ショーン Sean Ellison	コーチ / COACH ナカオ・トシキ Toshiki Nakao	コーチ / COACH パエワイ・リキ Riki Paewai
---	---	--	---	---------------------------------------

→ 選手 PLAYERS

投手 / PITCHER 2 ドーソン・杰イデン Jaden Dawson	投手 / PITCHER 4 リー・ドン・ジョー Dong joo Lee	投手 / PITCHER 12 キム・ミンジャエ Minjae Kim	投手 / PITCHER 13 ビショップ・フェンザ Faenza Bishop
投手 / PITCHER 14 ペリティ・ミショナーレ Misionare Periti	投手 / PITCHER 16 フェガン・マシュー Matthew Fegan	捕手 / CATCHER 11 レウガ・マックスウェル Maxwell Leuga	捕手 / CATCHER 19 ヤスエ・カズヤ Kazuya Yasue
内野手 / INFILDER 6 ナカオ・タイチ Taichi Nakao	内野手 / INFILDER 9 ボーラー・タイロン Tyrone Boaler	内野手 / INFILDER 17 ロングスタッフ・リース Reece Longstaff	内野手 / INFILDER 21 ウッジャー・ジャレット・ティモティ Jared Timoti Woodger
内野手 / INFILDER 22 レピア・トукテイフ Tukuteihu Repia	内野手 / INFILDER 23 バシック・リアム Liam Bassick	外野手 / OUTFIELDER 1 カフィ・モヒ Mohi Kahui	外野手 / OUTFIELDER 3 フセ・リョウマ Ryoma Fuse
外野手 / OUTFIELDER 15 ラウドン・ハリソン Harrison Loudon	外野手 / OUTFIELDER 18 エリオット・ドミニク Dominic Elliot	外野手 / OUTFIELDER 20 レピア・フリワカ Huriwaka Repia	外野手 / OUTFIELDER 25 フエガイガ・マーカス Marcus Feagaiga

第三章

試合記録

大会スケジュール及び試合結果

●大会形式

9イニング制

指名打者制度は採用しない

●コールドゲーム

5回15点差以上、7回10点差以上でコールドゲーム
最終戦を除く(3位決定戦は適用)

●出場国・地域

世界野球・ソフトボール連盟(WBSC)に加盟している国と
地域の15歳以下の選手で構成された12の代表チームが
出場

Group A	
 日本(1)	 韓国(4)
 キューバ(5)	 オーストラリア(13)
 チェコ(16)	 コロンビア(20)

●投球数の制限

1~35球 休息日なし

36~50球 休息日1日

51~65球 休息日2日

66~80球 休息日3日

最大95球 休息日4日

(95球を超える投球数は認められない)

●タイブレーク

10回以降、無死走者一・二塁から再開

Group B	
 アメリカ(2)	 チャイニーズ・タイペイ(3)
 ベネズエラ(6)	 メキシコ(7)
 パナマ(17)	 ニュージーランド(30)

※()内の数字はWBSC世界野球ランキング

オープニングラウンド

日時	No.	開始時間	ホーム	ビジター	会場	No.	開始時間	ホーム	ビジター	会場
7/29 (金)	1	9:00	韓国	vs チェコ	いわきグリーンスタジアム	2	9:00	ベネズエラ	vs メキシコ	南部スタジアム
	3	12:00	パナマ	vs ニュージーランド	平野球場	4	13:00	アメリカ	vs チャイニーズ・タイペイ	いわきグリーンスタジアム
	5	13:00	キューバ	vs コロンビア	南部スタジアム		17:30	開会式		いわきグリーンスタジアム
	6	19:00		オーストラリア vs 日本						いわきグリーンスタジアム
7/30 (土)	7	9:00	チャイニーズ・タイペイ	vs パナマ	いわきグリーンスタジアム	8	10:00	ニュージーランド	vs メキシコ	南部スタジアム
	9	13:30	チェコ	vs オーストラリア	平野球場	10	13:30	韓国	vs コロンビア	いわきグリーンスタジアム
	11	15:00	アメリカ	vs ベネズエラ	南部スタジアム	12	18:00	日本	vs キューバ	いわきグリーンスタジアム
7/31 (日)	13	9:00	チャイニーズ・タイペイ	vs メキシコ	いわきグリーンスタジアム	14	10:00	コロンビア	vs チェコ	南部スタジアム
	15	13:30	ニュージーランド	vs ベネズエラ	平野球場	16	13:30	日本	vs 韓国	いわきグリーンスタジアム
	17	15:00	キューバ	vs オーストラリア	南部スタジアム	18	18:00	パナマ	vs アメリカ	いわきグリーンスタジアム
8/1 (月)	19	9:00	ベネズエラ	vs チャイニーズ・タイペイ	いわきグリーンスタジアム	20	10:00	コロンビア	vs オーストラリア	南部スタジアム
	21	13:30	アメリカ	vs ニュージーランド	平野球場	22	13:30	韓国	vs キューバ	いわきグリーンスタジアム
	23	15:00	メキシコ	vs パナマ	南部スタジアム	24	18:00	チェコ	vs 日本	いわきグリーンスタジアム
8/2 (火)	25	9:00	オーストラリア	vs 韓国	いわきグリーンスタジアム	26	10:00	ベネズエラ	vs パナマ	南部スタジアム
	27	13:30	メキシコ	vs アメリカ	平野球場	28	13:30	チャイニーズ・タイペイ	vs ニュージーランド	いわきグリーンスタジアム
	29	15:00	キューバ	vs チェコ	南部スタジアム	30	18:00	日本	vs コロンビア	いわきグリーンスタジアム
8/3 (水)					予備日					

オープニングラウンド試合結果

Group A		試合	勝	敗	勝率	差
日本		5	5	0	1.000	-
キューバ		5	3	2	.600	2.0
コロンビア		5	3	2	.600	2.0
韓国		5	2	3	.400	3.0
チェコ		5	1	4	.200	4.0
オーストラリア		5	1	4	.200	4.0

Group B		試合	勝	敗	勝率	差
アメリカ		5	5	0	1.000	-
パナマ		5	3	2	.600	2.0
ベネズエラ		5	3	2	.600	2.0
メキシコ		5	2	3	.400	3.0
チャイニーズ・タイペイ		5	2	3	.400	3.0
ニュージーランド		5	0	5	.000	5.0

オープニングラウンドの各グループ上位3チームが「スーパーラウンド」へ進出。4位~6位チームが「順位決定ラウンド」へ。

スーパーラウンド

スーパー ラウンド					順位決定ラウンド					
日時	No.	開始時間	ホーム	ビジター	会場	No.	開始時間	ホーム	ビジター	会場
8/4 (木)	31	9:00	パナマ	vs コロンビア	いわきグリーンスタジアム	34	10:00	チェコ	vs ニュージーランド	南部スタジアム
	32	13:30	アメリカ	vs キューバ	いわきグリーンスタジアム	35	13:30	チャイニーズ・タイペイ	vs オーストラリア	平野球場
	33	18:00	日本	vs ベネズエラ	いわきグリーンスタジアム	36	15:00	韓国	vs メキシコ	南部スタジアム
8/5 (金)	37	9:00	パナマ	vs キューバ	いわきグリーンスタジアム	40	10:00	ニュージーランド	vs オーストラリア	南部スタジアム
	38	15:00	ベネズエラ	vs コロンビア	南部スタジアム	41	13:30	メキシコ	vs チェコ	平野球場
	39	18:00	日本	vs アメリカ	いわきグリーンスタジアム	42	13:30	チャイニーズ・タイペイ	vs 韓国	いわきグリーンスタジアム
8/6 (土)	43	9:00	キューバ	vs ベネズエラ	いわきグリーンスタジアム	46	10:00	韓国	vs ニュージーランド	南部スタジアム
	44	13:30	アメリカ	vs コロンビア	いわきグリーンスタジアム	47	13:30	チャイニーズ・タイペイ	vs チェコ	平野球場
	45	18:00	日本	vs パナマ	いわきグリーンスタジアム	48	15:00	メキシコ	vs オーストラリア	南部スタジアム

スーパー ラウンド 試合結果

	試合	勝	敗	勝率	差
日本	5	4	1	.800	-
キューバ	5	4	1	.800	0.0
アメリカ	5	3	2	.600	1.0
パナマ	5	2	3	.400	2.0
コロンビア	5	1	4	.200	3.0
ベネズエラ	5	1	4	.200	3.0

スーパー ラウンドの上位 2 チームが決勝戦へ。3 位、4 位チームが3 位決定戦へ進出。

決勝戦、3 位決定戦

日時	No.	開始時間	試合名	ホーム	ビジター
8/7 (日)	49	10:00	3位決定戦	アメリカ	vs パナマ
	50	14:30	決勝戦	日本	vs キューバ
閉会式					

会場はすべていわきグリーンスタジアム。



大会期間中の試合観戦者数・会場来場者数

最終順位	
1	キューバ (2 大会連続 2 回目)
2	日本
3	アメリカ
4	パナマ
5	ベネズエラ
6	コロンビア
7	チャイニーズ・タイペイ
8	韓国
9	メキシコ
10	チェコ
11	オーストラリア
12	ニュージーランド

日付	試合観戦者数	会場来場者数*
7/25	—	280 人
7/26	—	290 人
7/27	—	610 人
7/28	—	840 人
7/29	2,370 人	3,260 人
7/30	6,570 人	7,450 人
7/31	6,491 人	7,361 人
8/1	3,200 人	4,080 人
8/2	5,150 人	6,030 人
8/3	—	840 人
8/4	1,425 人	2,295 人
8/5	5,230 人	6,110 人
8/6	2,445 人	3,325 人
8/7	3,500 人	4,380 人
計	36,381 人	47,151 人 **

* 試合観戦者数+運営スタッフ+報道+関係者等の総数

** 会場来場者数(47,151 人)の内、海外からの来市者数は 4,648 人(全体の約 10%)

01 オープニングラウンド (Group A)

韓国 - チェコ

7月29日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
ČESKÁ REPUBLIKA	0	0	1	0	0	3	0			4	8	0
韓国	2	1	6	1	4	0	X			14	12	3



02 オープニングラウンド (Group B)

ベネズエラ - メキシコ

7月29日 南部スタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
MEXICO	0	0	0	0	1	0	0			1	5	0
VENEZUELA	2	1	0	0	0	3	5X			11	8	0



03 オープニングラウンド (Group B)

パナマ - ニュージーランド

7月29日 平野球場 12:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
NEW ZEALAND	0	0	0	0	1	0				1	2	6
PANAMA	0	1	1	2	8	4X				16	13	0



04 オープニングラウンド (Group B)

アメリカ - チリ

7月29日 いわきグリーンスタジアム 13:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
CHILE	0	0	0	0	3					3	7	1
UNITED STATES	4	2	4	6	2X					18	16	1



05 オープニングラウンド (Group A)

キューバ - コロンビア

7月29日 南部スタジアム 13:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
COLUMBIA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
CUBA	0	1	1	1	0	0	2	0	X	5	13	0



06 オープニングラウンド (Group A)

オーストラリア - 日本

7月29日 いわきグリーンスタジアム 19:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	7	4	0	1	1	0			13	11	1
	0	0	0	0	0	0	0			0	4	6



07 オープニングラウンド (Group B)

チャイニーズ・タイペイ - パナマ

7月30日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	1	0	1	0	0	0	0	4	0	6	9	1
	0	1	0	1	0	0	0	0	2	4	5	1

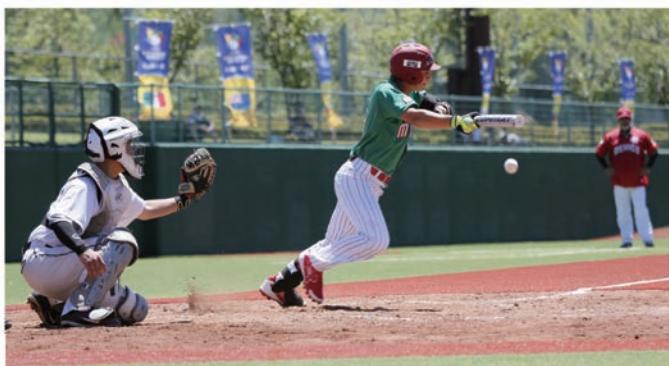


08 オープニングラウンド (Group B)

ニュージーランド - メキシコ

7月30日 南部スタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	1	2	3	1	1	3	0	11	15	2
	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3	5	2



09 オープニングラウンド (Group A)

チェコ - オーストラリア

7月30日 平野球場 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0			0	3	1
	0	0	0	0	0	0	10X			10	7	2



10 オープニングラウンド (Group A)

韓国 - コロンビア

7月30日 いわきグリーンスタジアム 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0	7	3	10	12	3
	1	1	0	0	0	0	3	0	0	5	12	2



11 オープニングラウンド (Group B)

アメリカ - ベネズエラ

7月30日 南部スタジアム 15:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	8	1
	0	0	0	0	0	2	2	0	X	4	4	1



12 オープニングラウンド (Group A)

日本 - キューバ

7月30日 いわきグリーンスタジアム 18:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
	0	0	0	2	1	0	0	1	X	4	7	1



13 オープニングラウンド (Group B)

チャニース・タイペイ - メキシコ

7月31日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	8	14
	0	0	6	0	0	2	0	0	1X	9	8	1



14 オープニングラウンド (Group A)

コロンビア - チェコ

7月31日 南部スタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	2	0	0	0	0	2	4	5	4
	0	1	0	0	2	3	0	3	X	9	12	2



15 オープニングラウンド (Group B)

ニュージーランド - ベネズエラ

7月31日 平野球場 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	3	0	4	3	4	2	0			16	14	1
	0	2	1	0	0	0	0			3	3	4



16 オープニングラウンド (Group A)

日本 - 韓国

7月31日 いわきグリーンスタジアム 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	3	0	0	1	0	0			4	9	3
	4	4	0	2	0	5	X			15	12	0



17 オープニングラウンド (Group A)

キューバ - オーストラリア

7月31日 南部スタジアム 15:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3	6	1
	1	0	3	0	0	0	0	0	X	4	7	1



18 オープニングラウンド (Group B)

パナマ - アメリカ

7月31日 いわきグリーンスタジアム 18:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	1	3	4	3	0	0			11	11	1
	0	0	0	0	1	0	0			1	6	1



19 オープニングラウンド (Group B)

ベネズエラ - チャニス・タハイ

8月1日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	3	0	0	0	1	2	0	2	0	8	11	1
	0	0	0	3	1	0	3	3	X	10	13	4



20 オープニングラウンド (Group A)

コロンビア - オーストラリア

8月1日 南部スタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0			0	2	1
	3	0	2	4	3	0	X			12	11	0



21 オープニングラウンド (Group B)

アメリカ - ニュージーランド

8月1日 平野球場 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
NZL	0	0	0	1	0	0				1	6	2
USA	5	2	2	1	3	3X				16	16	2



22 オープニングラウンド (Group A)

韓国 - キューバ

8月1日 いわきグリーンスタジアム 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
CUB	0	1	0	0	0	0	1	0	1	3	10	1
KOR	2	0	0	0	1	0	0	3	X	6	10	0



23 オープニングラウンド (Group B)

メキシコ - パナマ

8月1日 南部スタジアム 15:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
PAN	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	7	1
MEX	1	0	1	0	0	0	1	2	X	5	8	1



24 オープニングラウンド (Group A)

チェコ - 日本

8月1日 いわきグリーンスタジアム 18:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
JPN	3	4	0	1	7					15	14	1
CZE	0	0	0	0	0					0	1	3



25 オープニングラウンド (Group A)

オーストラリア - 韓国

8月2日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
KOR	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	9	2
AUS	0	0	3	0	0	0	1	0	X	4	10	2



26 オープニングラウンド (Group B)

ベネズエラ - パナマ

8月2日 南部スタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	9	2
	0	0	3	0	0	0	1	0	X	4	10	2



27 オープニングラウンド (Group B)

メキシコ - アメリカ

8月2日 平野球場 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	2	0	6	1	4	3				16	11	0
	0	0	0	0	0	0				0	2	2



28 オープニングラウンド (Group B)

チャイニース・タイペイ - ニュージーランド

8月2日 いわきグリーンスタジアム 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	1	0	2	0	0	0	0	0	1	4	7	3
	3	0	1	0	0	4	0	2	X	10	12	2



29 オープニングラウンド (Group A)

キューバ - チェコ

8月2日 南部スタジアム 15:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	1	0	0		1	5	4
	1	0	4	5	0	0	0	1X		11	10	0



30 オープニングラウンド (Group A)

日本 - コロンビア

8月2日 いわきグリーンスタジアム 18:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	1	0	2	0	1	0	0	2	6	7	5
	0	2	2	5	1	0	0	0	X	10	3	0



31 スーパーラウンド

パナマ - コロンビア

8月4日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7	5
	3	0	5	3	2	0	0	1X		14	15	0



32 スーパーラウンド

アメリカ - キューバ

8月4日 いわきグリーンスタジアム 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	1	0	0	1	6	2	1	0	0	11	15	0
	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	6	5



33 スーパーラウンド

日本 - ベネズエラ

8月4日 いわきグリーンスタジアム 18:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1
	1	0	0	4	0	2	1	0	X	8	9	0



34 順位決定ラウンド

チェコ - ニュージーランド

8月4日 南部スタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
	7	2	0	0	0	0	0	1X		10	9	0



35 順位決定ラウンド

チャニース・タイペイ - オーストラリア

8月4日 平野球場 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	3
	3	1	3	1	0	0	0	0	X	8	13	1



36 順位決定ラウンド

韓国 - メキシコ

8月4日 南部スタジアム 15:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
メキシコ	0	0	0	2	0	0	2			4	8	3
韓国	1	0	3	2	4	0	4X			14	11	2



37 スーパーラウンド

パナマ - キューバ

8月5日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
キューバ	1	0	0	0	0	1	0	1	2	5	15	1
パナマ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	5	3



38 スーパーラウンド

ベネズエラ - コロンビア

8月5日 南部スタジアム 15:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
コロンビア	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	5	1
ベネズエラ	2	2	0	1	0	0	0	0	X	5	10	2



39 スーパーラウンド

日本 - アメリカ

8月5日 いわきグリーンスタジアム 18:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
アメリカ	0	0	0	0	1	1	0	2	1	5	6	1
日本	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	5	2



40 順位決定ラウンド

ニュージーランド - オーストラリア

8月5日 南部スタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
オーストラリア	0	1	1	2	1	14	1	0	5	25	21	1
ニュージーランド	2	0	1	1	4	3	0	0	0	11	13	4



4.1 順位決定ラウンド

メキシコ - チェコ

8月5日 平野球場 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
メキシコ	0	0	0	3	0	0	0	1	0	4	6	2
チェコ	1	2	0	2	0	3	0	1	X	9	15	2



4.2 順位決定ラウンド

チャイニーズ・タイペイ - 韓国

8月5日 いわきグリーンスタジアム 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
チャイニーズ・タイペイ	1	0	0	0	1	0	0	0	2	4	6	5
韓国	1	2	0	0	0	2	0	0	X	5	8	2



4.3 スーパーラウンド

キューバ - ベネズエラ

8月6日 いわきグリーンスタジアム 9:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
ベネズエラ	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	10	0
キューバ	0	1	0	1	1	1	0	0	X	4	10	0



4.4 スーパーラウンド

アメリカ - コロンビア

8月6日 いわきグリーンスタジアム 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	H	E
コロンビア	0	0	0	2	1	0	0	0	1	3	7	9	5
アメリカ	0	0	0	1	0	0	3	0	0	1	5	8	1



4.5 スーパーラウンド

日本 - パナマ

8月6日 いわきグリーンスタジアム 18:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
パナマ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1
日本	1	1	0	0	0	0	0	0	X	2	4	2



46 順位決定ラウンド

韓国 - ニュージーランド

8月6日 南部スタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0		0	3	1	
	3	3	3	1	0	0	X		10	9	1	



47 順位決定ラウンド

チャイニーズ・タイペイ - チェコ

8月6日 平野球場 13:30

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2
	0	1	2	3	2	0	1	1X		10	12	1



48 順位決定ラウンド

メキシコ - オーストラリア

8月6日 南部スタジアム 15:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	1	1	3	0	0	0	0	0	5	10	1
	3	1	0	1	0	2	1	0	X	8	13	4



49 3位決定戦

アメリカ - パナマ

8月7日 いわきグリーンスタジアム 10:00

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	9	2
	0	1	0	0	0	0	6	1	X	8	12	1



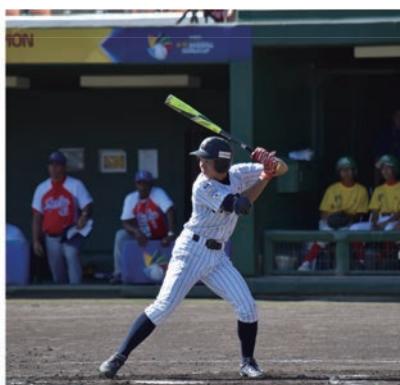
50 決勝戦

日本 - キューバ

8月7日 いわきグリーンスタジアム 14:30

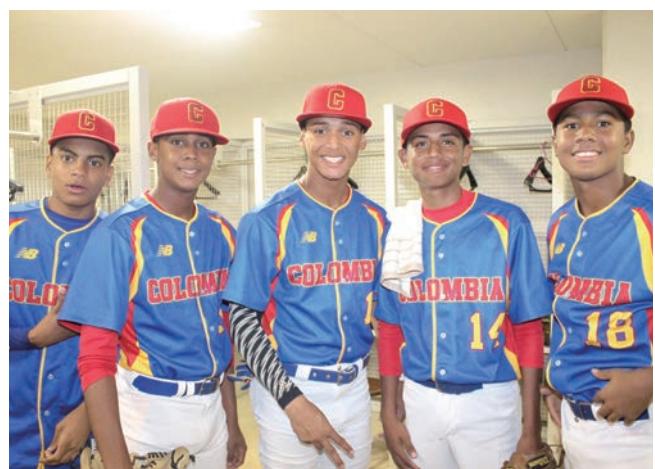


TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H	E
	0	5	0	3	0	0	0	1	0	9	18	1
	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4	13	2

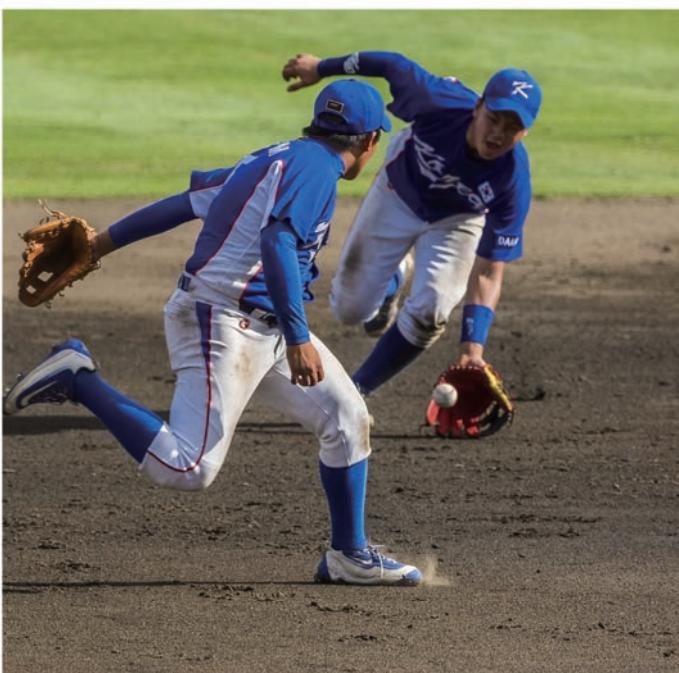


投手	投球回	打者	打数	安打	本塁打	三振	四球	死球	犠打	暴投	ボーグ	失点	自責点
及川 雅貴	1 2/3	11	9	6	0	0	1	0	1	0	0	5	5
不後 祐将	2 1/3	13	11	5	0	1	1	0	1	0	0	3	3
宮城 大弥	3	13	13	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0
増木 武寛	2	9	9	3	0	2	0	0	0	0	0	1	1
合 計	9	46	42	18	0	3	2	0	2	1	0	9	9

打順	守備	打者	打席	打数	安打	打点	四球	三振	犠打	犠飛	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 (遊)	近藤 大樹	5	4	1	1	1	0	0	0	死球	遊	直	-	-	右飛	-	左安打	-	三ゴロ
2 (中)	稻生 賢二	5	5	2	0	0	0	0	0	三ゴロ	-	一ゴロ	-	左飛	-	右安打	-	中安打	
3 (一)	嘉手苅 将太	5	5	4	1	0	1	0	0	中安打	-	空三振	-	-	中安打	中安打	-	右安打	
4 (三)	小山 肇暉	5	5	0	0	0	1	0	0	二ゴ併	-	右飛	-	-	遊ゴ失	右飛	-	空三振	
5 (右)投左	不後 祐将	5	5	0	0	0	1	0	0	-	空三振	-	投ゴロ	-	一ゴ併	-	投ゴロ	一ゴロ	
6 (左)	植田 太陽	2	2	0	0	0	0	0	0	-	一ゴロ	-	ニゴロ	-	-	-	-	-	
投右	宮城 大弥	2	2	1	0	0	0	0	0	-	-	-	-	中飛	-	右3打	-	-	
7 (二)	田口 夢人	4	4	3	1	0	0	0	0	右安打	-	二ゴロ	-	-	左安打	左中2	-	-	
8 (投)右	及川 雅貴	3	2	1	0	1	0	0	0	-	中安打	-	-	四球	-	二ゴ併	-	-	
投	増木 武寛	1	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	二ゴロ	-	-	
9 (捕)	星子 海勢	1	0	0	0	1	0	0	0	四球	-	-	-	-	-	-	-	-	
打捕	野口 海音	3	3	1	0	0	1	0	0	-	-	-	-	空三振	-	三安打	三ゴロ	-	
合 計		41	38	13	3	3	4	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	



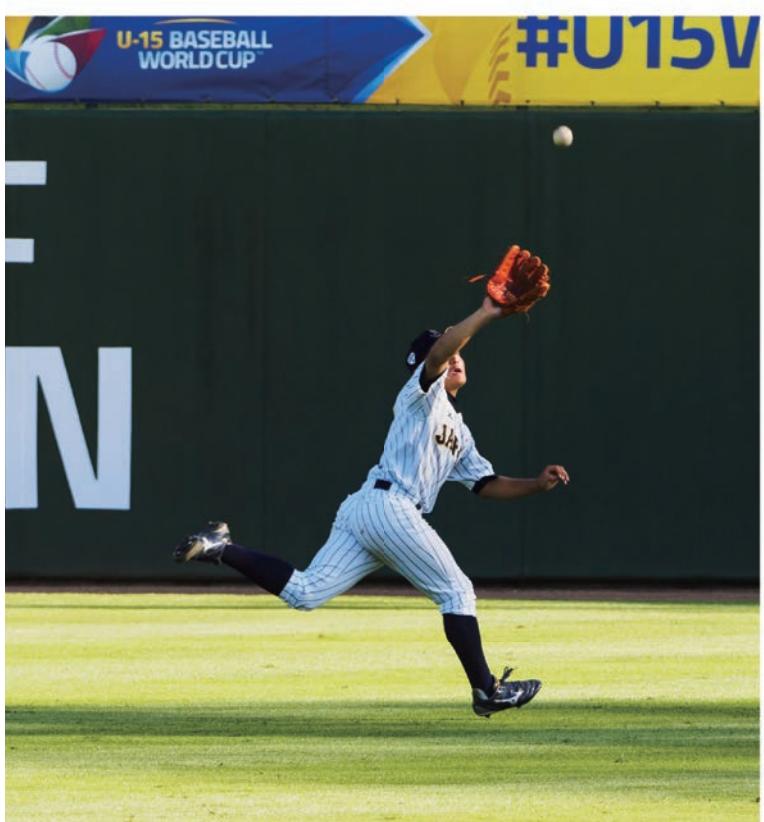




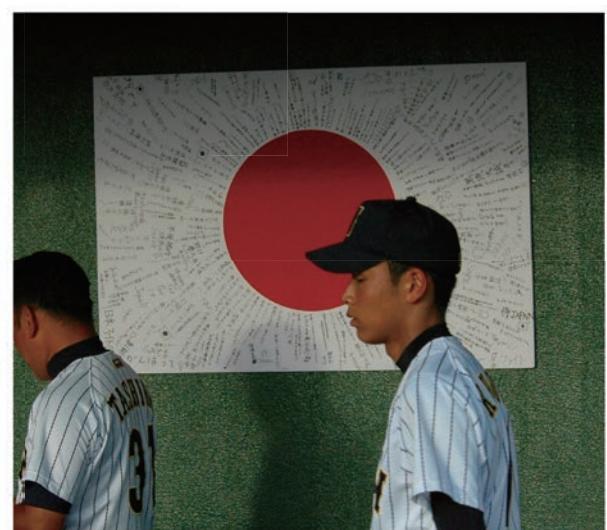














侍ジャパンU-15代表チーム

日本中学硬式野球協議会に加盟する5リーグ（ボーイズ、リトルシニア、ヤング、ボニー、フレッシュ）から推薦された116名の選手が参加し、全国4ブロック5会場でトライアウトを開催。トライアウトには鹿取義隆監督が選考に立ち会い、日本代表選手20名を選出。

トライアウト概要

■中部ブロックトライアウト

日 時 4月16日（土）12時30分開始
会 場 トヨタ自動車グラウンド
参 加 者 19名

■関西ブロックトライアウト

日 時 4月17日（日）9時30分～16時30分
（午前・午後2セット）
会 場 大阪ガスグラウンド
参 加 者 25名

■東日本ブロックトライアウト

日 時 4月23日（土）9時30分～16時30分
（午前・午後2セット）
会 場 東芝総合グラウンド
参 加 者 38名

■九州（鹿児島）ブロックトライアウト

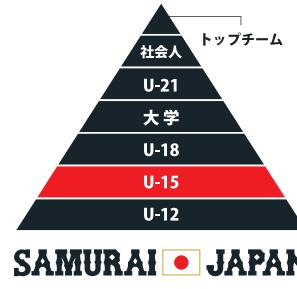
日 時 5月7日（土）9時30分～12時30分
会 場 鴨池ドーム
参 加 者 5名

■九州（福岡）ブロックトライアウト

日 時 5月8日（日）9時30分～16時30分
（午前・午後2セット）
会 場 リヨーユーパン球場
参 加 者 30名



「侍ジャパン」とは、トップチームを筆頭に、社会人、U-21、大学、U-18、U-15、U-12、そして女子野球日本代表を含む、すべての世代の野球日本代表を総称。



SAMURAI JAPAN

© 2015 SAMURAI JAPAN

大会は短期間でゲーム数が多い（10日間で9試合）、球数制限もあるため、投手を多めに選考し、なおかつ他のポジションもできる選手を第一に選考。また、トライアウトでの姿や地域なども考慮し、6月21日（火）にU-15代表20選手を決定。

代表チームは7月2日（土）、3日（日）に練習試合を含む強化合宿を明治大学グランドで実施し、7月24日（日）からはいわき市で直前合宿を行い大会に臨んだ。



東日本ブロックトライアウトには38名が参加し、走塁、キャッチボール、ノック、フリーバッティングなどが行われた。



強化合宿では、西山秀二氏（元広島、巨人捕手）と仁志敏久氏（元巨人、横浜内野手／侍ジャパンU-12監督）が臨時コーチを務めた。

第Ⅳ章

写真でふり返る活動記録

元ヤクルトスワローズ 古田敦也講演会&野球教室 2016.2.23

大会機運の高揚、市内の小中学生への野球普及・振興のため元ヤクルトスワローズで選手、監督として活躍した古田敦也氏を招き講演会、野球教室を開催。

市内小学校では体育の授業を活用し、ティーボールを実施。また、中学校での講演会では、自身が出場したソウルオリンピックやヤクルト監督時代などの貴重な話を聞くことができた。



元読売ジャイアンツ 松本匡史小学校ティーボール教室 2016.4.20

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」100日前のイベントとして、市役所前にカウンドボードを設置。ゲストとして現役時代に巨人の1番バッターとして活躍し、引退後は楽天でコーチを務めた松本匡史氏が来市。セレモニー終了後は、市内小学校を訪問し、ティーボールの授業を開催。



南部スタジアムリニューアール事業 中畠清野球教室 2016.5.1

県内で初めての全面人工芝化工事が完了した南部スタジアムのリニューアール記念として、元横浜DeNAベイスターズ監督の中畠清氏を招き野球教室を開催。また、「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」応援大使就任披露も併せて行い、侍ジャパンのユニフォームを身に纏い野球教室の講師を務めた。野球教室には市内の中学校野球部約200名が参加し、バッティング指導などを受けた。



いわき↔東京 ラッピング高速バス運行式 2016.5.13

大会PRを広域的に展開するため、JRいわき駅とJR東京駅間の高速バスに大会公式ロゴや大会開催期間がデザインされたラッピングバスを運行。斬新なデザインのラッピングバスにより首都圏を中心に広く周知を図ることができた。



U -15 日本代表監督 鹿取義隆小学校ティーボール教室 2016.6.23

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」の本市開催盛り上げのため、また子供たちへの野球普及・振興のためU-15 日本代表監督の鹿取義隆氏が来市。小学校ではティーボールの授業を、中学校では野球部への技術指導を行った。



がんばっぺ！いわきナイター 2016 「巨人 VS 中日」 2016.6.30

東京ドームで開催された読売ジャイアンツ公式戦において、「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」をPR。約43,000人の大観衆の中で、日本代表に選出された黒須選手（中央台北中ーいわきボーイズ）が始球式を務めた他、市内の小学生がグランド内で選手達と触れ合った。



U-15 野球W杯 いわき市小中学校応援給食 2016.7.7

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」を学校給食の側面から応援するため、「野球」にちなんだ特別献立を、市内の全小中学校に計 28,000 食提供。

応援給食は、児童・生徒や教職員への提供の他、PTAにも試食してもらい、学校給食を通じて気運醸成を図るため実施。

【献立】

いちご

15グローブパン

いちご（語呂合わせ）を練り込んだグローブ型パン
いわき市の特産品でもあるいちごをパンに練り込み、
ほんのり香るピンク色のグローブ型パン。



応援ゼリー 【U-15 野球W杯オリジナルデザインのゼリー】

参加国・地域の国旗等をあしらい、応援メッセージが書かれている。

ミートボール

ボールをイメージした野菜入りのミートボール。

他に牛乳、スープ



ワールドクッキング教室 2016.7.21

開催機運高揚のため大会参加国・地域にちなんだ料理を1校1国・地域運動キャプテン校の中学生と市内在住の外国人が一緒に料理を行うワールドクッキング教室を開催。

- 参加者 「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」の1校1国・地域運動キャプテン校となる中学校12校から生徒2名ずつ 計24名
- 講 師 市内在住外国人10人
アメリカ、ペルー（南米関係者）、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、
チャーニーズ・タイペイ、日本

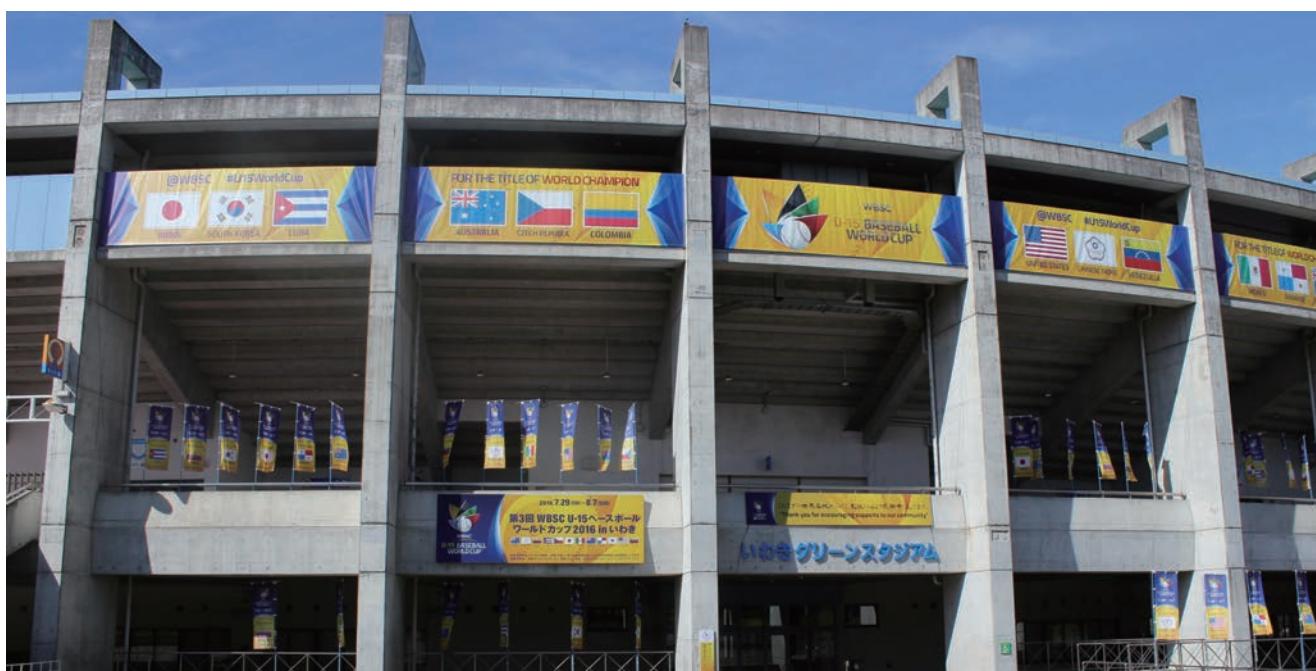
●調理品目

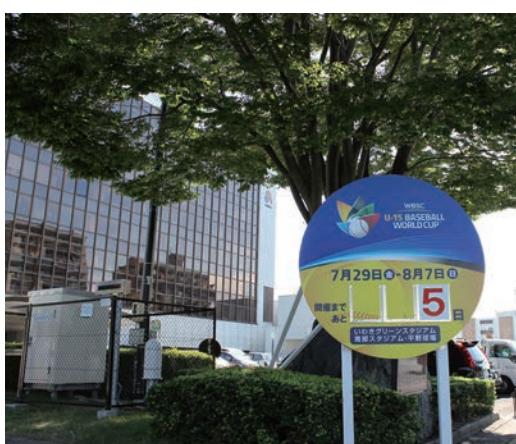
地域	国名	料理	地域	国名	料理
中 南 米	コロンビア	セビチエ（魚介のマリネ）	オセアニア	オーストラリア	アンザックビスケット
	ベネゼエラ	フルーツポンチ	東 欧	ニュージーランド	ラムチョップ
	パナマ	鳥肉を使った炊き込みごはん（ペルー料理）		チェコ	ブルーベリーのクネドリーキ
	キューバ	アロス コン レチエ（デザート）	東 ア ジ ア	韓国	チヂミ
	メキシコ	チャルパス（肉料理）		チャイニーズ・タイペイ	水餃子
	アメリカ	ハンバーガー		日本	カツオのタタキ・刺身 ハラス焼き



開催告知のサイン

開催機運高揚のため、大会前から市内各所に看板やのぼりを設置。市内の玄関口であるJRいわき駅前、主要沿線の他、選手、役員が宿泊するホテル、試合会場、練習会場などを中心に看板、のぼりを設置した。







監督会議、公式記者会見 2016.7.28

大会前日に参加 12 の国と地域の代表者、監督などが出席し、選手のパスポートチェックや大会規則などの確認を行う監督会議を行い、その後、各国・地域の監督が大会への豊富などを語る公式記者会見が行われた。



歓迎レセプション 2016.7.28

福島県主催の歓迎レセプションが行われ、各国・地域の選手、スタッフの他、来賓や地元中学生など約400名が出席。副知事より福島県を代表する民芸品「白河だるま」に各国・地域のユニフォームデザインで装飾されたオリジナルのダルマが贈呈された。



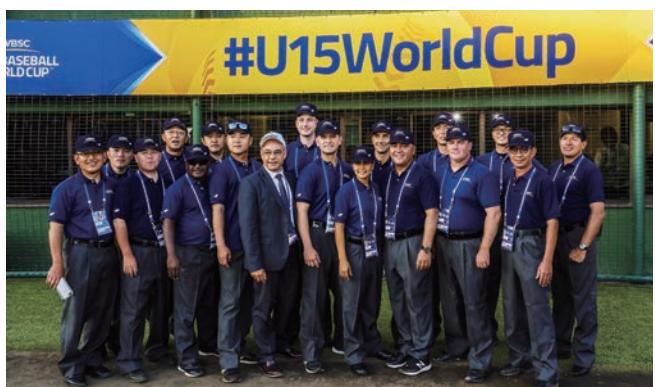


開会式 2016.7.29

大会初日の日本代表戦前に開会式が行われ、各国・地域から出場する選手、スタッフ、役員のアテンダントをボランティアの大学生が務めた。また、地元中学生が、1校1国・地域運動のキャプテン校が製作した横断幕を掲げ、小学生はこれまでの復興支援への感謝のメッセージを掲げ入場した。

また、小学生を含む地元和太鼓のサークルが演奏を披露した他、オープニングゲームの試合間には花火の打ち上げを行うなど、日本文化が随所に折り込まれた開会セレモニーとなった。





都内からの応援ツアー＆交流会 2016.7.30～7.31

U-15 日本代表の応援と地元小学生との交流を目的に、震災以降、交流を続けている都内の小学生野球チームが来市。日中はグランドで試合を行い、その後はナイターで行われた日本戦をスタンドから一緒に応援するなどし、同世代交流を深めた。



Hula と世界の美食の祭典 2016.7.30～7.31

開催趣旨

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」のため世界各国・地域からの来市された方々を歓迎するとともに、東日本大震災及び原発事故により風評被害を受けている福島産の食材の魅力を世界に発信するために開催。

開催概要

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」に出場する国・地域の郷土料理と福島県内の郷土料理を一同に集め、そのすべてに福島県食材を用いて調理、販売。メニューは地元フランス料理のシェフが監修。

ステージイベントも併設して行い、地元高校生によるフラダンス、和太鼓などの郷土芸能なども披露。

●開催期間

平成 28 年 7 月 30 日（土）～31 日（日）の 2 日間

●来場者数

30,000 人（2 日間計）

●出店ブース

30 ブース



第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき 開催記念

Hula と世界の美食の祭典



農林水産省「料理マスターズ」受賞の
Hagi フランス料理店オーナー・シェフ監修

U-15 世界野球大会出場の国と地域の
郷土料理が2日間限定で21世紀の森公園
に集結! この機会に12の国と地域の郷土
料理を食べに行こう!

12の国と地域の料理+フランス

夏休みの始まりに食の世界旅行をしよう。



先着ご来場者の方に無料ふるまい!



福島県最高級 A5ランク

7/30(土)12:00~先着100名様

31(日)12:00~先着100名様



福島県最高級 A5ランク

7/30(土)14:30~先着100名様

31(日)14:00~先着100名様

福島県の食材等を使用して出場する国と地域の郷土料理をつくります。

その他、福島県内の郷土料理も集合!!

入場
無料

7/30 31

開催時間(雨天決行) 10:00~19:00

開催場所: 21世紀の森公園内(多目的広場周辺)

福島県いわき市常磐湯本町上浅貝110-33 21世紀の森公園

お問い合わせ: Hulaと世界の美食の祭典開催委員会

TEL.0246-38-9306

フラガールズ甲子園

フラガールズ甲子園出場校によるフラダンス

いわき総合商科学校・競技場二・農業学校・小名浜高専学校

平野農業学校・郡山高専学校・津木高専学校・日向高専学校



ファイナーライフダンス

スパリゾートハワイアンズ
ファイヤーナイフダンスマッチ「Siva Ola」

司会者 FMいわきベラさん

スケジュール

Hulaと世界の美食の祭典▼ U-15ベースボールワールドカップ2016▼

7/30 土

10:00 開会式	9:00~
10:15 フラダンス(福島県立平商業高等学校)	チャイニーズ・タイパイ VS パナマ
10:45 振る舞い(マミーすいとん)	CHINESE TAIPEI PANAMA
11:00 12の国と地域の料理の紹介	13:30~
11:15 浪江焼麺太國	韓国 VS コロンビア
11:30 フラダンス(カイキナハナマリ子本店フラバング)	SOUTH KOREA COLOMBIA
12:00 振る舞い(福島牛)	18:00~
12:30 じゃんがら(いわき湯本温泉連合青年有志会)	日本 VS キューバ
13:00 照屋実穂ショーフラガール(月の夜はな)	JAPAN CUBA
14:00 フラダンス(福島県立いわき浜高等学校)	会場:いわきグリーンスタジアム
14:30 振る舞い(ゴールドしあげたけの炭火焼き)	
15:00 フラダンス(マリエアナ・ラニコブランズ)	
15:30 金津磐山山荘(会津磐多方祭囃子盆踊り保存会)	
16:00 フラダンス(東日本国際大学附属磐吾高等学校)	
17:00 フラダンス(カハドリ・マモロ・横山ハラハラ)	
17:30 フラダンス(ハーラー・ララーナ)	
18:30 ファイヤーナイフダンスマッチ「Siva Ola」	

7/31 日

10:00 フラダンス(福島県立いわき総合高等学校)	9:00~
10:30 振る舞い(マミーすいとん)	チャイニーズ・タイパイ VS メキシコ
10:45 12の国と地域の料理の紹介	CHINESE TAIPEI MEXICO
11:00 フラダンス(レイホクラ吉田フラスタジオ)	13:30~
11:30 和太鼓(一打の会 燐祇)	日本 VS 韓国
12:00 振る舞い(福島牛)	JAPAN SOUTH KOREA
12:30 照屋実穂ショーフラガール(月の夜はな)	18:00~
13:00 フラダンス(福島県立好間高等学校)	パナマ VS アメリカ
14:00 振る舞い(ゴールドしあげたけの炭火焼き)	PANAMA UNITED STATES
14:30 き乃はちショニー	会場:いわきグリーンスタジアム
15:30 フラダンス(フィオアフラニ糸木フラ教室)	
16:00 フラダンス(磐城第一高等学校)	
16:30 じゃんがら(磐波青年会)	
17:00 フラダンス(福島県立湯本高等学校)	
18:00 フラダンス(クレイジ尚子フララウ)	
18:30 ファイヤーナイフダンスマッチ「Siva Ola」	
19:00 閉会	

県内の郷土芸能

じゃんがら念仏踊り 吉波青年会

じゃんがら念仏踊り いわき湯本温泉連合青年有志会

和太鼓(一打の会 燐祇)

会津磐多方祭囃子盆踊り保存会

ふわふわ 子ども

市民ダンスマッチチーム

平成28年度「福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)」

イベント会場

P1

21世紀の森公園内

開催期間 平成28年7月30日(土)~31日(日)
両日/10:00~19:00(雨天決行)

開催場所 21世紀の森公園内(多目的広場周辺)
お問い合わせ:Hulaと世界の美食の祭典開催委員会
TEL.0246-38-9306

7/30~7/31にグリーンスタジアムに応援に来ていただいた方に抽選で50名様にいわき産蜜(幸水)3kgをプレゼント!! 切り取り繩から切取リストジャム内の「Eゲート」の応募ボックスへ。

住所(〒) _____
名前 _____
電話番号 _____
幸水

1校1国・地域運動

「1校1国・地域運動」とは

イベント開催地の学校が出場する国や地域の中から、応援する国や地域を決め、当該国・地域の文化や言語を学習したり、当該国・地域の選手や子供たちと交流したりして異文化理解を深めようとする活動。

1998年2月の長野オリンピックから始まり、現在ではスポーツイベントに留まらず文化イベントなども含め国際的な拡がりをみせている。

市内の各中学校において応援する国・地域を抽選で決め、事前に当該国・地域の文化や言語を学び、大会期間中は可能な範囲で試合会場に足を運んだ。

また、休養日や試合終了後は、選手と生徒が日本文化やスポーツ交流などを行い、国際感覚を身に着ける貴重な機会を創出した。



●応援横断幕作成

参加国・地域を歓迎する横断幕を各中学校の美術部などが中心となり作成し、練習会場や試合会場に掲げて応援した。また、レプリカを作成し、公共施設等にも掲示するなど、大会PRアイテムとして活用し、機運醸成を図った。

●応援国大使館出前授業

大会前に応援国の駐日大使館から応援国出身者を講師として応援校に招き、国の紹介や言語による応援方法のレクチャー等を通じ、各国についての知識と理解を深めた。

► ベネズエラ・ボリバル共和国大使館 出前授業 (応援校 : 中央台北中学校)

開催日 : 6月29日 (水)

講 師 : 同大使館 文化担当官 : モーリス・レイナ

► コロンビア共和国大使館 出前授業 (応援校 : 平第三中学校)

開催日 : 7月6日 (水)

講 師 : 同大使館 教育・学術協力員 : 永松 パオラ睦美

► チェコ共和国大使館 出前授業 (応援校 : 小名浜第一中学校)

開催日 : 7月7日 (木)

講 師 : 同大使館 駐日大使 : トマーシュ・ドゥブ

●各学校独自の取組み

各校独自に応援国・地域に関する情報受発信や創作活動を行い、応援国・地域への興味や好奇心を高め、応援機運の醸成に繋げた。

- ・ 横断幕デザイン募集及び廊下掲示
- ・ 廊下に応援国の概要掲示
- ・ 昼休み中に、校内放送にて応援国情報提供 など



[横断幕デザイン募集]



[応援国・地域の概要掲示]

1校1国・地域運動 キャプテン校・協力校一覧

No.	国・地域	キャプテン校	協力校
1	コロンビア Colombia	平第三中学校	平第一中学校
2	ベネズエラ Venezuela	中央台北中学校	平第二中学校
3	オーストラリア Australia	四倉中学校	久之浜中学校 小川中学校
4	メキシコ Mexico	大野中学校	草野中学校 藤間中学校
5	韓国 South Korea	内郷第一中学校	好間中学校 赤井中学校
6	チェコ Czech Republic	小名浜第一中学校	江名中学校
7	チャイニーズ・タイペイ Chinese Taipei	泉中学校	小名浜第二中学校
8	アメリカ United States	湯本第一中学校	中央台南中学校
9	日本 Japan	湯本第二中学校	玉川中学校
10	パナマ Panama	湯本第三中学校	磐崎中学校
11	キューバ Cuba	植田中学校	錦中学校 入遠野中学校 上遠野中学校
12	ニュージーランド New Zealand	植田東中学校	勿来第一中学校 勿来第二中学校

応援国大使館出前授業



平第三中学校
コロンビア共和国大使館



中央台北中学校
ベネズエラ・ボリバル共和国大使館



小名浜第一中学校
チェコ共和国大使館

キャプテン校制作 応援横断幕デザイン (W=4.0 m、H=1.2 m)



平第三中学校（コロンビア）



中央台北中学校（ベネズエラ）



植田東中学校（ニュージーランド）



大野中学校（メキシコ）



内郷第一中学校（韓国）



小名浜第一中学校（チェコ）



泉中学校（チャイニーズ・タイペイ）



湯本第一中学校（アメリカ）



湯本第二中学校（日本）



湯本第三中学校中（パナマ）



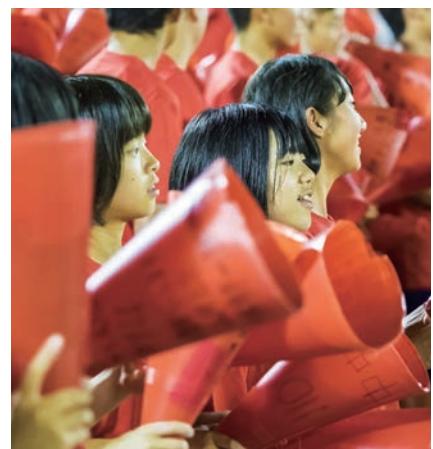
植田中学校（キューバ）

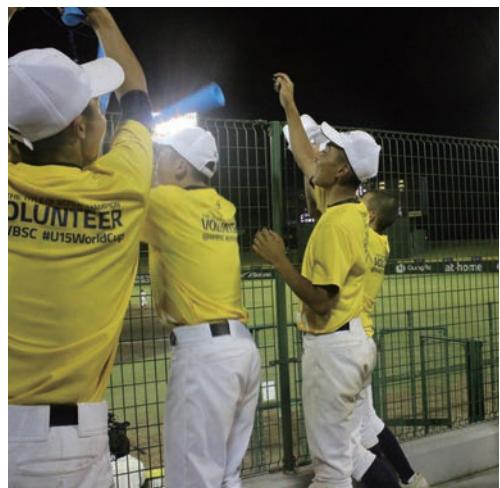


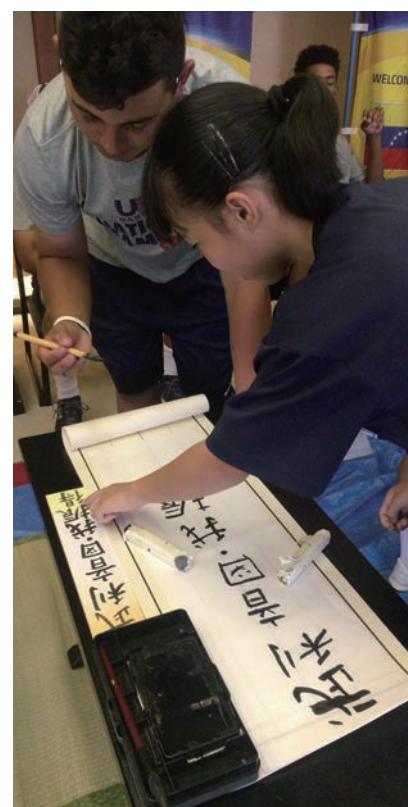
四倉中学校（オーストラリア）



1校1国・地域運動の活動写真

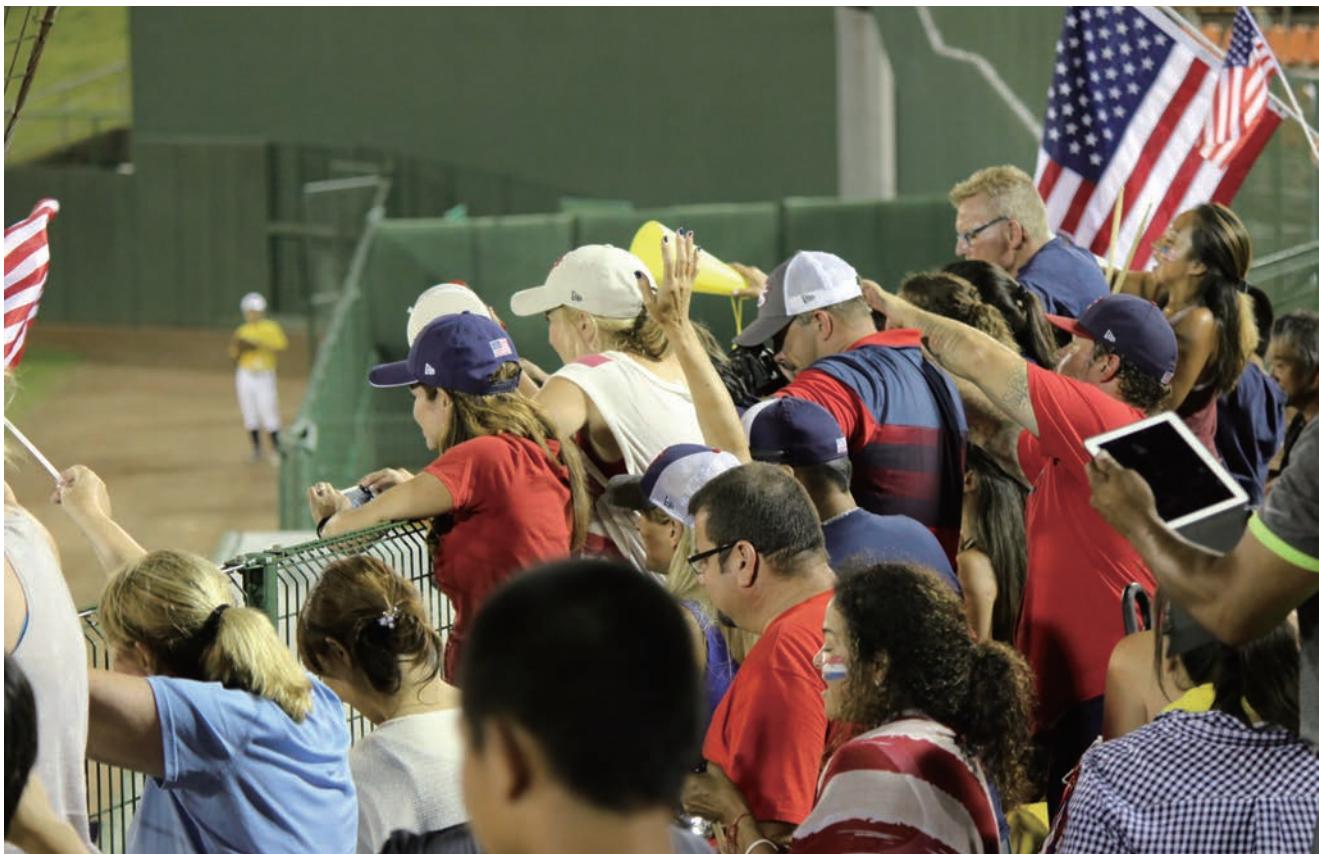






海外からの応援

大会には世界 12 の国と地域（日本を含む）から選手、スタッフの他、応援団が来市した。また、報道関係者、大リーグのスカウトなども来市し、大会期間中を通じ、延べ 4,600 名を超える海外からの来市者があった。

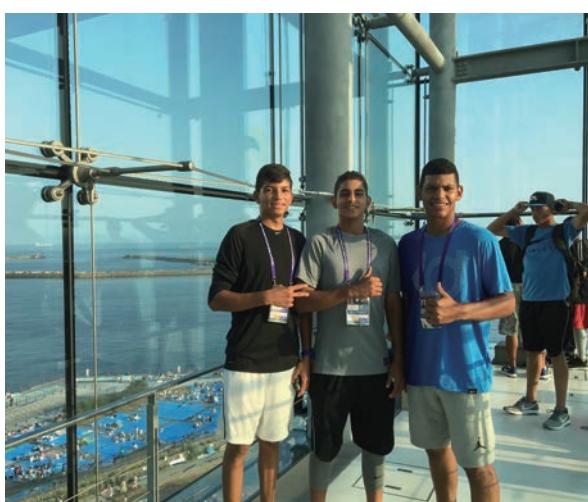




休養日の選手たち

各国・地域の選手は、大会期間中の休養日や試合日は終了後に、市内の観光やショッピングを楽しんだ。日本代表においては、被災地の視察も行い、津波で亡くなられた方に黙とうを奉げた。





WBSC寄贈プレイスポット寄贈式 2016.8.7

「第3回WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」の開催を後世に伝え、また野球競技人口の底辺拡大につながるようにとの想いを込め、大会主催者の世界野球・ソフトボール連盟（WBSC）が一人でも壁当てができる人工芝のプレイスポットをいわき市に寄贈。WBSC専務理事のマイケル・シュミット氏、清水いわき市長が出席し、寄贈セレモニーが行われた。



ボランティアの活躍

大会期間を通して、延べ2,500名を超える方がボランティアとして参加。市内の中学生は、開閉会式のアテンドやグランド整備などを担当。高校生は試合のアナウンス、大学生は試合運営協力などにあたつてもらった。地元企業にも大会前の球場清掃から大会終了まで運営補助などの協力をもらつた。

また、市外から多くの学生が来市され、ボランティアとして大会に参加。特に各国・地域に帯同した通訳は外語大生が務め、大会運営に大きく貢献した。





閉会式

決勝戦終了後、閉会式が行われ、優勝のキューバ、準優勝の日本、3位のアメリカにメダルが贈られた他、個人賞などの贈呈が行われた。閉会式終了後は、選手、スタッフ、役員の他、ボランティアを含めて全員がグランドに降り立ち、2020年に開催される東京五輪での再会を願い、上空から集合写真を撮影した。





空港でのお別れ

滞在期間、チームに帯同した通訳、スタッフも成田空港、羽田空港まで同行。別れを惜しみ涙を流す光景も見られ、各国・地域の選手、スタッフは日本を旅立った。



第V章

寄稿文

大会名称は「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016in いわき」ですが、寄稿文中での大会名称は、文字数の関係上すべて「U-15 ベースボールワールドカップ」に統一させていただいております。

U-15 世代初の銀メダル、大会を通じた選手の成長

侍ジャパン U-15 代表監督

鹿取 義隆（読売新聞スポーツアドバイザー）

まず、大会期間中、試合会場から宿舎、食事にいたるまで万全の環境を整えて下さったいわき市関係者の皆様に御礼申し上げます。また「1校1国・地域運動」で侍ジャパン U-15 代表（以下、日本代表）のキャプテン校となった湯本第二中学校をはじめ市内全12中学校には、連日球場で声援を送って下さり、大会を盛り上げて頂きました。各国とも最高のパフォーマンスを発揮でき、日本代表もこの世代で過去最高となる銀メダルを獲ることができました。

6月下旬に結成された日本代表の選手たちは、いずれも世界を相手に戦えるだけの高い能力を備えながら、「まだまだ中学生だな」と感じる部分がありました。プレーに集中するあまり、野球用具や飲みかけのペットボトルがベンチに散らばっていることがありました。

私は選手たちによく、「ギュッと握られたおにぎりになりなさい」と話していました。一粒、一粒が美味しいお米でも、握られていなければボロボロ崩れてしまいます。チームも同じで、全員が同じ目標に向かって団結しなければ、個々の能力が高くても結果は伴いません。野球がうまいではなく、人としてしっかりしなければ、日の丸を背負う資格はありません。

オープニングラウンドを5連勝しグループ1位通過を決めた翌日の8月3日、休養日を利用して、選手たちと東日本大震災で津波の被害を受けた豊間・薄磯地区を訪ねました。

津波が襲ったぐらいの高さ10㍍の堤防の上に並び、いわき市職員の説明を聞きました。「津波が人命だけでなく家屋を飲み込み、この地区で一番の娛樂だった野球を奪いました。住民は散り散りに住むことになり、生きる活力までも奪われました。大会を通じ被災した人たちを元気にしたい。それが私たちの願いです」

いわき市の皆さんがどんな思いでこの大会を開いたのかを知った選手たちの目には涙が浮かんでいました。別世界の出来事と思い込んでいた現実に、これまで簡単に口にしていた「感謝」の重みを感じ、自分たちに出来る事を考え直したのだと思います。

そして迎えたスーパーラウンド。準決勝のパナマ戦では、息詰まる1点差ゲームをチーム一丸となってものにしました。決勝のキューバ戦は、序盤で大差をつけられたものの、終盤に4点を奪い返す意地を見せてくれました。ベンチの選手まで全員が声をからし味方を鼓舞していました。薄磯海岸で立てた「僕たちに出来るのは最後の最後まで全力で戦う」という誓いを、試合終了の瞬間まで貫いてくれました。敗戦が決まり泣き崩れる選手たちに、スタンドからは温かい拍手、激励の歓声が鳴り止みませんでした。グラウンドとベンチが一体となって向かっていく姿勢が勇気と元気をもたらしてくれたのです。

どこかよそよそしかったメンバーが日ごとに成長し、どこの国にも負けない結束力を培ってくれました。最後のミーティングではチームが解散する寂しさで、キューバに負けた時以上の涙を全員が流していました。そして「甲子園で会おう！そしてU-18で会おう！」と次の目標を立てていました。いわきで植えられた種が、いずれ立派な花を咲かせるその日まで、今後も優しく見守っていただければ、監督としてこれ以上の喜びはありません。いわき市の皆様、ありがとうございました。そしてこれからもどうぞ宜しくお願ひいたします。



U-15ベースボールワールドカップを振り返り

大会応援大使 中畑 清

いわき市は2011年3月11日に発災した東日本大震災以降、何度も足を運んだ地。

震災直後の悲惨な光景は、今でも忘れる事はありません。今大会のメイン球場となった「いわきグリーンスタジアム」は、震災直後、全国から災害派遣活動にかけつけてくれた自衛隊員の宿営地でした。

一日でも早く野球場で野球ができる日を。そんな想いから外野の芝を守るため、外野にテントを張らず、固く冷たい所にテントを張り厳しい住環境の中、災害派遣活動にあたっていた自衛隊員。津波で自宅を失い、避難所で避難生活を送る子ども達に全国から寄せられたグローブなどの野球用具を届けに行った自衛隊員。

激務の災害派遣活動に従事する自衛隊員といつの日か世界中の子ども達がこの野球場でプレーし、笑顔が溢れる光景を夢見たあの日を思い出しました。様々な野球関係者の尽力により、国内で初めてとなる「U-15ベースボールワールドカップ」がこのいわきで開催されることが決まり、震災直後の描いた夢が正夢として結実しました。

「大会応援大使」を担い、サブ球場となった「南部スタジアム」のリニューアルイベントも兼ね、5月には地元いわきの中学生を対象に野球教室を開催しました。自分自身も真新しい「侍ジャパン」のユニフォームに袖を通しましたが、やっぱり気持ちがいい。そして震災当時、小学生だった子ども達の確かな成長も間近に見ることができ、いつも以上に指導に熱が入りました。

7月上旬には都内で日本代表の事前合宿の激励にお邪魔しました。2004年のアテネ五輪で日本代表の指揮をとった経験も踏まえ、世界大会はいろいろな面で大変だろうと思っていたものの、ユニフォームを身に纏った選手達を見ていると実に頼もしく、将来の日本の野球も大いに期待が持てると確信しました。

結果、銀メダルを獲得し、運営面も含め、大成功の大会になったのではないかと思います。大会を通じ、スタンドから日本以外の国・地域の応援を一生懸命していた地元の中学生の姿。感動的でした。世界各地からきた選手たちへの何よりの「おもてなし」だったに違いありません。

日本の野球界は、2012年からトップチームを頂点に社会人、U-23(23歳以下)、大学、U-18、U-15、U-12、そして女子と全ての世代が同じユニホームを着て「世界最強」を目指す「侍ジャapan」が常設化され、バラバラだったプロとアマがひとつになっています。2020年の東京五輪で野球が復活することもあり、このピラミッドの底辺から頂点までのすべてのカテゴリーの力が結集して「金メダル」が取れるように、今回のU-15世代の選手たちもこれから更に頑張ってほしいと思っています。今大会に出場した各チームの選手から、2020年にまた日本に来る選手がいると思います。本当に楽しみです。

そして今回、スタンドから応援してくれた子ども達、大会運営のボランティアに参加してくれた子ども達の成長も楽しみです。

最後に。今大会を通じ、世界に向けて「フクシマは元気です。安心、安全ですよ」とアピールすることができたと思います。まだ震災前にはほど遠い部分も多々あります。継続した情報発信や子ども達の心の復興への取組みも続けていく必要があると感じています。野球はやっぱり素晴らしいスポーツですね。今大会、世界の子ども達の笑顔、日本の子ども達の笑顔をみて再認識しました。

野球を通して、さらなる「フクシマ」の復興を一緒に目指しましょう！



2011年4月にいわきグリーンスタジアムを訪れた際に
自衛隊員一人一人に激励。



被災地の視察でも、活動する自衛隊員を激励。



日本代表の事前合宿を訪問し、選手そして鹿取監督を激励。

『野球の力の源』

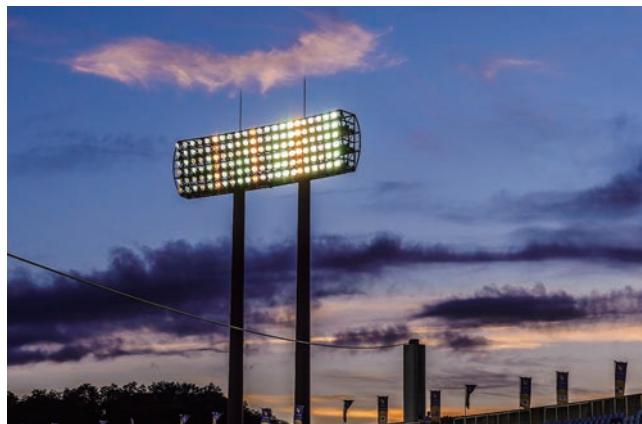
一般財団法人全日本野球協会 高橋 大地

2016年8月7日「U-15ベースボールワールドカップ」が、キューバの優勝、日本の準優勝という成績のもと成功裏に閉幕しました。まず何よりも、大会を成功に導いてくださった大会関係者の皆さん、また選手たちの活躍を応援してくださった多くの方々に厚く御礼申し上げます。

私は大会を運営する立場として、また代表チームの派遣に関わる立場として、本年3月末に初めていわき市を視察に訪れました。その際、大会会場や関係施設に加えて沿岸部も案内いただき、東日本大震災の深い傷跡を目にして大きな衝撃を覚えるとともに、それでも復旧・復興に向けて前向きに日々を送る方々にお会いし、大変な感銘を受けました。

さて、いわき市でも「野球の力で復興を」とうたっていただいているように、「野球には人を元気にする力がある」としばしば耳にします。ただ私はこの言葉を聞くと、この言葉だけでは全てを説明しきれていないところがあると感じます。確かに野球を始めとするスポーツには、人に元気を与える力があると思います。ただその力の源は、一生懸命にプレイする選手たち、それを応援する方たち、そしてそれらを支える多くの関係者の方々から与えられるエネルギーだと私は考えています。今回の大会でも、球場へ足を運んで選手に声援を送ってくださった方々、1校1国・地域運動を通じて各国に声援を送ってくれた中学生たち、中継を通じて応援いただいた方々、球場で運営にあたってくださった多くの大会役員・ボランティアの方々、大会趣旨に賛同し協賛いただいた方々、のぼり旗を立てて盛り上げていただいた商店街の方々、大会を招致していただいたいわき市はもちろん、寝る間も惜しんで準備にあたってくださった市職員はじめ関係者の方々、その他にも多くの方々から本当にたくさんのエネルギーを、今大会はもちろん野球というスポーツそのものに与えていただいたと思っています。もちろん侍ジャパンU-15代表の選手たちも本当に頑張ってくれ、体格差の関係で勝つのが難しい世代にも関わらず、世界一まであと一歩という素晴らしい成績を残してくれました。野球の競技団体に勤める私の立場からすれば、野球のほうこそ、皆さんから本当にたくさんの力、熱い思いをいただきました…と感謝申し上げたい気持ちです。さらに本大会期間中、リオ・オリンピックの直前に行われたIOC総会で、野球とソフトボールが2020年東京オリンピックの追加種目として開催されることが決まったという大きなニュースがありましたが、これも多くの方々の応援、ご支援、ご尽力の賜物です。

最後になりますが、私は野球という競技は、人生に似ていると思っています。ピンチがあって、チャンスがあり、また自己犠牲もあります。しかし何よりも似ているのは、野球がホーム（家）に帰ることを目指すスポーツであるということです。被災地の皆さまがそれぞれの本当の家に帰れる日が近く訪れるこれを祈りつつ、一足先にオリンピックに帰ることができた野球が、また皆さんから多くのエネルギーをいただいて、それを増幅して皆さんに還元できるように、私も協会職員として最大限の務めを果たしていきたいと考えます。これからも野球への厚いご支援を宜しくお願い致します。



メディカルスタッフの立場から

第3回 U-15WBSC ベースボールワールドカップ実行委員会 医師団代表
福島県立医科大学スポーツ医学講座 教授 大歳 憲一

この度、「U-15ベースボールワールドカップ」に医師団代表として参加させていただきました。本大会中に2020年の東京オリンピックで野球・ソフトボール競技が復活することが決定し、本大会は福島でも野球の国際大会が開催できることをアピールする絶好のチャンスもありました。幸い福島県では、福島医大整形外科学講座と福島県理学療法士会メディカルサポートチームが連携し、様々な医療サポートを行ってきた実績がありましたので、大会運営のみならず、医療面においても十分なサポートが提供できることを実証するため、しっかり準備をして大会に望みました。大会では、熱中症や感染症、ケガ等で病院受診が必要になった海外選手が複数名いましたが、入院や手術が必要となるような重症例ではなく、無事に医療サポートをやり遂げることができました。大会期間中は多くの医師や理学療法士の皆様に御協力いただき、また、急病やケガの対応では、いわき市内の多くの医療機関の御支援をいただきました。御協力いただいた皆様にこの場を借りて深謝致します。

今回日本代表は、決勝戦で前回優勝国のキューバに破れはしましたが、準優勝という輝かしい成績を収めることができました。本大会は10日の開催期間のうち休養日は1日のみと思った以上に過酷な日程であり、大会期間中、ホテルのメディカルルームでは、連日遅くまでメディカルスタッフが日本代表選手のケアにあたり、少しでもいいコンディションで試合に臨めるように心掛けていました。しかし、大会後半は疲労が蓄積し、思うようなパフォーマンスが出せない選手もいました。国際大会で勝ち抜くためには、連戦に耐えうる体力は勿論、体のケア。精神面の強化など様々な要素が必要であると実感した大会でした。

今回の大会では、医療チームが実行委員として組織されました。これは過去の大会では例がない新しい取り組みで、本大会での医療サポートがうまく機能した一つの要因ではないかと思います。また、実際に医療サポートを実施していくなかで、薬の選別や調達法、医療機関受診時の手続き、宿舎での対応体制など課題がいくつか見つかりました。今後は、将来の国際大会誘致に向けて、これらの課題をクリアし、よりきめ細かい医療サポート体制を作り上げることを目標にしていきたいと考えております。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただいた、いわき市長様、実行委員事務局の皆様、及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



手弁当の運営は、温かい心のこもった運営。

写真家 高橋 智裕

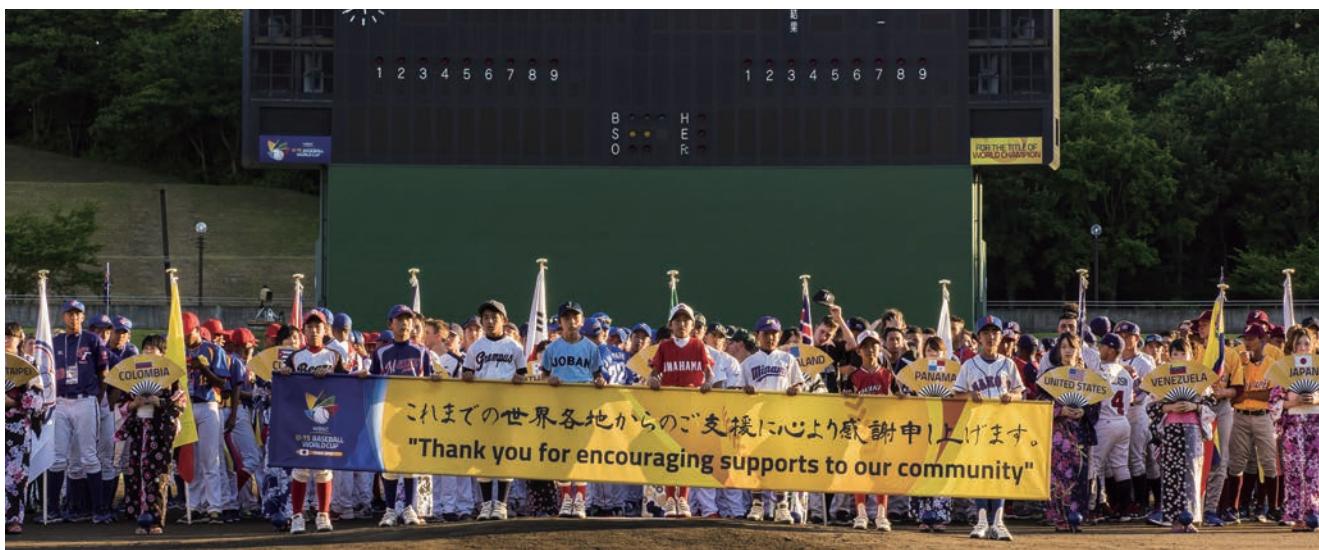
今大会、WBSC のオフィシャルカメラマンとして、レセプション、開閉会式、そして、いわきグリーンスタジアムでの全試合の撮影をさせて頂きました。日本で初めての開催となるこのカテゴリーの野球世界大会が、生まれ育ってきた大好きなこのいわき市で開催されたこと、そしてそんな記念すべき大会のオフィシャルカメラマンを勤めることができたこと、誇りに思います。ファインダーを通して目に飛び込んでくる選手たちの、国を背負ってプレーする姿には、彼らが 15 歳以下の少年たちだということを忘れてしまうくらいの熱い視線がありました。1 球 1 球に見る喜怒哀楽には、中立的立場で客観的に捉えなければならない立場の私ですが、目頭が熱くなる場面もありました。

今大会に出場した各国の選手たちは、間違いなく、将来、その国の野球界を背負っていく金の卵です。数年後、一段とたくましく育った彼らの活躍を観ることを楽しみにしたいと思います。

今大会、私がもっとも印象に残ったのは、いわき市での開催が決まってから大会が終了するまで、選手たちに“素晴らしい環境でプレーして欲しい”、訪れる観客たちに“楽しかった”と思っていただけるように、朝早くから深夜まで、寝る間も惜しんで懸命に尽力していた、実行委員をはじめとするいわき市職員の皆様と、ボランティアで運営を支えていた皆様の姿でした。

ある職員さんが言った「“手弁当”での運営」、スタッフさんたちの活動を毎日目にしてきた私には、この言葉に、“温かく心のこもった大会”という言葉が重なりました。きっと、各国選手やスタッフの方々も、運営に携わった皆様のそんな懸命な想いを感じて帰国されたのではないでしょうか。

東日本大震災発災の 5 年前、沿岸地域の悲惨な光景、原発事故により人々の姿が消えた日々、いわきグリーンスタジアムに自衛隊のテントが並び立っていた日常では考えられない光景からは、各国から選手たちが一同に会し世界一を競い合うことなど想像出来ませんでした。各国の選手たちが並ぶ開会式での光景には目頭が熱くなりました。まだまだいわき市は復興道半ばですが、きっと力強く、素晴らしいふるさといわき市の姿が近い将来戻ることを私は信じています。そして、この大会が試金石になり、2020 年東京オリンピックの野球会場になることを祈念しています。



1校1国・地域運動体験記

いわき市立平第三中学校 伊藤 幸太郎

私は本校の吹奏楽部の一員として、U-15ベースボールワールドカップに参加させていただきました。

本校はコロンビアチームのキャブテン校を務めましたが、ちょうど日本の裏側にある国コロンビアについて、正直わからないことが多く、少し不安でした。でも、そんな不安はあっという間に飛んでいきました。それはワールドカップの一ヶ月前に行われた、本校での出前講座があったからです。

コロンビア大使館から永松パオラ睦美さんが講師として、本校へいらしてくださいました。入場のときから元気あふれる永松さんを見て、私たちも元気になりましたし、また、私たちのコロンビアの印象を、がらっと鮮やかに与えてくれました。もちろん講座も盛り上りました。コロンビアの紹介ビデオを見たり、実際に声を出しながらリズムのいい応援練習をしたりして、教科書には載っていない、教科書では伝わらない、わくわくするような文化を知ることができました。

試合当日。ちなみに、コロンビアの公用語はスペイン語です。今まで使ったことのない人がほとんどでした。でも、私たちは音楽の力を信じました。弾むリズム、派手なプラスバンドの響き、そして出前講座で教えてもらったスペイン語での、魂の声援。まさにコロンビアの方々にマッチする、できる限りの応援を選手に送りました。たとえ話す言葉が違っていても、たとえ一度も会ったことのない人でも、私たちの音楽と熱い応援があれば、「伝わる」と信じていました。

異国の地で広いグランドに立つコロンビア代表選手の勇気には、心を打たれました。少なからず孤独感を感じていただろうなと思いますが、そんなことを一つも感じさせないプレーは、今まで味わったことのないわくわくを感じさせてくれました。貴重な経験をさせていただいたこと、普段の生活の中では感じられない文化を楽しませてくださったことに、感謝しています。

U-15ベースボールワールドカップを経験して

いわき市立中央台北中学校 新妻 悠輝

僕は、U-15ベースボールワールドカップで経験したことが三つあります。

一つ目は、日本・ベネズエラの応援です。日本の応援では、北中三年生と一緒に、作った旗を振りながら懸命に応援することができたので良かったです。ベネズエラの応援では、北中の一、二年生全員で応援しました。吹奏楽部とも一緒に応援できたので良かったと思います。おかげで試合も熱い試合になり、粘りに粘った末にベネズエラが勝ちました。スタンドがとても盛り上がったので良い思い出になりました。

二つ目は、試合補助です。初めてヘルメットをかぶって硬式ボールの補助をしました。外国の選手のプレーをグラウンドの中で見ることができたので貴重な経験をしました。審判へのボール渡しやファウルボールを取りに行く、ボールをふくなどしっかりとボールボーイの役目も果たせたのではないかと思います。グラウンド整備などもしっかりと魂を込めて整備することができたと思うので、良かったと思います。

三つ目は、書道体験の手伝いです。小名浜のホテルでベネズエラの選手が書道を体験し、そのお手伝いをさせてもらいました。お手本は上手にかけなかつたけど、筆の持ち方や、書き順などを丁寧に教えることができたのではないかと思います。それに、こういう時に外国の選手と交流を深めることができる機会を設けて頂いたスタッフの皆様に感謝したいです。最後はベネズエラの選手と記念撮影をしたり、ハイタッチをしたので良かったです。

U-15ではこの三つのことを経験して、他には観客を驚かしたプレーを見せていた選手がいたので、僕も観戦してくれる人たちを魅了するようなプレーを見せられるように頑張ります。また、全ての方々に感謝したいです。



U - 15 ベースボールワールドカップから学んだこと

いわき市立中央台北中学校 中田 葵

今回、U - 15 ベースボールワールドカップがいわきで開催されることになり、私たち中央台北中はベネズエラの応援キャプテン校になりました。しかし私たちは、ベネズエラという国について全く知らなかつたので、この大会に対する関心はありませんでした。そんな時、北中生である黒須大誠君が大会に日本代表として出場すると知り、多くの生徒が大会に興味を持ちはじめました。それと同時に、私たちが応援するベネズエラという国についても興味を持った生徒が多くいました。

U - 15 ベースボールワールドカップやベネズエラへの関心が高まつた頃、私たちの学校に、ベネズエラ大使館文化担当官のレイナさんがおいでになりました。レイナさんは、私たちにベネズエラがどんな国か、そして選手を応援する時のかけ声などを教えて下さいました。その時に、レイナさんは美術部が制作した横断幕をほめて下さいました。美術部員が、ベネズエラ選手団を応援するために、夜遅くまで残り苦労して作ってくれたものなので、とてもうれしかつたです。

このレイナさんの出前授業の他にも、大会のレセプションや、試合の応援、応援団の家庭料理を作るワールドクッキングなどに参加しました。どれも貴重な体験ばかりで、良い思い出になりました。

また、これらの活動を通し、ベネズエラやその他の国々の方とたくさん交流を深めることができました。大会終了後には、ベネズエラ選手団の方々からサインボールをいただき、交流の証として残せるものになりました。今回私たちが体験した内容は普通では経験できないようなものばかりだったので、もし今後このような機会があればぜひ参加させていただきたいです。また、他国との交流というものは、これから私たちにとって、大きな自信につながると思います。このような体験をさせていただいたことに感謝し、からの私たちの生活につなげていきたいです。



U - 15 ベースボールワールドカップを経験して

いわき市立中央台北中学校 遠藤 優希

私たちは、ベネズエラのキャプテン校になり、代表として応援することになりました。私は、吹奏楽部として全校生をリードし、力いっぱいエールを送りました。

言語も文化も違うベネズエラをどのように応援するのか、私たちの応援はしっかり届くだろうかななど、とても不安でした。でも、とてもフレンドリーな大使館の方やとてもノリのよい選手たちを見て「絶対に応援が届く」と思いました。

全校生が一体となり野球場にひびいた応援の感動は今でも忘れられません。とても白熱した試合で私たちも楽しんで応援することができました。ベネズエラの選手たちとつながっているような気がしてとてもうれしかつたです。

ワールドカップでプレーしている選手は、私たちの想像をこえるような努力をし、すごい練習を重ねていることを感じました。また、相手に勝つということは相手よりも充実した練習をすること、本番で実力を発揮する精神力がすごく大切で練習は裏切らないということも感じました。

スポーツや音楽は言葉が通じなくても一緒に楽しむことができ、人を感じさせることのできるすばらしいものだと思います。私はそんな音楽を大好きな仲間と信頼し合い、一緒にできることがどんなに幸せで嬉しいことを改めて実感しました。また、今、幸せに過ごせていることはたくさんの人の支えがあるということです。だから、いつも感謝の気持ちを持ち、一日一日を大切にしていきたいです。今日よりも明日、明日よりも明後日自分が成長できるように仲間と共にがんばっていきます。



U-15ベースボールワールドカップで学んだこと

いわき市立四倉中学校 大串 玲央

私たち四倉中学校は、オーストラリアの応援校となり、横断幕の準備や応援ツアーデの吹奏楽部に合わせた応援練習など、少しづつ当日に向けて準備してきました。そして、8月2日に久之浜中、小川中あわせた200名の応援団で、グリーンスタジアムにオーストラリアチームの応援に行きました。相手は韓国チームです。私たちは、一生懸命応援しました。そして、強豪の韓国チームに勝つことができました。

そんな中、私は2つのことを学びました。

一つ目は、野球の技術面です。各国の代表選手たちは、どんなに速い球でもおそれずしっかりボールを捕っていました。私は速いボールがくると、驚いて一歩さがってしまいます。私は、代表選手のように恐れずに一歩足を踏み出す勇気を学びました。

二つ目は、野球の力を学びました。私たちが応援した日の午後、オーストラリア代表選手が四倉中学校にやってきて、1時間ほどゲームをしたり、話したり、踊ったり交流会をしました。私は英語がうまく話せないので、はじめは選手との交流が心配でした。しかし、交流してみるとオーストラリアの代表選手たちは面白く、優しいことがわかりました。私は、野球を通して言葉の壁を破ることができたのです。野球の力のすごさを改めて知ることができました。

最後に、私はU-15ベースボールワールドカップを通して、人は言葉だけでなく想いが一緒であれば、お互いに通じ合うということを知り、今後、たくさんの人と関わっていきたいと思いました。この機会をくださり、ありがとうございました。



メキシコ文化に触れて

いわき市立大野中学校 門馬 佑奈

今年の夏、いわき市では、U-15ベースボールワールドカップが開催されることになり、12の国と地域の選手が一斉に集いました。そして、ワールドカップに向けて「1校1国・地域運動」という私たち中学生が、参加国を応援する活動がありました。私たち大野中はメキシコを応援することになりました。そこで私は、メキシコについて勉強しました。そこで思ったことは、母国語は何だろうということです。私は英語だと思っていたが、スペイン語でした。スペイン語は、あまり聞いたことがないので、挨拶などを調べてみました。その後に、メキシコは日本からどのくらい離れているのかということを調べました。地球儀で見ると、かなり離っています。インターネットで調べたら、約一万キロメートルも離れていました。そんな遠くから、日本の中心ではない、いわき市に来てくれることに感謝しました。

そんなことを思いながら野球部の一員として、各選手の応援ボードの作製や応援歌作りをし、応援練習もしました。応援ボードは、選手が打席から見えるように大きく目立つように工夫し、メキシコ選手を思って作りました。

このような準備を行い、7月29日に初戦を迎えると同時に応援に行きました。メキシコ選手や相手選手を間近で見ると私たちとは体格が全然違う、大きくてがっしりしていました。とても同じ中学生とは思えませんでした。毎日応援を行っていると、選手の方々からお礼を言われました。「いつも応援ありがとうございます。」などと言われて、とてもうれしかったです。私たちの応援が選手に伝わっているのだと感じました。

このように、とても貴重な体験をしました。私はこれからも「1校1国・地域運動」を続けると共に、他の国の方々も日本のことについて知りたいと思います。そして、U-15を体験できることにとても感謝しています。



プラスバンドで届けた応援

いわき市立内郷第一中学校 小熊 夏希

私は韓国の応援をした内郷第一中学校の小熊夏希です。私たちは野外の応援は初めてでピッチが上がったりして、普段のチューニングでも合わせるのが難しい状態だったので、苦労しました。そして先輩方が引退してから新メンバーで誰かにきかせるのも初めてだったので緊張した部分もありました。

コンクールが終わってすぐだったので、練習期間が短く、特に「海のトリトン」は一番難しかったです。そして韓国の国歌は日本よりも長く、新鮮な感じでした。私がブラバンの中で気に入った曲は「サウスポー」です。リズムが全体的に軽い感じで、吹いていて楽しかったです。

野球のルールはあまり知りませんでしたが、点数が入った時の嬉しさは今でも良く覚えています。先生も言っていましたが、私たちの応援は言葉では伝わらないから気持ちで頑張って伝えようと努力できました。

そして相手国との点数が開き、試合終了。勝利した後の国歌の演奏は、少しでも気持ちが伝わってくれたと思うと、とても嬉しくその日演奏した中で一番気持ちよく、楽しく演奏できたと思います。

今回の野球の応援で私たちのチームワークも深まったような気がします。炎天での演奏はいつも室内で練習している私たちにとって少し大変でしたが大きなステージでの演奏と同じくらい楽しかったです。とても良い体験になりました。このことを生かし、これから活動も頑張っていきたいです。



U - 15 ベースボールワールドカップに参加して

いわき市立小名浜第一中学校 浅野 翼

僕たち野球部は、今年の夏、地元いわき市で行われたチェコ共和国全試合、そして決勝戦で日本と対戦したキューバの応援をしました。

大会の前には、本校がチェコ共和国のキャプテン校となったため、駐日チェコ大使であるトマーシュ・ドゥプさんの講演会でチェコ共和国のことや、日本との関わりなどを知ることができ、チェコ語もほんの少し学び、野球のスタンド応援で使用することができました。

僕たち野球部は、7月30日、中学生サポーターの役割があったため、チェコを応援できませんでしたが、その日のオーストラリア戦は勝利できたことを後で知り、大変嬉しく思いました。残念なことにチェコはその一勝しかできませんでしたが、僕たちはチェコやキューバのために全力で応援を続けました。それは、僕たちが小学生の時に起きた東日本大震災では、日本ばかりでなく、多くの国々からたくさんの方の支援をしていただき、このいわき市も復興を続けているからです。簡単に国際協力と言いますが、実際にこのような「人と人とのつながりが最も大切だ」ということも学びました。

また、この大会では、どの国の選手も体格が良く、野球技術も素晴らしい、驚くことばかりでした。この大会を通して、大会スタッフの皆さんとの選手への対応、応援マナーなど、多くのことを学ぶことができました。

ですから、また、このような機会があれば、進んで国際協力の輪に入り、多くの方に感謝する心を持って、積極的に参加したいと思います。

サポーターで頂いたTシャツと帽子、そして、チェコ戦の開始セレモニーでの旗手の思い出を大切に、これからも精一杯野球や毎日の生活に取り組んでいきたいと思います。



私の体験記

いわき市立泉中学校 片寄 耕大

私は、このたび1校1国・地域運動のキャプテン校の生徒として、また泉中学校野球部の主将として様々な活動をさせていただきました。

学校全体の活動では、応援横断幕の制作や球場において、吹奏楽部の演奏による試合の応援、そして、台湾チームの選手を本校体育館にお迎えして交流会などを実施しました。

私自身は、世界の人々と料理と一緒に作ることで異文化を知るワールドクッキングやパレスイわやで開催された歓迎レセプション（前夜祭）でのプレゼンテーションに取り組ませていただきました。

ワールドクッキングの時は、アメリカや中国、オーストラリアといった人種の違った人々が一緒になって料理を作りました。そして、料理を味わい、さらに台湾の母国語である中国語を国際交流協会の方々からご指導をいただきました。他国の言語を習うのは、英語以外で初めてでしたので、貴重な経験となりました。歓迎レセプション（前夜祭）では、勉強した中国語を活用してプレゼンテーションを行いました。私は、すべての言葉を中国語に直してスピーチを行いましたが、台湾の選手の方々に伝わるか心配でした。しかし、台湾の選手はみんな笑顔で拍手をして応えてくれたので、とても感動しました。一生懸命行えば、相手に気持ちが伝わることを感じました。

これらの活動から改めて学んだことが二つあります。

一つ目は、異文化を理解することの大切さです。これは、異文化を理解することで自分の価値観や視野が広がり、いろいろなことに目を向けることができるからです。

二つ目は、一生懸命挑戦することの大切さです。無理だと思うことも一生懸命行えば可能になるからです。

この二つのことを今後の生活に生かしていきたいと思います。

1校1国・地域運動を通して

いわき市立湯本第二中学校 野田 勇希

僕は、今回の1校1国・地域運動を通して、感じたことが二つありました。

一つは、団結力のすばらしさです。今回、選手を迎えるにあたって、全校生徒からアイディアを募集し、横断幕を作りました。彩色は時間も人手も足りない状態でしたが、「みんなですばらしい横断幕を作り上げよう」という気持ちが制作に関わった生徒全員から伝わり、一体感が感じられました。

全校生徒で日本代表チームの応援に行ったときも、この団結力の素晴らしさを味わうことができました。これまで、生徒全員が一丸となって一つのことに取り組むという機会があまりなかったので、全校生が団結し、力強い応援をしている様子にとても感動しました。

もう一つは、コミュニケーションの楽しさです。僕はもともと他の人のコミュニケーションがあまり得意な方ではありません。初めて会った人など、会話すらできませんでした。それなのに、僕は生徒会長として、日本代表選手や鹿取監督との交流会などでスピーチをする機会がたくさんありました。日本を代表して世界と戦う選手の皆さんとの雰囲気は、同じ15歳とは思えず、すっかり気後れてしまいました。しかし、どの選手も笑顔で優しく接してくださいり、不安はいつの間にかどこかに消えていました。

歓迎レセプションでは世界の人たちを前にスピーチをしました。言葉は通じなくても、歓迎したいという思いは伝わったような気がしました。気持ちを伝えるコミュニケーションの楽しさを実感することができ、その後は今までよりも積極的に発表などをできるようになったと思います。

今回の体験で感じた団結力のすばらしさとコミュニケーションの楽しさを忘れず、これから的生活に生かしていきたいと思います。



【歓迎セレブションから】人生のきっかけ

いわき市立湯本第一中学校 清水 菜実

会場に入った時、私はこれまで経験したことのない雰囲気を感じました。同じ年齢の選手達は、身長も体格も大きく圧倒されたからです。選手の皆さんに挨拶をするのはおろか、目を合わせることも怖い感じがしました。

しかし、度胸を決めて慣れない英語で話しかけてみると、皆さんはとても熱心に耳を傾けてくださいました。各中学校の代表が選手の皆さんを歓迎しようと一生懸命に取り組んだことが、言葉も習慣も違う選手の皆さんに伝わったことを感じた時、この場にいてよかったですと強く思いました。

この経験は私にとって、将来グローバルな世界でたくさんの方々を幸せにする職業に就きたいと思うきっかけになりました。これからも、様々な文化を持つ方々と触れ合う機会があったら積極的に参加したいと思います。将来への目標につながる特別なきっかけとなる貴重な体験をすることができて、本当によかったですと思います。



【文化交流「レッツ！SHODO」から】アメリカ選手との書道交流

いわき市立湯本第一中学校 瀬谷 龍海

「アメリカ選手と書道で交流する」、私の不十分な英語で日本の文化が伝わるのかとても心配でした。前日には、スピーチの練習を何度もして不安を少しでも解消しようしました。しかし、それは選手達も同じだったようで、少し緊張した様子で真剣に話を聞き、初めての書道に取り組んでいました。

言葉の壁はあっても、書道という伝統文化を通して、日本の精神の一端を伝えることができたと思います。それだけに、筆遣いの微妙な感触や余白の存在感、文字の意味などを伝える表現力があれば、もっと深く交流ができたのではないかと思いました。改めて言語学習の重要性を強く感じました。今回の文化交流を通して、自分自身のこれから目標を見つけることができたと思います。

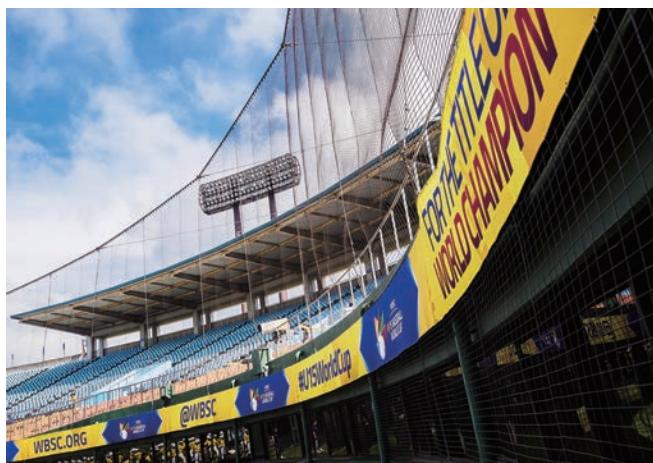


U-15ベースボールワールドカップで感じたこと

いわき市立湯本第三中学校 佐川 泰斗

僕がU-15ベースボールワールドカップに参加して感じたことは、言語や文化の違いはあっても、野球を通して交流し、勝利を目指したふれ合いの中で、絆を深めることができるのだということです。そして、世界各国からたくさんのが参加しましたが、国や人種が違っても、言語が違っても互いの思いが伝わり、文化が違っても同じ気持ちになれたと思いました。

今回の大会を通して、国境を越えた交流が可能だということが実感できました。このような交流ができれば、地域紛争や人種差別もなくなると思います。そうすれば、世界は、もっともっと平和に近づけると思います。今回、野球というスポーツを通して、国際交流だけではなく、世界が一つになり、限りなく平和に向かっていくことができるということを、私たちに気付かせてくれたと思います。更に、この大会をいわき市で行うことができたことは、皆が、手と手を携えて、前向きに頑張っているという福島の復興を、世界にアピールすることができ、いわき市民全体にも元気と希望を与えてくれたのではないでしょうか。これからは、この貴重な経験で学んだことを生かして、より世界に目を向け、広い視野を持って様々な活動に取り組んでいきたいと思います。そして、世界の中の日本、日本の中のいわきを誇れる大人になりたいと思っています。



U-15ベースボールワールドカップを観戦して

いわき市立植田中学校 小宅 恭平

植田中学校は、この国際大会において、1校1国・地域運動応援プロジェクトのキャブテン校としてキューバを応援することになりました。

ぼく達一年生と吹奏楽部を中心としたチーム植田で応援に参加するため、まず、キューバの小旗を作りました。

「どんな国旗だろう」「場所は、どこだろう」「どんな中学生だろう」そんな事を思いながら取り組み、完成させました。

いよいよ当日になり、自作の小旗を持ってわくわくした気持ちでスタジアムに入りました。ぼくにとっては、初めての経験です。まるでテレビを見ているようでした。野球のルールは、よくわかりませんが、ここで打ったらランナーが走って点数が入るのだと思うとドキドキして緊張てしまいました。吹奏楽部の演奏に合わせて小旗をふり、熱い声援を送りました。結果は、見事キューバが勝ちました。とても同じ年代とは思えないほどの大きな体に驚きました。

その後、テレビでリオ五輪を見ましたが、やはり体の大きさの違いが目立ちました。しかし、どの競技も素晴らしい結果を残しました。最後まであきらめない姿勢、すごい集中力、見ていて吸い込まれるようでした。そして選手の皆さんのが言っていた「練習をたくさんしてきたから負けない」という言葉が、とても心に響きました。ぼくも日々の練習を一生懸命取り組んで努力したいと思います。

野球の国際大会を通して



いわき市立植田東中学校 猪狩 信人

今年の夏に、15歳以下の野球の国際大会がありました。僕は、その関連行事のワールドクッキング教室と歓迎レセプションに参加しました。

ワールドクッキング教室では、応援国のニュージーランドのラムチョップを作りました。調理手順を、ニュージーランド出身の先生に教えてもらい、協力して作りました。最初は、おいしくできるか心配でしたが、丁寧に教えて下さったので、とても楽しく、そしておいしく作ることができました。また、各国の今まで食べたことのない料理を味わうことができ、とても貴重な体験ができました。

大会の前日に実施された歓迎レセプションでは、応援国の言語でメッセージを発表しました。試合に勝利してほしいという内容のメッセージを読むと、会場に大きな拍手が響きました。その後、ニュージーランドのテーブルに向かい、学校の生徒全員で作った千羽鶴などをプレゼントすると、キャブテンが「アリガトウゴザイマス。」と言ってくれました。そのとき僕は、とてもうれしくなりました。

今回のこれらの行事で、さまざまな人と触れ合うことができ、普段できない体験をし、とても良い時間を過ごすことができました。これからいわき市にも、海外からさらに多くの人が訪れてくると思うので、この経験を活かし、少しでもお手伝いができるようにしたいです。またいわき市で、国際大会が行われることを願っています。



「信じられない自分の役目」

いわき市立夏井小学校 坂本 恼

私は、「U-15 ベースボールワールドカップ」の始球式に出ました。所属するスポーツ少年団のコーチから始球式に選ばれたとの電話があり、私と母はとてもびっくりして信じられなく、私に出来るかどうか迷いましたが、なかなかできない機会なのでがんばって出ることに決めました。

当日の午前中、藤間中学校の野球部の監督が指導してくれるようになったので、母と弟につきそってもらい中学校に行きました。野球のピッチャーは初めてで、ドキドキしていたけれど、投げてみたらキャッチャーまでとどいたので勇気がわいてきました。それに、母と監督は、思っていたよりも上手にできていたびっくりしていました。お礼をして帰る時には、監督や、野球部の人たちに応援の言葉をもらったのでうれしかったです。

グリーンスタジアムには、打ち合わせもあり、早めに行かないといけなかったので4時ごろに家を出ました。母とコーチが引率で一緒に行きました。グリーンスタジアムに着くと、関係者しか入ってはいけない入口から入ると、外国の選手達やスタッフの人達がいっぱいいました。スタッフの人から、キャッチボールの練習ができる場所など色々と説明を聞き、本番前までコーチと一緒にキャッチボールをしていました。

開会式が始まり、だんだんとプレイボールの時間が近づき、それに、私の心もドキドキしてきました。その時、近くにいた日本代表の鹿取監督が、笑顔で私に「がんばってね。」と声をかけてくれました。見た目よりも、笑顔で声をかけてくれるやさしい監督なんだなあと思いました。名前を呼ばれ、マウンドへ行きプレイボール。ドキドキも高まり手が思うように動きませんでしたが、ストライクになりとてもうれしかったです。無事、始球式が終わってホッとしたと思ったら、さっきまで緊張していたせいかお腹が痛くなりましたが、とてもいい経験ができてよかったです。

これから、一生懸命練習して上を目指し、ソフトを楽しく続けていきたいと思います。



U-15 ベースボールワールドカップ大会のアナウンスを振り返って

道都大学野球部マネージャー

瀬尾 結香

私は、7月29日～8月7日まで行われました、「U-15 ベースボールワールドカップ」にアナウンス担当として参加させていただきました。北海道出身の私はいわき市に訪問すること自体が初めてで、いわき市への印象はやはり5年前にあった東日本大震災の影響で被害を大きく受けた街のイメージがありました。実際に訪れた時に抱いた感想は、想像をしていたよりも街がとても綺麗で、人がとても温かい街という印象を受けました。

そんな、いわき市で行われた大会で、私は英語と日本語でのアナウンスを担当させていただきました。英語は全くと言っていいほど出来ずに、資料だけが頼りでしたが、初めはその英語に指摘を受けることも多々あり、前途多難なスタートとなりました。大会役員は全体の半分くらいの方は日本語以外の言葉で会話をしていました。大会技術委員長である Giuseppe Gulizzoni さんからは、アナウンスについて直接英語で指摘を受けることも多く、私の英語力でその時々言われていることを理解することが大変だったこともとても印象深かったです。

地元の高校生の方にアナウンス指導もさせていただきましたが、上手になりたい！という気持ちがとても強く、その姿勢に私自身もとても刺激を受けました。

大会の雰囲気は、国際試合ということもあってか、試合自体はとても、日本人の試合以外はお堅い雰囲気などではなく、むしろフランクな感じでした。しかし、長時間のとても感情的な抗議や、ゆったりとした試合のペースなど、日本の試合では見られないような場面も多々ありました。

今回、約10日間に渡ってアナウンスをして感じた事は、野球に国境はないという言葉が一番当てはまるような気がします。野球だけではありませんが、今回は野球を通じて様々な人との交流がありました。元メジャーリーガーや元プロの方がチームを引っ張っていました。本当に生きてきた場所も違うような様々な方と出会いました。しかし、言葉はわからなくても、伝えたいことを必死に話しかけていただいたら、逆に拙い言葉で声をかけた時には、本当に嬉しそうな顔で返答をいただけたり、言葉で国を意識し、敬遠しがちでしたが、そういうのは日本だけなのだなとても感じました。そして、もっと色んな国の人々と交流したい、もっと野球を通じて様々なことを勉強したいと思えたことは、この大会は私にとって、本当に大きな変化のあった素晴らしい期間となりました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難う御座いました。



いわき報告書

神田外語大学 金宮 奈美

「U-15ベースボールワールドカップ」に通訳ボランティアとして参加できてとても光栄です。業務は、来場客への対応、審判員長のアテンド通訳、開会式・閉会式の英語アナウンスなど広範囲に及びました。そのおかげで、たくさんの人々と交流し、大会の全体から細部まで見ることができたのは貴重な経験でした。

通訳の仕事は初めてで、迷惑をかけてしまい落ち込んだりもしましたが、充実感がありました。言葉が通じず困り顔だった方が、通訳によって笑顔になる瞬間を何度も見ました。「心強いよ、ありがとう」と肩を叩かれました。今まで自分のために学んできた語学で、人の役に立てたことが非常に嬉しかったです。

異なる文化、異なる考え方の人々と協力して、大会の成功や地域の復興というゴールを目指す運営スタッフの皆さんのお姿はかっこよかったです。短い間ですが、その一員となれたことをとても幸運に思います。なかでも、「海外からの選手や役員は慣れない環境で大変だよね」と、常に思いやり、少しでも要望に応えよう、楽しんでもらおうと奮闘する姿がとても印象的でした。皆さん、日本のおもてなし精神が地で出ていて素敵でした。運営や突発的トラブル対応などで忙しいなかでも、多方面に気遣えることが単純にすごいなあと、見習わなければと思いました。

国や地域も言葉も立場も違う人々が集まり、試合を盛り上げる非日常の連続は、新鮮で楽しかったです。このボランティアを通していわき市が好きになりました。大会運営を間近に見れて勉強になりました。おまけに野球にも詳しくなりました。語学力向上への意欲も増しました。通訳という立場で交流し、尊敬できる方々に出会い、刺激され成長できた、またとない12日間でした。感謝の気持ちと達成感でいっぱいです。この経験を活かして、今後の社会生活を充実したものにし、積極的にボランティアにも参加して行きたいと思います。2020年東京オリンピックでの野球・ソフトボールを楽しみにしています。



活動報告書

神田外語大学 横原 真里菜

ボランティア参加のきっかけや動機

高校では硬式野球部のマネージャーをしていて、大学生になってからも野球に携わりたいと入学する前から思っていました。そこで通訳ボランティアの募集があることを知り、英語力に多少不安はあったものの、今まで大学で学んだことを活かしたいと思い参加しました。

7月27日（水）活動内容：審判を空港でピックアップ

本来は7月28日からボランティアに参加予定でしたが、前日の夜に急遽連絡があり、一日前倒して参加させていただくことになりました。ペルトリコから来る審判の方を成田空港でピックアップし、両替の手続きを手伝い、そのままいわき市へ職員の方と一緒に向かいました。

7月28（木）～8月6日 活動内容：南部スタジアムで英語のアナウンス

球場付きのボランティアでもありましたが、アナウンス中心のため試合中は特に通訳業務はありませんでした。海外から応援に来ていた人がいたため、近くのレストランを教えてほしいと言われたり、ホテルをとってほしいなど言われ、対応しました。

8月7日 活動内容：グリーンスタジアムでの通訳・翻訳

本来は8月6日に帰る予定でしたが、いわき市の職員の方のご厚意で1日延長させていただきました。閉会式で読まれる英文の和訳や、ドローン打ち上げに関する通訳を行いました。

活動の中で印象に残ったこと・学んだこと

ボランティア期間中、同じホテルに泊まっている神田外大と東京外大のボランティアメンバーで情報を共有したり、活動について話し合ったり機会がありました。その時に感じたのは、通訳が難しい時もあるけれど、できないならできないなりの行動をするということです。例えば、野球のルールや用語を調べるなどの事前準備や、会話の最中にメモをとることです。私はあまり通訳業務がなかったのですが、今後も事前準備ができるところまでしっかりして、ボランティアに参加しようと思いました。

今回のボランティア活動の経験を今後にどう活かしていきたいか

今回こちらのボランティアに参加するまで、通訳をしたことがなかったのでとても良い経験となりました。卒業後、英語を使い仕事をしようとは考えていませんでしたが、今回参加してみて外国の方と交流する楽しさを感じました。今回参加してみて、自分の英語力の足りなさを感じましたので、今後も勉強を続け、海外で働くチャンスを掴みたいと思います。



U-15ベースボールワールドカップを振り返って

神田外語大学 佐久間 大樹

今回、私は日本代表チームの戦略部門のお手伝いを中心に様々な分野で活動をさせていただきました。大変なことも多々ありましたが、今後の人生において役に立つであろう知識を得ることができ、大変実りある活動となりました。

大会へ参加をするきっかけとなりましたのは、本学内で通訳ボランティア募集の知らせを受けたことでした。私は高校まで野球を続けてきた経験があることに加え、これまで日本国内で行われたスポーツの国際大会に通訳ボランティアとして参加した経験があり、大学の先生よりお話をいただきました。将来の展望として世界を舞台にスポーツ関係の仕事に就きたいと考えておりましたので、国際大会を運営側から学ぶ絶好の機会でしたので参加させていただくことを決めました。

仕事の主な内容としては、日本代表チームの戦略部門のお手伝いでしたが、試合前の練習の手伝いや、体調を崩した選手の病院への付き添い、監督記者会見や監督会議での通訳などチーム以外の場所でも多くの仕事をさせていただきました。監督記者会見では日本の記者の方からの質問を通訳させていただいたのですが、私の通訳が参加国の監督の皆さんにうまく伝わらなかった場合、求めていた回答が得られず記事にできなくなってしまう可能性もあり、責任が重く今まで感じたことのない緊張に襲われましたが、何とか伝わり、質問内容に沿った回答を得られたのでよかったです。

普段の大学生活では経験のできない貴重な体験をさせていただいたとともに、大学で異文化間でのコミュニケーションを学ぶ身として、言葉の通じあわない選手たちが大会を通じて友情関係を築き、一つになっていく様子を間近で見ることができ、野球の持つ力を身をもって学ぶことができました。

大学卒業後は青年海外協力隊野球隊員として野球の普及活動にあたりことになっており、今大会で学んだことを活かし、一人でも多くの子供に野球の魅力を伝え、他国とつながる機会作りに努めていきたいと思います。

最後になりましたが、いわき市の職員の皆様をはじめボランティア活動に際しお世話になった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



U-15ベースボールワールドカップ 振り返り

神田外語大学 阿久津 英之

オリンピックに興味がなくなるほど最高に面白く、そして私より素晴らしい夏を経験した人はいないのではないかと感じるほど中身の濃かった2週間だったと強く感じています。

中学生から野球選手の通訳をやることが夢であった私は、U-15ベースボールワールドカップの通訳ボランティアに参加出来たことは一生の思い出になりました。

大会ではメキシコチーム通訳に選んでいただき、いわき市職員の吉田さんと一緒にアテンドを行いました。

メキシコチームを成田空港まで迎えに行き、バスに乗り、毎日のスケジュール確認や細かい調整など今までに経験したことのない通訳業務を行い、これから大丈夫なのだろうかとホテルに着いてから不安に思いました。しかし大会が始まると、どうにかメキシコチームに勝って欲しいという思いが強くなり、勝つために最大限のサポートをしようと心がけ毎日が必死で、不安に思う時間すらもありませんでした。

試合中にはベンチに入り、選手達と喜びや悲しみを味わうことが出来、まるで自分もこのチームで一緒にプレーしているかのようにも度々感じました。

大会が終わり成田空港でお見送りに行った際に、「私達はあまり納得のいく結果が出せなかつたが、2人が本当によく働いてくれたおかげで、何も問題なく大会を終えることが出来た。」とメキシコチーム監督から言われ、私の夢であった野球選手の通訳が出来ただけでなく、感謝されるとはこれ以上ない幸せでした。

私がこんなに素晴らしい経験が出来たのもいわき市職員の方をはじめ、ツアーデスクのJTBの方々、ボランティアの方々、その他大会に関わった皆さんのおかげです。そして、特にメキシコチームアテンドの吉田さんには本当にお世話になりました。私の実力不足のせいでの迷惑をかける場面も多々ありましたが、その度にフォローしていただき感謝しています。皆さん本当にありがとうございました。



「言葉」が人々の表情を明るくする

東京外国語大学 槍田 ひかり

主な活動内容は、日本チームに帯同し、試合中の選手交替や代打の連絡の際、監督と審判のやりとりの通訳をすることでした。海外の監督との何気ない会話、試合前のちょっとした確認、英語の選手宣誓の練習などもお手伝いいたしました。さらに、ベンチ内でのお茶汲み、トレーナーさんのお手伝い、午前中のアップに参加させてもらったり、選手と試合中に声を出したり、言語以外の面でも積極的に取り組みました。また状況をみながらスタッフの方々とのおしゃべりを楽しんでいました。その中で貴重なお話をたくさん伺うことができました。

私はこのボランティア活動を楽しむことができました。笑ったり、怒ったり、泣いたり、喜んだり、いろいろな感情がぎゅっとつまつた日々で、「自分、生きてるな！」と強く感じました。これはこのうえない幸せなことだと思います。

今回、このようなボランティア活動に参加するのは初めてでしたが、相手に失礼のないように、邪魔にならないように、自分ができること、自分がどうやったら楽しく過ごせるか、考えて行動するように心がけていました。その中で私が気づいたこと、それは、人と声を出して話をすることが、一番大事なことだということです。ベンチから声を出して応援しているとき、監督同士の楽しい会話のお手伝いができたとき、日本の選手が外国の選手と楽しそうに交流しているとき、お互いの国の言葉でいさつをしているときなど、「言葉」が人々の表情をぱっと明るくしている場面にたくさん居合わせたことが、今回の活動を通して最も心に残っていることです。特に、アメリカチームの監督が最終日に、日本チームの選手に伝えたいことがあるから手伝ってほしい、とわざわざ私に声をかけてくださったときは、本当に嬉しかったです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。この経験で得たこと、そして謙虚な心を忘れずに、これからも言語の勉強に励んでいきます。



人と人とのコミュニケーションを取りもつ役割

東京外国語大学 金春 あさこ

私の今回のボランティアは言語サポーターではなく、アテンド兼通訳といった方がふさわしいものであったと思います。事前の説明では市のアテンドの方と一緒にチームを誘導していく、言語面でのサポートをするというように理解していましたが、実際は動きをアテンドと確認したらその後のチームの誘導はほぼ1人で行うというものでした。監督や団長と話すときにアテンドがそばにいることはあまりなく、チームとアテンドとの間を行ったり来たりしてやり取りをつなぐという形でした。チームから質問や要望がきてもまずアテンドを探しに行かないといけないことや、すぐに答えを貰えずに待つてもらうことがありチームのみなさんには迷惑をかけてしまったと思います。

大会期間中はとにかく「通訳さん！」と一声で呼ばれてはかけつけ、その場で様々な指示を受けてはチームに伝えるということを繰り返していました。その他飛び込みでやってきてチームに差し入れがあると言つては監督やキャプテンと話したいという人や取材の人たちのために通訳をしたり、チームから応援をしてくれた人たちにお礼をしたいとのことで通訳をしたりしました。初めは通訳をしろと言われると緊張していましたが、次第に緊張している暇もないほどになりました。

大会業務以外には、空いた時間にどこかに行きたいといったようなチームの要望への対処（旅程プランや金額などをツアーデスクと相談しチームに伝える、希望に合ったお店を調べるなど）、買い物や出かけた際にされる質問や日本語しか通じないところでの通訳などもしました。

この大会でチェコチームに寄り添った通訳として動いた中で気が付いたことは、通訳の仕事はただ機械的に言葉を翻訳するだけの仕事ではないということです。チェコ語から日本語よりも日本語からチェコ語の方が難しく、また最初のうちは日本語からチェコ語での伝達事項が多かったために「正確に伝えなければ」という気持ちが強すぎてとても神経質になっていました。また、日本の方は「通訳さん来て！」と呼んでは私の度量には構わず話したいことを一通り話してから「はい、訳して」と言われ、通訳というよりは自動翻訳機にでもなったような気持ちになることが多くありました。そういうものなのだと書いていました。しかし、チームの方々との距離が近づいたときには違ったことを感じました。監督や団長はいつも「～って伝えたい（聞きたい）のだけど通訳お願いしてもいい？」と言ってくれ、話すときも短く区切ってくれることや難しい内容になると「もう一度説明しようか？」と言ってくれることもありました。通訳を終えると毎回「ありがとうございます」とお礼を言ってくれました。ただ話された内容を通訳するのではなく、一度会話を通して彼らの伝えたいことや聞きたいことを確認してから日本語で伝えるという形をとることが多く、コミュニケーションをとる手伝いをしているという実感が持てました。そのような状況にいると、不思議と通訳をするということへの無駄な緊張感が抜けたように感じました。通訳は機械ではなく人と人のコミュニケーションを取りもつ役割であるということに気が付くことができました。もちろんどのような場で通訳をするかによって状況は異なりますが、それでも人ととの間に立って行う通訳の仕事というのはその作業自体もコミュニケーションの一部であるのだと感じました。



かけがえのない想い出と自信

東京外国語大学 坂巻 めぐみ

7月27日から8月7日の12日間に渡って、U-15ベースボールワールドカップが福島県いわき市で開催されました。私は今回、スポーツが好きで国際交流に興味があり、大学のゼミナールでコミュニティ通訳を学んでいるという理由から、この大会に学生言語ボランティアとして参加しました。

ボランティアの業務内容は海外チームを言語面で支援することで、いわき市職員の方と二人三脚でチームをアテンドしました。私の担当は南米のスペイン語圏、ベネズエラチームでした。ホテルでの朝食から夕食までほぼ1日中チームと行動を共にし、事務連絡から質問や確認など、日常で発生する日本人との会話全般をサポートしました。

大学でスペイン語を学び始めて4年目。多少なりとも役に立てるのではと申し込みましたが、活動を通して、改めて異言語間を仲介する難しさや「通訳ボランティア」の課題を痛感しました。まず、学習言語と日常の使用言語との違いです。実際の生きたスペイン語は、教科書や授業で習うような模範的で型どおり文とは大きく異なりました。さらに中南米の訛も加わって、知っているスペイン語とは全く別物のようでした。次に、互いの文化への相互理解です。チームをサポートする上で、言語だけでなく異文化への配慮も必要だと感じました。日本とベネズエラ。常識や考え方の違いからどうしてもズレが生じ、納得を得るために根本からきちんと説明しなければならない場面もありました。最後に、「通訳ボランティア」に求められる知識範囲です。今回説明会では、あくまで言語面でのサポートがメインで、野球用語や専門知識は必要ない、地元のアテンドがいるから土地勘がなくても問題ない、とのことでした。とはいえ、知識不足が故に、会話内容をあまり理解できなかつたり、情報を正確に伝達できなかつたりと、自分に不甲斐無さを感じました。

全体を振り返ってみると、日本に居ながらまるで留学しているかのような2週間でした。大変なことや難しいことばかりで、何度も歯痒い思いをしましたが、それ以上に多くの大切なことを学んだと思います。仕事への責任、周りへの信頼や協調性、そして何よりも国や言語を超えた人とのつながり、優しさを感じました。ベネズエラチームのメンバーは、私の拙いスペイン語でも辛抱強く一生懸命聞きとて、私が理解できるよう易しい言葉遣いや言い方を工夫して伝えてくれました。また、いわき市の人々や他の学生ボランティア、大会運営スタッフなど、関係者全員が大会成功のため一体となって協力し合う中で、思いやり精神や人の温かさを感じました。

ボランティアに参加して、大学の授業や教科書からは学べない、そして留学ともまた少し違う、とてもいい経験ができました。世界各国のチームが集結したこの大会を通して、異文化を肌で感じることができ、「日本の考え方」と自分の世界の狭さを感じました。「与える」ことよりも「学ぶ」ことの方が、間違いなく圧倒的に多いボランティア活動でした。今回の経験はこれから社会に出て活かせる、かけがえのない想い出と自信になりました。



異文化を背景に持つ人々をつなげること

東京外国語大学 原崎 絵美

私はパナマのチーム付き通訳として2週間活動しました。業務内容は本当に多種多様でした。言語サポーターというよりはチーム全体のマネージャーのような立場になり日々のスケジュール管理や洗濯物の管理、外出時の鍵の回収や様々な場面での通訳の役割等たくさんのことを使って頂きました。

私は対象言語がスペイン語でしたが、大学で学ぶスペインのスペイン語と彼らが話す中米のスペイン語のギャップが大きすぎて活動開始当初は本当に不安と悩みばかり抱いていました。言語サポーターとして来たのにスペイン語が聞き取れないという状態で2週間やっていけるのかという不安に打ちのめされそうだったことも事実です。しかし来たからにはやり遂げなくてはという思いのもと、1日1日少しずつ経験が増える毎に自分がいわきでの生活に慣れていたのが体感できました。他の方々も皆同じだと思いますが私もチームのメンバーに何度も救われ、元気をもらいました。私が早いスペイン語が聞き取れないとわかると何も言わなくてもゆっくり話してくれるようになったり、試合中でも私に話しかけて輪に入ってくれたり、素敵なおもてなしを頂きました。いつも笑顔で私の名前を呼んで話しかけてくれたコーチ陣と選手たちには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そんな彼らに囲まれて過ごすうちにいつの間にか当初抱えていた言語面での不安も消え、活動が半分を過ぎたころには終わりへのカウントダウンをするのが悲しくなっていました。

今回のこの活動ではたった2週間ではありましたがあまりにも自分のスペイン語スキルが上達したことを感じました。またそれだけでなく自分の精神面での成長を感じたり、大学では学ぶことのできないような責任感を持って働くことの大変さ、異文化を背景に持つ人々をつなげることの難しさなどこの活動ならではの学びも多々あり、本当に自分にとってかけがえのない想い出と学びができた2週間だったなと改めて感じます。大変な思いもたくさんし、悔しくて涙が出たこともありますがチームのみんなやボランティアの仲間、いわき市の方々、デスクの方々など本当に多くの人に支えられて2週間密度の濃い時間を過ごすことができました。この機会を与えて下さった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。



最高のボランティア

東京外国語大学 青木 みのり

このボランティアは私に大きな影響を与えてくれました。まず私は「英語」という言語に関してボランティアを通じて深く考えることができました。私はNZ選手の通訳をさせていただきました。ボランティアをするまでは「英語は英語」、英語の国による訛りなどを気にしていました。しかし正直、NZ英語、いわゆる kiwiEnglish は私には聞き取りづらく、相手も私の英語は聞き取りづらかったようで、「こんなに私って英語話せなかつたっけ」と少し悲しくなりました。大学生活の中で英語で友達と話す機会がよくあり、その時はなんの支障もなく会話をできていたのでボランティアでありにも英語でのコミュニケーションに支障を感じてしまい驚きました。考えてみれば、英語で話していた友達は、カナダ、アメリカ出身者または非英語母語話者(イタリア人など)でした。カナダやアメリカ英語、非英語話者の英語は聞き取れる。これだけで私は「自分は英語が話せる」と思い込んでいました。NZの英語はよくわからないけどそれ以外の英語なら話せる。これは真に「英語が話せる」と言えるのか。私の英語力は本当にまだまだだと実感しました。NZを含めもう少し広い範囲で使える英語を身につけたいと強く思いました。英語での支障はすこし感じたものの、私なりに積極的に選手に話しかけ心の距離は縮まったと思っています。

約2週間のボランティアはいろいろあったせいなのか、とても長く感じられました。様々な人に出会い、さまざまな事を学び、自分と向き合い、悩み考え、人として少し成長できました。

こんなに「やってよかった」と思えるボランティアはありません。最高のボランティアでした。



「この人と通じ合いたい」と思う気持ちと「笑顔」の大切さ

東京外国語大学 木村 エミ

私はオーストラリア代表のチーム付き通訳としてこの大会に参加させて頂きました。業務内容は通訳兼野球部マネージャー兼みんなのお世話係という感じでした。このボランティア活動を通して自分は色々な面で成長できたと思います。

まずは語学面での成長です。英語圏に短期留学に行った方々と負けないくらい、私も実践的な英会話が身につきました。コーチ陣の会議に混ぜて頂いたり15歳以下の選手のみんなの若者の会話に入れてもらったりと、日本にいながらにして「生」の英語を体感しました。電話に出るときも自然と“Hello?”と出てくる位英語に触れることが出来ました。また、通訳するなかで野球の専門用語などといった分からない単語も出て来たりしたのですが、その時は相手に伝わるように簡単な言葉で言い換えるようにしました。物事を自分の言葉で工夫し説明することで英語力が少し上がったのかなと思います。成長を感じると同時にもっともっとうまくコミュニケーションが取れるようになりたい、英語の他に色々な言語を勉強してたくさんの人の架け橋になりたい、と強く思うようになりました。

次は臨機応変に対応する力が少しついたと思います。大会期間中では予定通りにいかないことがたくさんありました。一番思い出深いのは記者会見で通訳をしなければいけないときでした。ちゃんと通訳の方がいると前日のミーティングで聞いていたのですが、会場に行ってみると監督さんの椅子用の後ろに私たちの分も用意してあったのです。心の準備が出来ていなくてものすごく緊張しました。オーストラリア監督が最初に話すのですが、あまりの緊張に監督さんの話が耳に入つて来ず、監督さんにもう一度耳元で言って頂くことになってしまいました。本当に申し訳なかったです・・・。そのあとは、記者の方からの質問に対する監督さんの回答を日本語に通訳したのですが、「通訳として来ているんだから、ちゃんとやらなきゃ」と気合を入れ、一回目よりもすらすらと言えた気がしました。監督さんもそれを感じ取ってくれたみたいで私にグータッチして下さいました!その他にも私にとってたくさんの想定外なことが起こりました。が、このボランティア活動を通して、焦ったりしても何も起こらないから、前向きに考え方で向き合ったほうが良いということを学びました。記者会見での通訳も想定外でしたが、今思えば普通は経験できない貴重なものだったなと思います。一緒に活動をさせて頂いた大人の皆さんを見て、何かがあったときは焦ったりせず、冷静に考え方で行動しなきゃなのだと学びました。

私はこの通訳ボランティアでたくさん学びました。国際大会だからこそ学んだことは、言葉ももちろん大事だけど、一番は「笑顔」だということです。スペイン後や中国語なんて“Hola”や「謝謝」しか喋れないけど、笑顔でいれば向こうも笑顔になってくれて、もうお友達になった気分になりました。また、言葉が分からなくても「この人と通じ合いたい」という気持ちを持つことが大事だと分かりました。ジェスチャーや相手に伝えたいことを文字で書いてもらってそれを辞書で調べるなど、そういうコミュニケーションを取ろうとする努力が必要だと思いました。最後に、「周りを見ること」の大切さを学びました。選手の飲み物が足りなくなったら補充するということだけでなく、選手の皆さんのが少し落ち込んでいたら何か言葉をかけたり、何か困っている方がいたら手を貸したりするなど、周りを「感じ取れる」ことが他人の役に立つために一番大切なのかもと思いました。

これを紹介してくれた友達やチャンスを頂いた学校や一緒に活動をさせて頂いた皆さんに感謝したいです。このボランティアに参加して心から本当に本当に良かったなと思います。



Thank you.

東京外国語大学 工藤 清香

活動内容は、事前に大学から伺っていた“言語サポーター”よりも責任が伴うものであったと思います。朝食の時間、ケータリングの相談、ゲストハウス（ロッカールーム）への誘導、ランドリーの回収から監督・選手へのインタビューの通訳、試合中の飲料の補充まで、本当にたくさんのことをしていました。日本語で表現すると、英語が話せる女子マネージャーのような立ち位置であったように感じます。球場では、通訳さん！と呼ばれては飛んでいき、球場側の要求をチームに伝えていました。試合中は、公用語が英語なこともあり、選手交代などの通訳は基本的にしませんでした。

一番チームに近いスタッフとして、また、優勝を狙いに来ているアメリカチーム付きのリエゾンとして、WBSC 本部、いわき市、ツアーデスク、チームの間の板挟みになることもあります。ツアーデスクの方からもお話を伺っていたのですが、やはりアメリカチームは他のチームとはまた違った、独特の雰囲気があったように感じます。特に試合前は、気を使いました。大会期間中も、他のチームに通訳としてついている皆さんと比べて、チームに溶け込めていないよう感じ、接し方に悩んだこともあります。それでも、会うたび声をかけてくれる監督やコーチ陣、目が合ったり、名前を呼んで声をかけると笑いかけてくれる選手たちに支えられて、やり遂げることができました。序盤は英語が聞き取れなくて、3回くらい聞き返したことなど度々ありました、それでも嫌な顔せず伝えてくれました。選手へのインタビューの際には、私が分からぬ野球用語などが出ると、周りの選手がみんなで助けてくれました。チームの皆さんには、大したことなく、毎回必ず Thank you. と言ってくれて、チームの行程をサポートするはずの私が逆に助けられていたように感じます。

初めのころは、本当に“野球をしに来た”（当たり前ですが・・・）という印象が強かったアメリカチームですが、残り日数が少なくなるにつれチームの雰囲気も和んでくると、受け入れてもらっていたことを一気に感じました。最後の2日間はチームの皆さんから、ありがとう、ありがとう、最高だったと言って頂きました。決して最高の出来ではなかったですが、たとえうまくいかないことがあっても、懸命に伝えようと努力して、チームを第一に考えて諦めないでいれば、必ずその努力の過程を見てくれている人がいることを改めて実感できました。そして、何に対しても感謝の気持ちを持つこと。この2週間、初めは辛く感じて、自分の英語力に落胆することもありましたが、せっかく与えていただいた本当に貴重な機会を、ある意味で最大限利用しようと思うことで、今自分にできることをやろうと思えました。プロではなく学生なのだから、常に完璧にやろうとするのではなく、学ぼう、と気持ちを切り替えました。その点が自分の成長のように思います。ある意味、私たちの役割が一番自由で一番板挟みで一番やりがいのあるものであったと思います。この機会を私たち学生に提供してくださったことに感謝します。

今となって振り返ると、楽しいだけのことより、苦しんだことから学ぶものが多いように思います。更に今回は、苦しんだ先にこの大会に携われたことへの大きな喜びを感じられました。こうしてやり遂げられたのは関わって下さった全ての方のおかげだと思っています。

個人的にはこのようなアテンド活動はとてもやりがいがあり、言語という入り口を通して、様々なつながりを築くことができたと思います。今後の人生、働き方にも良い影響があると思います。これからスポーツの国際大会のアテンドの募集がありましたら、積極的に挑戦したいと思っています。



いわきから帰りたくないほど充実した 12 日間

東京外国語大学 園部 洋奈

●参加目的

もともと野球が好きだったので、野球にかかわる活動をしてみたかったから。また、今まで学習してきた英語を活かしたいと思ったから。また、「野球の力で復興を」といういわき市の方の話を聞いて以来、よりいっそう今回の大会に貢献できたら、と思うようになった。

●活動概要

ホテル付の仕事はグランパークホテルパネックスいわきのツアーデスクにて、球場アナウンスは平野球場にて。また、平野球場担当になって以降は、平での試合後、グリーンスタジアムにもほぼ毎日顔を出し、仕事があれば手伝った。また、成田空港でWBSC専務理事のピックアップを行った。

●自分の活動・成長について、感じたこと

ホテルでは、JTBの方が一緒だったので、学生の私はアンパイアや役員の方がツアーデスクに来たら対応する、というスタンスで、毎日やる業務としてはランドリーの受付やお昼時にランチチケットを渡すことだった。仕事量は多くなったが、要望に応えて喜んでもらえた時はとてもうれしかったし、毎日顔を合わせたので、ほぼ全員の方の顔と名前を覚えることもでき、仲良くなれたのでとてもよかった。決まった仕事があまりない分、自分で今何が必要なのか、考えることもできたのでとても良い機会だったと思う。また、JTBの方とデスクにいたので、興味があった旅行会社の仕事も少しづかってよかった。

現地入りして数日経って平野球場の担当として呼んでいただいた。平では、初めて球場アナウンスをした。国際大会でアナウンスができるというのは貴重な経験だし、また、社会人のアナウンスの方にもいろいろなことを教えていただいて、勉強になることが多かった。

その他、必要に応じて成田空港でのピックアップやグリーンスタジアムでのお手伝いをした。いろいろなお仕事に呼んでいただき、様々なことを経験させていただけて、いわき市の方には本当に感謝してもしきれない。忙しい中でもいつも私たちのことを気にかけてくださり、笑顔で接してくださいました。また、アンパイアをはじめ、多くの大会関係者も拙い英語でも一生懸命耳を傾けてくださいましたし、心暖かい対応には助けられた。感謝しかない。一方で、英語で言われたことをしっかり聞き取れなかったり、日本語を英語にうまく訳せなかったりと、歯がゆい思いをたくさんした。今回の活動を通して、英語学習へのモチベーションがよりいっそう上がった。次にこのような活動に参加した時にはもっと役に立てるよう英語力を磨いていきたい。加えて、アンパイアの中には英語が話せない方もいた。彼らとは翻訳アプリを介して会話したり、言葉が伝わらなくても気持ちがあれば意思疎通はどうにかなるのだが、もし英語以外の言語も使えたら世界は広がるし、絶対便利だと思う。せっかく東京外国語大学という多言語教育の場に属しているので、今後は英語はもちろん、幅広く言語を学んでみようと思う。そしてともにボランティアとして活動した東京外国語大学、神田外語大学の学生の皆さんにはいつも励ましてもらいたい、いろいろなことを教えていただいた。すごく良い刺激だった。

最後に、総じて、とにかく楽しみながら活動できたのが良かった。いわきから帰りたくないほどだった。楽しみながらやるということは自分にとってプラスだし、周りにとっても良いことだと思った。笑顔で楽しんで活動するということが改めて大事だということを実感した 12 日間だった。



語学を学ぶ上でコミュニケーションの大切さ

東京外国語大学 大木 康平

自分の活動は技術委員長さんの通訳が主でしたが、技術委員の方々は、外国から来た方が多かったこともあって、皆さん英語でのコミュニケーションができていたため、ミーティングなどの集まりの際に通訳をすることはありませんでした。通訳の機会は各球場のスタッフさんとのやり取りやいわき市の職員の方々とのコミュニケーションのときだけだったのですが、言語サポートとしての役割の機会があまりない分、外国の方々とコミュニケーションを多く取ることを心がけました。

自分が今回のボランティア活動を通して成長できたと感じる点は、以前よりも積極的になれたということです。英語で会話をすることはもともと好きだったのですが、外国の方に自分から話しかけることができずにいました。しかし今回は、技術委員の方々が野球関係者だったので、自分から声をかけたり、会話に参加したりすることができました。残念ながら、通訳者としての成長はあまり感じることができませんでしたが、語学を学ぶ上でコミュニケーションにおいて成長することができたのはとても大きいと思いました。今回のボランティア活動ではとても良い経験ができました。もしまたこのような機会があれば、今度は通訳者としても成長を感じられるよう努めたいです。



精神的にも鍛えられた時間

東京外国語大学 野村 果穂

空港でのお迎えの際に初めていわき市の職員の方と対面して、コロンビアのチームにサポートとして同行するのは自分と職員の方、2人だけだということを改めて実感しました。始まる前はスペイン語の通訳を専門とする方が1人くらいはいらっしゃるだろうと考えていましたが、実際行ってみると空港からいわきに到着するまでスペイン語を理解できるのは自分だけだと知り、一気に責任感が湧いてきました。コロンビアチームが到着すると、さすが南米人、かなり自由でスペイン語以前にまとめることに苦労しました。

ようやくバスに着いて、チームの団長にこれから日程を説明して少しホッとしたのを覚えています。団長はおそらく外国にも何度も訪問していて、スペイン語が流暢ではない私にも分かりやすいスペイン語を話してくれて、かなり助かりました。1日目はいわきに到着し、チームの方々も長時間のフライトで疲れていたのでそこまで通訳としての業務には追われず終了しました。

2日目はいよいよ練習を開始して、野球チームに同行している実感が湧いた日でした。そしておそらくこの2週間の中で最もきつい1日だったと思います。というのも、練習中に突然選手何名かと監督一名が体調が悪いと訴えてきて、私が医務室に同行、そして、彼らの体調をドクターに伝えるという役割を担うことになったのです。

大学でこの大会の説明を聞いた際には医療現場には全く関わらないことになっていると聞いていたので、聞いた話と違うなと思いながら半信半疑で通訳をしました。何とかその場はおさめることが出来ましたが、何と練習終了後監督の体調が悪化し、病院に行かなくてはならなくなりました。監督もドクターも英語を話せる方だったので英語も交えつつ、どうにかしてやり過ごすことが出来ました。まさかこのような現場に立ち会うことがあるとは思ってもいなかつたので、私にとっては貴重な経験となりました。なんだか精神的にも鍛えられた時間でした。

次の日からは試合も始まり、野球のルールをしっかりと理解していないかった私は時々頭がはてなになるタイミングもありましたが、基本的には選手交代以外には通訳として呼ばれるることはなかったので安心して試合観戦が出来ました。一度だけ審判と対戦チームのマネージャーが揉め、コロンビアチームのコーチと共にグラウンドに出たこともありましたか…。

また私がサポートしたコロンビアチームに付いてくださったいわき市の職員の方はとても頑張り屋で、親切で本当に良い方でした。当初は多少の英語しか分からなかったため、正直大丈夫かな?と心配する気持ちもあったのですが、野球経験者ということもあり、みるみるうちにチームのメンバーと仲良くなっている、「たつや、たつや」と呼ばれるようになっていました。その光景を見て、もちろん言葉が通じることで便利な部分も大きいのですが、仲良くなるためには言葉というよりもその人の気持ちが最重要なのだとと思いました。彼は試合後など選手に積極的に「ナイスプレー」などと声をかけていて、その熱意が選手に伝わったのだろうと思いました。総じて、とても頼りになる方だったので、安心して活動することが出来、感謝しています。

試合も重ねて、選手たちと時間を共にしていくうちに彼らも私も話しかけてくれるようになり、日々楽しく過ごすことが出来ました。今まで部活のマネージャーというのをやったことがなかったのでなんとも言えないのですが、後半はまるでコロンビアチームに昔から付いていたマネージャーのような気持ちでいました。初めは言葉の壁を乗り換えるくてはという思いで一杯でしたが、大会が終わる頃には通訳ももちろん大事ですが、それよりも彼らといい思い出を作ろうという思いが強かったような気がします。

この大会を通して、自分のスペイン語力の無さに落ち込み、10月からのスペイン留学への意欲が高まったと同時にスペイン語を操れることでこんなにも人の役に立つことが出来るのだと改めて思い知り、スペイン語を使用する職への興味が大きくなりました。

また最も大きな収穫として、年齢、性別、人種を超えた友人が多く出来たことが何よりの収穫でしょう。彼らと出会えたことで私の夏休みはとても有意義なものになったことは間違ひありません。



よい出会いに巡り会えたボランティア活動

東京外国語大学 西條 佑紀子

私は今回、記録委員長のパブロさんという方に付いて通訳としての活動をさせていただきました。主な内容としては、スコアラー会議の場での会議通訳と、インターナショナルスコアラーとローカルスコアラーの間のコミュニケーションの補助、パブロさんと市職員のコミュニケーションの補助、記録委員長の仕事の印刷などの簡単な手伝いです。パブロさんは基本的にホテルに滞在しており、スタジアムで問題が発生すればすぐにかけつけるということで毎日の移動は予測がつかず、ぎりぎりまで予定がわからないことが多かったです。毎日すぐに動けるように待機していました。

会議通訳に関してですが、到着した日に翌日の会議通訳をしてほしいといわき市のアテンドの方から依頼され急遽ではありますが、ルールブックや大会要項を読み込みました。加えて、同じホテルに滞在していた神田外語大学4年の佐久間さんが野球の簡単な単語帳を印刷してくれたので、それも詰め込みました。頭いっぱいに野球の知識と、おなか一杯に不安をかかえてスコアラー会議に臨みました。始まってみると、詰め込んだルールブックやらの知識をつなげてだいたいの通訳はすることができました。スコアのつけ方に関するところはまったく知識がなかったのですが、ローカルスコアラーの方たちとコミュニケーションをとりながら重要なことは確認するようにしました。

コミュニケーションの補助に関しては痛感したことが2つあります。まず、自分の発話力のなさです。文法がよくないのか、発音がよくないのか一度で言いたいことを伝えきれないことが何度かありました。相手の言いたいことは聞き取って理解できるのですが、日本人の日本語をかみ砕いて英語にすることが難しかったです。そういうときは、日本人の方に何を言いたいのか詳しく聞いたり、単語を言い換えるなどして対応しました。ホテルに戻った後で神田外語大学の先輩方に先輩ならどうやって英語にするか、ということを聞いてみたりもしました。先輩方は私の質問に答えるだけではなくて、それに関連することも教えてくださって本当にいい勉強になりました。二つ目は、知識がないと英語にできないということです。記録委員長は大会のホームページ運営の責任者でもあったのでパソコンを使う機会が多かったので、Wi-Fiに関することやパソコンの調子に関することで専門の方との間で通訳をすることがありました。もともとの語彙力が少なかったことに加えて、パソコンに詳しくなかったので表現が思いつかず苦戦しました。野球に関しては知識を持っていたので何とかなりましたが、パソコンに関しては思わず伏兵とでも言いたくなるような感じでした。

2週間ほどいろいろな経験をさせていただきましたが、どれも本当にいい経験でした。自分の英語力をよく見直せたこと、レベルの高い人たちの中で自分のモチベーションをあげられたこと、自分の中の知識を広げ、深められたこと、ほかにも挙げていけばきりがないほど多くのことを身につけられたと思います。よい友達にも出会えたし、尊敬でき目指せる先輩方にも出会えたし、ローカルスコアラーの皆さんにもとてもよくしていただきました。パブロさんとは朝から夜までほとんど一緒にいて、スペインの方だったのでスペインについて話を聞いたり、WBSCのことに関して教えてもらったりして、スペインに遊びに来たら家に泊めてあげるよ、なんて言ってもらいました。このボランティアに参加してよかったことは自分自身の一歩になったことだけでなく、よい出会いに巡り合えたことも大きかったと感じます。



「喜びと感謝、そして未来へ」

侍ジャパン U-15 代表選手

黒須 大誠（背番号 7 投手・外野手）

いわきで15歳以下の野球のワールドカップが開催される。そのニュースを聞いたときから選手として出場したいという強い思いを持って練習に取り組んできました。全国5か所で行われたセレクションに推薦していただき、116名の参加者の中から代表に選出されたときはまだ実感がわかつ夢のような気持でしたが、東京ドームで行われた「がんばっぺいわきナイター」で侍ジャパンのユニフォームに袖を通し、始球式をさせていただいたときはこの上ない喜びを感じました。東京ドームのスタンドからの大きな拍手も嬉しかったのですが、7/29の開幕戦でグリーンスタジアムに集まっていた方々からの拍手や声援は本当に温かく、日本代表に選ばれた喜びをあらためて感じました。

試合を重ねていくうちに、出会って1カ月にも満たないメンバーがどんどん一つになり、最高のチームになっていくことに野球というチームスポーツの素晴らしさを感じ、あまり調子が上がりらず開幕戦で思うような結果を残せずに悩むこともありましたが、このチームで今できることを精一杯やろうと切り替えることができたと思います。

開幕3連勝を果たし、勝てばスーパーラウンド進出が決まる大事なチェコ戦で先発投手を告げられた私は、緊張よりも早く投げたいというわくわくした気持ちで試合に入り、4回を1安打無失点でチームの勝利に貢献することができました。この試合でも平日にもかかわらず市民の皆さんや家族、友人、いわきボーイズや中学校の仲間などたくさんの方が応援に駆けつけ、声援を送って下さいました。それだけでなく、テレビや新聞の報道を見て応援してくださる市民の方も本当にたくさんいて、その方たちへの感謝の気持ちを込めて1球1球大切に投げられたことが良い結果につながったと思います。また、4回にエラーや四球などでランナーを背負った場面でセンター前ヒットを許しましたが、仲間達の好守で失点を防ぐことができ、ベンチでもみんなが笑顔で迎えてくれました。本当に心強く頼もしい、心をひとつにした仲間たちに囲まれ、最高の試合だったと思います。

決勝でキューバに敗れ、目指していた世界一には手が届きませんでしたが、チーム全員が一丸となって最後まであきらめることなく戦いました。試合後は悔しさで全員が涙を流しましたが、不思議と悔いはなかったように感じます。閉会式後の最後のミーティングではこのチームでもう試合をすることができない寂しさが込み上げてきて、涙を流しながら抱き合いました。

この大会を通して野球は人と人とをつなぐものだということを実感し、自分自身もたくさんの方に支えていただいて野球ができていることを再確認しました。いわきの方たちへの感謝の気持ちを忘れず、自分の足りないところを磨いて、次はU-18の代表として応援していただけるように努力していきたいと思います。本当にありがとうございました。



【侍ジャパン U-15 代表選手】

北田 雅也（背番号 1 投手）



対戦国の中にはボロボロのグローブでプレーし、難しい打球も諦めずに食らいつきアウトにしてしまう選手がいました。自分がどれだけ恵まれた環境で野球が出来ていたのかを痛感し、感謝の気持ちを持つようになったこと、そして彼らに負けない強い気持ちで取り組まなければいけないなと思う機会になりました。大会に出場しなければ出来なかった経験ばかりで、全員が団結して掴んだ準優勝の銀メダルは、順位以上に意味のあるものです。

不後 祐将（背番号 3 投手・外野手）



同年代の世界のトップ選手たちと力をぶつけ合えたのはとても良い経験でした。貪欲にただ勝利だけを狙いプレーするアメリカチームの気迫に圧倒されましたが、それが僕らの決勝進出にもつながったと思います。閉会式後には、合同練習したニュージーランド代表から、お礼の「ハカ」を披露してもらいました。相手への敬意を表すものらしく、言葉が分からなくても心が通じ交流が図れたのも思い出に残っています。

及川 雅貴（背番号 11 投手／最優秀防御率）



チームで掲げた「世界一」の目標に、どの国よりも強い気持ちで最後まで諦めず戦えたことは一番の思い出です。また決勝戦など大事な試合で先発させていただき、とても良い経験になりました。目標には届きませんでしたが、世界2位も誇れる成績で、これも皆さんのお援がかったからだと思います。この大会で味わった悔しさは高校や、その先でも生かしていきたいです。

岡田 幹太（背番号 17 投手）



この大会を通じ、野球は一人じゃ出来ないということを改めて実感しました。試合中の飲み物、試合・練習会場の準備、僕たちの泊まるホテル…全ていわき市の方々のサポートがあってプレーできているんだなと気づかされました。

開幕戦の先発を任せられ、あれほど多くの観衆が集まり、地に足が着かないほどの緊張感を味わったのは初めてで、貴重な経験になりました。そして休養日に訪問した被災地では、まだ復興作業が続いていることに驚きましたし、だからこそ自分たちのプレーで勇気を与えられるように頑張ろう！勝ってやろう！という思いが高まりました。貴重な経験の数々、本当にありがとうございました。



櫻井 佑輝（背番号 18 投手・外野手）



高いレベルの試合を経験し、何事にも動じない強い気持ちを持てるようになりました。目標には届きませんでしたが、全員の気持ちを一つにして掴んだ世界2位は一生の思い出です。監督、コーチから教えていただいた指導の数々、あと一つ勝てず味わった悔しさは次のステージでぶつけて行きたいと思います。大会を支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。

星野 恒太朗（背番号 19 投手）



世界中の野球が上手い選手と、たくさんのお客さんが集まる中、今までにない緊張感を味わいながらプレー出来たことが、自分にとって一番の財産となりました。地元に戻ってからの試合でも、この経験のおかげで緊張せず常に冷静にプレーできる様になりました。

ホテルではお風呂清掃のスタッフさんが大浴場の時間を長くしてくれたり、自分達が過ごしやすい環境を作ってくれました。またグランドのメンテナンスをして下さったいわき市の皆さん、大きな声援を送ってくれた湯本第二中の皆さんのが支えが、僕たちの力になり準優勝につながったと思っています。

そして、一番の思い出は世界で2位になれたことです！試合をする前は世界の相手はやっぱり強いんだろうなと思ってましたが、戦ってみると日本も全然負けてなくて。チームも試合ごとに結束し、この前集まつたばかりのメンバーなのに最後は自分のチームの様に伸び伸び野球ができました。この結果は一生の宝物！チームのメンバーと出会えたことも宝物です。いわきの皆さんにまた良い報告ができる様に、これからも互いに高め合って行きたいです。

宮城 大弥（背番号 21 投手・外野手）



試合前、国歌が流れるたびに「國を背負う」ことを意識し、チーム一丸になって戦えたことは印象に残っています。中でも、中学校の皆さんが球場に来てくれた時の応援は、本当に感動しました。決勝戦に行けたのも、いわき市の皆さんのサポートがあったからこそだと思います。「感謝」の気持ちを忘れずに、負けて味わった悔しさをバネに、これからも頑張っていきたいと思います。応援してくれた皆さんありがとうございました！

増木 武寛（背番号 23 投手）



海外の選手と戦うのは初めてで、最初は怖さや不安ばかりでした。スタンドからの大声援は、そんな思いを吹き飛ばし、相手打者に向かっていく力になりました。不安を乗り越え自分に自信を持ってプレーが出来るようになったのは一番の経験です。「世界一」を目標に、仲間と一緒に過ごした日々、一緒に汗をかき、涙を流したいわきの夏は一生の思い出です。本当にありがとうございました。



鈴木 琉晟（背番号 2 捕手・内野手）



「野球でいわきの皆さんを元気づけたい」という思いで一生懸命戦いました。優勝には一步届きませんでしたが、精神面、技術面ともに成長できた思い出深い夏になりました。今後いわき市を訪れるたびにこの大会の出来事、そしていわき市の皆さんの温かさを思い出すとおもいます。本当にありがとうございました。

野口 海音（背番号 10 主将・捕手）



僕たちが全力で野球が出来る環境を作ってくださったいわき市の皆さん、本当にありがとうございました。大会を通じ、指導者のアドバイスで技術的に成長できたところもありますが、自覚や責任感を持って行動できるようになったこと、また感謝の気持ちを持って野球に取り組めるようになりました。

そして 20 人の代表選手、監督、コーチ、マネジャー、トレーナー、通訳、みんなが力を合わせたからこそ、準優勝できたと思っています。最高の仲間と、最高の一生の思い出ができました。

星子 海勢（背番号 22 捕手）



地元・熊本も大きな地震で、一時は学校に避難して車中泊を経験したので、いわき市の方々の「大会で地元を元気にしたい」という気持ちに触れたときには、僕も活躍して熊本に明るいニュースを届けたいという想いでした。勝った喜びも負けた悔しさも最高の仲間と共にし、U-15 で過去最高の成績を残すことができ一生の思い出になりました。

田口 夢人（背番号 4 内野手／大会ベストナイン 最優秀守備）



最後まで諦めなければ何かが起きる。そして、チームが一つになれば持っている以上の力を出すことが出来るということを学びました。湯本第二中学校の皆は初めて会う僕らに、自分の学校の仲間のように応援してくれて、本当に嬉しかったし、すごく力になりました。閉会式後に皆で焼肉を食べ「また 10 年後、プロ野球選手になってここで集まろう」と約束したのが一番の思い出です。



嘉手苅 将太（背番号 5 内野手）



目標の世界一はなりませんでしたが、日本の野球の力を世界に発信することが出来ました。メダルを手にし「僕らでもこんなに大きな事を出来るんだ」と自信を持てたことは今後の大きな糧になりました。それもこれも球場に駆けつけ応援してくれた湯本第二中学校のみんな、またみんなに素晴らしい球場を整えてくださったいわき市の皆さんのがあってのことです。本当にありがとうございました。

近藤 大樹（背番号 6 内野手）



大会一番の思い出は、決勝戦終了後、全員で泣いたこと。負けた悔しさと、最高の仲間とこれで離れ離れになる寂しさと。あの涙は今後の野球で絶対に役に立つと思います。また、いろんな方々のサポートがあって最高の環境でプレーすることができました。自分の結果のためにプレーするのではなく、その方々への感謝の気持ちを持ってプレーする、そんな気持ちを持つことが出来たのも個人的に大きな経験でした。U-15で経験した全てのことを活かし、今後の野球人生を全力で頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

辻 憲伸（背番号 12 内野手・投手）



この大会で、自分よりも高いレベルの選手を間近で見て、その差は何か？どうしたらその差を補えるのか？が明確になったことは一番の収穫でした。また侍ジャパンを経験し、「全力プレー」が当たり前になっここと、「日の丸」を汚せないという自覚を持てるようになったのも成長でした。

一番の思い出は、負けた決勝戦。大量リードを奪われ、これまでの自分だったら諦めていたはずでした。それでも5回終了の整備時間、ロッカーチームに気合い入れてもらって、息を吹き返したようにキューバを追い詰めていく。心強い仲間だったし、だからこそグラウンドの仲間のために全力で応援することが出来ました。試合後のロッカールームで全員が涙を流したあの光景は一生忘れません。

中田 唯斗（背番号 15 投手・内野手）



湯本第二中学校にお邪魔した際、目の前でプラスバンドの応援を披露していただきました。その迫力に圧倒され「日本を背負ってる」ことを自覚して大会に臨むことが出来ました。試合ではうまくいくことも行かないものもありましたが、チーム一丸となって戦い、時に笑ったり、悔しくて泣いたり、色々な感情と一緒に出来たのは最高の思い出です。本当にありがとうございました。



小山 翔暉（背番号 16 内野手・投手）



世界一を決める大会で、これまで経験したことがない緊張感を味わいました。またチームメートも上手い選手ばかりで、結果を残さなければ試合に出られなくなるという危機感も常にありました。短い期間でしたが、高いレベルの中で切磋琢磨したこと、自分のチームに戻ってからは、ピンチでも動じず、余裕を持ってプレーできるようになりました。試合では湯本第二中学校の迫力ある応援に感動しましたし、僕たちの力になりました。支えて下さった方々には、準優勝という結果でしたが、少しは恩返しが出来たかなと思います。

稲生 賢二（背番号 8 外野手／大会ベストナイン 大会最多得点）



スタンドからの声援や、湯本第二中学校のプラスバンド応援は、本当に励みになりました。持っている全ての力どころか、200%の力を発揮することができました。そんな支えに感謝の気持ちを持ってプレー出来たことは自分が一番成長したところです。また最高の指導者、最高の仲間と一緒に野球が出来たことは一番の思い出です。本当にありがとうございました。

植田 太陽（背番号 9 外野手）



世界の頂点を決める一戦一戦の緊張感はこれまで味わったこともないものでした。そして会ったことも話したことのない選手たちと短期間で結束して、チーム一丸となって世界2位という結果を残せたこと、さらに世界中の選手たちと交流し、また会うことを約束できたことは一生の思い出です。いわき市の皆さんへの熱い応援には毎試合勇気をもらいました。大会を通じ、応援してくれる人たちへの恩返しを忘れずに頑張ろうと心に刻むことが出来ました。





第VI章

経済効果算定

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき」 開催に伴う地域への波及効果に関する調査報告書（概要版）

東日本国際大学

実施責任者：福迫昌之（副学長）

1. 産業連関表分析による地域経済波及効果

「第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ 2016 in いわき（以下、「U-15 ベースボールワールドカップ」）」が、2016年7月29日（金）～8月7日（日）にわたって、福島県いわき市において開催された。今回のイベントでは、パンフレット、公式グッズ、売店など大会売上関係が約560万円、宿泊費、事務機器借上げ代、バス借上げ代など市内消費実績（市内企業への支払い実績のみ、市外企業分は含まず）が約8,337万円、さらに7/30～7/31に開催されたイベント「Hulaと世界の美食の祭典」では約1,000万円の売上があった（いずれも「U-15 ベースボールワールドカップ」開催支援委員会調べ）。

こうした実績を踏まえ、「U-15 ベースボールワールドカップ」の参加者・来場者の消費支出額のもたらす地域経済波及効果について試算した。（福島県の平成23年産業連関表を使用）

「U-15 ベースボールワールドカップ」は、日本代表合宿が始まった7月25日から8月7日の決勝戦まで、14日間（予備日1日含む）にわたって、いわき市に世界12の国と地域（日本代表含む）の少年達が集い、各国・地域からの応援団など観客も多数来場した。

今回のイベントへの来場者は、①役員（海外含む）、②選手団、③応援団（国内外）、④観客、⑤スタッフ・開催支援者のほか、⑥報道陣・メジャーリーグスカウト及び関係者などで、14日間で延べ来場者数を47,151人と推計した（「U-15 ベースボールワールドカップ」開催支援委員会調べ）。

このうち、選手・応援団等および観客の1割を宿泊客（13,823人）、9割の観客を日帰り客（33,328人）とし、これらの来場者が福島県平均の観光消費額^{*}を消費したとすると、直接支出額582百万円に福島県の自給率を掛けた直接効果が436.4百万円と求められる。

直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果を合わせた総合効果（生産誘発額）は669.36百万円となる。また、これらの効果のうち、原材料やサービス等の仕入れを除いた分が粗付加価値額357.29百万円となり、雇用者へ支払った賃金等が雇用者所得192.95百万円となる。

「U-15 ベースボールワールドカップ」産業連関分析による経済効果の試算結果（百万円）

	生産誘発額
直接効果	436.430
1次間接波及効果	136.148
2次間接波及効果	96.780
総合効果	669.358

（注）直接効果は、直接の支出による効果。1次間接波及効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。2次間接波及効果は、直接効果、1次間接波及効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。

○簡易経済効果算定モデルによる試算**

人数×単価×(宿泊率×a+日帰り率×b)×c×生産波及倍率=総合効果

- ・単価=宿泊客消費額単価（県内・県外） $\approx 25,000\text{円} + \alpha$ （基準値 25,000 円）
- ・生産波及倍率…1 単位当たりの最終需要に対する生産波及の大きさ「県内自給率×効果倍率」
- ・係数：a ≈ 1.2 …宿泊効果、係数 b ≈ 0.2 …日帰り（県外）効果、c = 1+宿泊割合（補正係数）

この「簡易経済効果算定モデル」で「U-15 ベースボールワールドカップ」の地域経済効果を試算すると、
・ $47,151\text{人} \times 25,000\text{円} \times (0.29 \times 1.2 + 0.71 \times 0.15^{注1}) \times 1.09 \times 1.14 = 668.508\text{百万円}$
となり、経済波及効果は 668.508 百万円と試算される。

※注 1：今回のイベントの日帰り客は市内在住者が大半を占めると考えられるため、日帰り（県外）

効果を補正した（消費単価の県内／県外比）。（産業連関分析、「簡易経済効果算定モデル」共通。）

2. 広告換算価値等

「U-15 ベースボールワールドカップ」は、プロ野球公式戦のようなマス・メディアでの露出は及ばないものの、被災地における国際大会として様々なメディアで報道された。こうした報道等を広告費・PR 費として換算し、試算すると下記のような結果となった。（ニホンモニター株式会社調べ）

1 テレビ中継における広告換算料金	合計	¥ 85,287,500
2 テレビ報道における【いわき関連】の広告費換算料金	合計	¥ 97,158,434
3 新聞記事における【いわき関連】の広告費換算料金	合計	¥ 32,305,838
広告費換算		合計 ¥214,751,772

3.まとめ

「U-15 ベースボールワールドカップ」開催による地域経済波及効果は、

- ①試合開催（興行）による経済効果…約 6 億 7 千万円
- ②広告換算による効果…約 2 億 1,500 万円

単純計算で計：約 8 億 8 千万円 ①+②

この他、事前に「1 校 1 国・地域運動」やラッピングバスの運行など様々な事業を展開しており、それらの経済効果、広告効果なども見込まれる。また、野球教室・講演会の開催や国際交流など、社会的効果、教育効果も地域にもたらされたと考えられる。

*「平成 27 年 都道府県別、観光入込客数（実）・観光消費額単価・観光消費額（日本人・観光目的）」より。今回のイベントには、選手・応援団など多数の外国人が来市し、通常外国人観光客の消費額は国内観光客より多いが、通常の観光客とは異なるため、日本人観光客の消費額として統一して扱うこととした。

**平成 26 年度いわき市「大学等と地域の連携したまちづくり推進事業」「公園施設などを用いた興行によるシティーセンタース、交流人口の拡大、地域経済波及に関する研究報告書」東日本国際大学地域経済・福祉研究所、平成 27 年 3 月。

第VII章

報道記録

2014.12.13

読売新聞 [全国版]

◆福島で2016年U-15W杯
全日本野球協会は12日、2016年
年のU-15（15歳以下）ワールドカ
ップ（W杯）を、8月上旬に福島
県いわき市で開催すると発表し
た。同日の理事会で承認された。
12チームが出場予定で、同大会の
日本開催は初めて。

野球

2015.3.21

読売新聞 [福島版]

野球U-15W杯推進 いわき市が委員会

いわき市は、2016年8月に同市で開催される野球のU-15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に向けて準備を進める推進委員会を設立し、20日に初会合を開いた（写真）。



2015.11.16

読売新聞 [福島版]

来年8月にいわき市で開催される野球のU-15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に向けて機運を高めるため、プロ野球・読売巨人軍の元外野手、吉村禎章さんが講師を務めるティーボール教室が13日、同市立好間第一、高坂小学校で開かれた。

市が企画し、児童計約130人が参加した。好間第一小では6年生59人が、バッティングで打つ際のコツや、ボールの投げ方などを教わった。また、高坂小学校で開かれた。

宇津木寿輝君（12）は「きれいなフォームで遠くまで球を飛ばしたので驚いた。大きめをしてもらひながら打で出場した吉村さんのランニングホームランを目の当たりにして大きな歓声を上げていた」。

元巨人・吉村さん 打撃伝授 いわき ティーボール教室



吉村禎章さんの助言を受けながらティーボールの試合を楽しむ児童ら（13日、いわき市で）

野球のU15W杯 来年7月29日から

全日本野球協会は、いわき市で来夏に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）の日程を来年7月29日～8月7日と発表した。世界野球・ソフトボール連盟（WBSC）が開催しており、第3回のいわき大会では、いわきグリーンスタジアムと南部スタジアム、平野球場の3球場を使う。

12チームが参加予定で、日米のほか台湾やキューバ、韓国などの出場が見込まれている。1次予選のリーグ戦と2次予選の後、最終日に成績上位2チームによる決勝戦と3位決定戦が行われる。

2015.12.2

読売新聞〔福島版〕

野球U15W杯向け 古田敦也さん指導

いわき市で7月29日に開幕する野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に向けた野球教室が23日、御厩小学校と泉中学校で開かれ、プロ野球・ヤクルトの元監督兼捕手、古田敦也さん（50）が児童や生徒らを指導した。

御厩小では、6年生59人に對し、台に載せたボールを打つティーバッティングのコツやボールの投げ方などを教えた。参加した渡辺真大君（12）は「古田さんは下半身をしっかり使って打っていた。中学校でも野球を続けるので、参考になつた」と喜んでいた。泉中では全校生徒に對し、目標に向けて頑張る人切きをテーマに講演。野球部員への技術指導も行つた。

古田さんは東京電力福島第一原発事故があつた2011年から県内を訪れているといい、「原発事故で外で遊べなかつた子供たちが元気に野球を楽しんでいる姿を見て、ぐんと来た」と感概深げだった。



古田さん（中央奥）の指導を受け
る児童たち（23日、いわき市で）

2016.2.24

読売新聞〔福島版〕

2016.3.16

読売新聞 [福島版]



いわき開催の野球U15W杯

監督に元巨人の鹿取氏

いわき市で7月29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下の「大会応援大使」）に、矢吹町出身でプロ野球横浜DeNAベイスターズ監督を務めた中畠清氏（62）が就任したと発表した。日本代表監督として、元巨人投手の鹿取義隆氏（WBSC）から連絡があり、参加チームが決まったと発表した。日本代表監督は元巨人投手の鹿取義隆氏

に決定。大会公式ロゴ＝WBSC提供＝も公表された。大会は隔年実施で、今回で3回目。1、2回目はメキシコで行われた。開催国前回、金メダルのキューバ、銀メダルのアメリカ、銅メダルのベネズエラ、パナマ、コロンビア、メキシコ、韓国、台湾、チエコ、オーストラリア、ニュージーランドの12か国・地域のチームが参加する予定。市内の12中学校が1校ずつ参加国・地域のチームを吹奏楽で応援したり、休養日に交流したりする「1校1国運動」の実施も決まった。市は大会の運営ボランティアなどを募集している。問い合わせは交流推進課（0246-22-7032）へ。

2016.3.23

読売新聞 [福島版]

野球U15W杯の応援大使に中畠氏

7月29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下の「大会応援大使」）に、矢吹町出身でプロ野球横浜DeNAベイスターズ監督を務めた中畠清氏（62）が就任したと発表した。同市を通じ、中畠氏は「元気な福島を世界に発信する手伝いができる喜びを感じている。選手のみならず、福島の子供たちにも思い出に残るような大会になるよう応援する」とのコメントを出した。

大会には、開催国の日本（WBSC）から連絡があり、参加チームが決まったと発表した。日本代表監督として、元巨人投手の鹿取義隆氏（WBSC）から連絡があり、参加チームが決まったと発表した。日本代表監督は元巨人投手の鹿取義隆氏



2016.4.1

読売新聞〔福島版〕

いわき市で7月29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）で、出場する12の中学校の代表チームと交流する中学校を決める抽選会が28日同市役所で行われた。参加を希望した12中学校が、1校ごとに1チームを担当する取り組みで、試合

では吹奏楽で応援するほか、代表チームメンバーの母語や地域の文化、習慣を学んだり、休養日には交流会を開いたりする。

抽選会では、各校の代表者が抽選箱から国旗などが描かれたカードを引いて担当を決めた。オーストラリアに決まった四倉中2年の

「文化勉強しおもてなし」

野球U15交流中学が決定

1校ごとに1チーム担当



表書き
(28日、いわき市で)

金丸達也君（14）は「事前に文化を勉強し、おもてなしの心を持って歓迎したい」と話していた。このほかの担当は次の通り。

平第三（コロンビア）▽▽
中央台北（ベネズエラ）▽▽
第一（アメリカ）▽湯本第三（日本）▽植田（キューバ）
二（韓国）▽小名浜第一（チエコ）▽東（台湾）▽湯本第二（日本）▽植田（キュージーラン）
△大野（メキシコ）▽内郷第一（日本）▽植田東（ニュージーランド）

2016.4.17

読売新聞〔全国版〕

◆野球U-15代表のトライアウト「侍ジャパン」U-15（15歳以下）のメンバーを選考するトライアウトが10日、愛知県豊田市で行われた。7月に福島県いわき市で開幕するU-15ベースボールワールドカップの日本代表入りを目指し、中部地区の中学生19人が参加した。U-15の鹿取義隆監督が見つめる中、各リーグから推薦された選手たちが、走塁や守備、打撃練習で実力をアピールした。トライアウトは今後、各地で行われ、5月下旬に代表20人が決まる。

2016.4.21

読売新聞〔福島版〕



野球U15W杯

あと100日だよ

いわき市で7月29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）まで100日となった20日、市役所前にカウンタダウンボードを設置するイベントが行われた＝写真＝。

元読売ジャイアンツの松本匡史さんが参加し、「いわきに世界の子供が集まり、その野球が見られるのは励みになる」とあいさつ。地元の平第一幼稚園の園児ら約90人と一緒にボードの除幕を行い、記念撮影した。その後、松本さんは、大野第二小学校で児童らに打撃のコツを教えた。

2016.5.2

読売新聞 [福島版]

**中畠清さん指南
野球教室に250人**

いわき市で7月29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）の応援大使として、プロ野球・横浜DeNAベイスターズ監督を務めた中畠清さん（62）（矢吹町出身）による野球教室が1日、いわき市錦町の南部スタジアムで行われ、市内16中学校の野球部員ら約250人が参加した。

中畠さんは、キャッチボールでは「投げる時は体を大きく使う」、素振りでは「スイングは常に力強く」などと、身ぶり手ぶりを交えて具体的に指導。藤間中1年、田中裕一郎君（13）は「丁寧に教えてもらつてうれしい」と感激していた。

中畠さんは同市でのU15W杯開催について「成功させて、福島の復興を世界中にアピールしたい」と意気込んでいた。



スイングのコツを教える中畠さん（1日、いわき市で）

2016.6.9

読売新聞 [福島版]

2016.6.22

読売新聞 [福島版]

いわき市で7月29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に出場する日本の初戦は7月29日、午後7時。

U15野球W杯 いわき開催

初戦はオーストラリア

開催支援委員会事務局によるU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に出場する日本の初戦は7月29日、午後7時。

U15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）の応援大使として、プロ野球・横浜DeNAベイスターズ監督を務めた中畠清さん（62）（矢吹町出身）による野球教室が1日、いわき市錦町の南部スタジアムで行われ、市内16中学校の野球部員ら約250人が参加した。



いわき市で7月29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に出場する日本の初戦は7月29日、オーストラリアを相手に同市のいわきグリーンスタジアムで行われることが決まった。プレイボールは

月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に出場する「侍ジャパン」U15日本代表の20選手が21日発表され、いわき市の市立中央台球場で、大会の応援キャラクターとともに、写真撮影に応じる黒須選手（21日、いわき市のいわきグリーンスタジアムで）

日本中学硬式野球協議会などが発表した。黒須選手は「いわき市出身の選手としては、世界をを目指してがんばりたい」と話した。

黒須選手は、小学1年で野球を始め、現在はいわきボーラーズで投手をしている。1年88の高い身長を生かしたプレーが特徴。4月に神奈川県で行われたトライアウトの結果、外野手として選ばれた。

選出は公式ホームページで知ったといい、「選ばれただけが選ばれた。東北地方からまだ一人の選出。」と抱負を語った。選手は7月2、3日に東京都内で強化合宿を行う。

野球W杯代表に黒須選手

U15「いわき出身として世界へ」

野球を始め、現在はいわきボーラーズで投手をしている。1年88の高い身長を生かしたプレーが特徴。4月に神奈川県で行われたトライアウトの結果、外野手として選ばれた。

選出は公式ホームページで知ったといい、「選ばれただけが選ばれた。東北地方からまだ一人の選出。」と抱負を語った。選手は7月2、3日に東京都内で強化合宿を行う。



2016.6.24

読売新聞〔福島版〕

鹿取監督 いわき市長訪問

野球U15W杯 大会への抱負語る

いわき市で7月29日～8月7日開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に出場する「侍ジャパン」U15日本代表監督の鹿取義隆さん（59）が22日、同市の清水敏男市長を訪れ、大会への抱負を語った。

鹿取さんは現役時代、巨人、西武に在籍し、中継ぎや抑え投手として活躍した。その後、日本代表チーム「侍ジャパン」の投手コーチになり、現在もチームのテクニカルディレクターを務めている。

鹿取さんは清水市長に日本代表のユニホームを贈り、「出場する選手の中から、将来のプロ野球選手が生まれる。最善を尽くします」と意気込みを語った。清水市長は「各国から選手が集まり、風評被害の払拭になる。ぜひ優勝してほしい」と話した。

鹿取さんは「少しでも地元の人々に笑顔になつてほしい。いわきの選手も選ばれていて、大変期待している」と話した。

2016.6.25

読売新聞〔福島版〕

野球U15W杯 応援給食



給食で出されるグラブ形のパンとゼリー

いわき市は24日、7月29日～8月7日に同市で開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）にちなんで、市内すべての小中学校で応援給食を提供すること発表した。

品のイチゴを練り込んだグラブ形の「15グローブパン」や、参加国・地域の旗と「世界12の国と地域からいわき市を訪れる中学生にみんなで声援を送ろう」というメッセージが書かれた応援ゼリーなど。市内106の小中学校の児童生徒約2万5700人に7月7～15日の間、それ一日提供する。

2016.6.30

読売新聞 [福島版]



コロンビアを応援する横断幕を作る生徒たち（いわき市の平第三中学校で）

野球U15W杯

いわき市で開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）まで、29日あと1か月となった。市では東日本大震災から5年が経過した被災地の復興を世界に発信するチャンスとして、市民参加型の受け入れ準備を進めている。

いわき市の平第三中学校では28日、美術部の生徒ら約20人がコロンビアの選手を応援する横断幕の色塗りなどを行った。市内の12中学校が1校ずつそれぞれ異なる参加チームを応援する「1校1国運動」の一環である。同中学校は抽選でコロンビアを応援することになつた。おもてなしの心で、訪れる選手を歓迎したいと市が企画した取り組みだ。

青、黄、赤というコロン

あと1か月 準備加速

いわき 横断幕作り、1店1国運動

ビア国旗の色を付けた横断幕には「ONGAESH（恩返し）」などの文字が刻まれている。部長の佐藤友衣さん（15）は「震災時は各國から支援を受けた。感謝を伝えたい」と話す。

日本では初めての開催となる大会には、12の国・地域のチームが参加する。いわき市内の3球場で7月29日～8月7日に行われ、訪れる選手は約400人に入る。

横断幕は7月上旬に完成する予定で、生徒は試合当日、この横断幕を掲げてコロンビア代表を応援することになっている。

市ではこのほか、各国の特産品などを扱ってもらう

「1店1国運動」を市内の商店に呼びかけている。地元スーパーとの間で調整が進んでいるという。

県内の他の自治体でも大会を盛り上げる動きが広がっている。昨年9月に避難は、米国ユーティリティード市と姉妹都市の関係を結んでいた。同年9月に避難指示が解除された檜葉町で、市にある仮設中学校に通う生徒が寄せ書きを作つてア

メリカチームに贈ることにしているほか、大会当日は町を挙げて応援に行くといふ。いわき市では大会を成功させ、2020年の東京五輪で採用されることが濃厚となっている野球種目の予選説明などこつなげたい考えだ。清水敏男市長は「市民が故郷を誇りに思う大会にして、世界中の人に福島の元気を発信すること意気込む」。

2016.7.3

読売新聞 [全国版]

福島県いわき市で開催される野球のU-15(15歳以下)ワールドカップ(W杯)に出場する「侍ジャパン」U-15日本代表の強化合宿が2日、東京都内で始まった。全国からトライアウトで選ばれた20選手が参加し、シートノックやフリー打撃で汗を流した。U-12日本代表の仁志敏久監督らが臨時コーチとして招かれ、捕球姿勢などを指導した。

強化合宿始まる



意気込みを見せる鹿取監督（中央）ら

鹿取義隆監督は練習後の記者会見で、「侍ジャパンの誇りを持って、世界一を取れるように頑張りたい」と決意表明。野口海音主将（松原ボーアイズ）は「中学生活らしく元気良く、チーム一丸となって戦う」と意欲を見せた。

合宿は3日まで。大会には12か国・地域が参加し、29日に開幕する。日本代表は24日に現地入りして豪州との初戦に備える予定。

2016.7.6

読売新聞 [福島版]



不審物に見立てるバッグのないをかぐ探知犬(5日、いわき市で)

野球W杯会場でテロ対策訓練
いわき市で29日～8月7日開催される野球のU-15(15歳以下)ワールドカップ(W杯)でのテロ対策として、県警などは5日、会場のいわきグリーンスタジ合宿は3日まで。大会には12か国・地域が参加し、29日に開幕する。日本代表は24日に現地入りして豪州との初戦に備える予定。

開催支援委員会事務局は、いわき大会のスペシャルゲストに、ミュージシャンのサンプラザ中野くんが決まったと発表した。東日本大震災後、同市でミニライブを開くなどした縁があるという。29日夕の開会式前にミニライブを行う。

アムの客席に爆発物入りのバッグが置かれたとの想定での訓練を実施し、25人が参加した。

訓練では、爆破予告を受けて警察官が探知犬を使って不審物を探し、客席下のバッグを発見。防護服や防爆服を着た警察官らがマジックハンドを使って回収し、爆発物処理車で運んだ。県警の橋本宗男警備監は「有事の際は万全を期したい」と話した。

2016.7.14

読売新聞〔福島版〕



いわき市で29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に向けて、米オハイオ州の市と姉妹都市になつてゐる楢葉町の楢葉中学校の生徒ら56人が、米国代表を応援する横断幕（縦1・2尺、横4尺）を作つた。試合会場で掲げる。

米国旗や、「ONGAESHI（恩返し）」の文字、「諦めるな」「君ならできる」「盛り上げたい」と話していた。

楢葉の中学生 米代表に横断幕

野球「U15」W杯「大会盛り上げたい」

いわき市で29日～8月

7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に向けて、米オハイオ州の市と姉妹都

市になつてゐる楢葉町の

楢葉中学校の生徒ら56人

が、米国代表を応援する横

断幕（縦1・2尺、横4尺）

を作つた。試合会場で掲げ

る。

米国旗や、「ONGAESHI

（恩返し）」の文字、

「諦めるな」「君ならでき

る」「盛り上げたい」と話

していた。

2016.7.26

読売新聞〔福島版〕

U15野球W杯代表
いわきで全体練習
いわき市で29日～8月7
日に開催される野球のU15
(15歳以下)ワールドカップ
(W杯)に出場する同市
出身の黒須大誠選手ら日本
代表20人は25日、会場の一
つの同市常磐湯本町のいわ
きグリーンスタジアムで全
体練習を行つた。

同日午前10時から休憩を
挟んで午後4時までで、内
野の守備や投手のけん制な
どを確認し、鹿取義隆監督
は「サインプレーなど細か
い連係もできていた」と話
した。黒須選手は「チーム

の皆さんと仲が深まってきた。
世界のトップと試合するの
が楽しみ」と語った。
日本代表は26日にボーキ
ズリーグ東北選抜と練習試
合をし、27日にはニュージ
ーランド代表と合同練習を行
う。初戦のオーストラリ
ア戦は29日午後7時から同
スタジアムで行われる。



守備練習する日本代表の選手ら（25日、いわき市のいわきグリーンスタジアムで）

日本はどんな戦いをしていくのか、また、この世代の選手に何を学んでほしいのか。鹿取義隆監督に思いを聞いた。

2014年の前回大会は、力負けした部分があった。米国とパナマは先発がどちらも左投手で、400gの球を投げていてスピードについていけなかつた。——今大会は韓国、キューバ、豪州、エコ、コロンビアと同じ組。

「キューバが強敵。ただ、この年代は一本のヒットでチームが一気に盛り上がる怖さがあるので、他の国も全く油断はできない」

——どんな野球で臨むの



鹿取義隆 監督

(読売新聞スポーツアドバイザー)

「日本の特徴は投手力。また、失点の大半にパスボールとエラーが絡るので、それをどう防ぐかも力爭」

——目標は、「全力を尽くして頑張ってくればいい。優勝を目指す中で、次へのステップとして戦うことになる。勝つことも大事だが、負けて覚えることもある。」この年代で他の国と対戦して、違いを感じることにも意味がある

——日本との違いとは、「フィジカルや、球の速さ

を感じると思う。そういう相手に勝てれば、世界の中に入っても日本の野球が強いといふことがわかる。なぞと負けても、次の年代に上がった時に頑張ろうという気持ちになつてくれればいい」

——伸びしろのある世代。「元々センスのいい子の集まりなので、すぐに吸収できる。試合をする度に、強く、うまくなっていくと思う」

——初めての日本開催。「心強いのは声援。スタン

◆「侍ジャパン」U-15日本代表

背番号	名前	所属
団長	藤田 勇輝	日本少年野球連盟会長
監督	30 鹿取 義隆	読売新聞スポーツアドバイザー
コーチ	31 田代 栄次	湘南ボーズ監督
コーチ	32 石崎 学	取手リトルシニア監督
コーチ	33 大野 久	ヤングリーグ技術顧問

背番号	選手名	所属チーム	学校名	学年	地域
1 北田 雅也	SASUKE名古屋ヤンkees	名古屋市立東星中	3	愛知	
3 不後 知博	神戸須磨クラブ	神戸市立玉津中		兵庫	
11 及川 雅貴	東京リトルシニア	東京市立八日市場第二中		千葉	
17 岡田 駿太	京葉ボーイズ	野田市立東部中		千葉	
18 櫻井 佑輝	浜松ボーイズ	浜松市立福東中		静岡	
19 星野恒太朗	糸島ボーイズ	福岡市立姪浜中		福岡	
21 宮城 大弥	宮野湾ボニーズ	宮野湾市立嘉数中	3	沖縄	
23 増木 武亮	福岡アストロズ	福岡市立下山門中	3	福岡	
2 鈴木 琉風	勝田リトルシニア	ひたちなか市立勝田第三中	3	茨城	
10 野口 海音	松原ボーイズ	松原市立松原第四中	3	大阪	
22 星子 海勢	北熊本ボーイズ	熊本市立武蔵中	3	熊本	
4 田口 茂人	柏木下野リトルシニア	下野市立南河内中	3	栃木	
5 嘉手丸将太	姫路アイアンズ	姫路市立広畑中	3	兵庫	
6 近藤 大樹	姫路ボーイズ	飯塚市立飯塚第一中	3	福岡	
12 社 意伸	桑原ボーイズ	四日市市立鶴山中	3	三重	
15 中田 唯斗	和歌山街坊ボーイズ	御坊市立御坊中	3	和歌山	
16 小山 利洋	愛知木薙川リトルシニア	一宮市立萩原中	3	愛知	
7 黒須 大誠	いわきボーイズ	いわき市立中央台北中	3	福島	
8 稲生 聰二	東海ボーイズ	半田市立乙川中	3	愛知	
9 植田 太陽	武蔵府中リトルシニア	アメリカンスクール イン ジャパン	3	東京	

日本野球の強さを感じる機会

日本はどんな戦いをしていくのが、また、この世代の選手に何を学んでほしいのか。鹿取義隆監督に思いを聞いた。

選手は今月2、3日に強化合宿を実施。U-12日本代表の志敏久監督、巨人などで捕手として活躍した西山秀二氏を臨時コーチに招き、スイングのコツや捕球姿勢など、丁寧な指導を受けた。

海外での大会は、荒れたグラウンドなど環境の違いもプレーに影響するが、その点で心配がないのは日本にとって心強い。地元開催で、志願をかなえたい。

侍ジュニア

およかわ
及川雅貴

投手



137キロ左腕開幕戦に照準

糸を引くような直球が、低めに構えたキャッチチャーミックトに吸い込まれる。「オッケー、いいぞ」。投球を見つめていた鹿取監督が思わずうなづいた。7月2日に東京都府中市で行われた強化合宿。1局81の左腕は、ブルペンでひときわ目を引いた。

長い腕をしなやかに振り、繰り出す直球は最速137キロ。鹿取監督によると、この世代の打者がすぐに対応できるのは、130キロが自安。それを大きく上回るスピードが

「自分の持ち味」だ。守備面でも非凡さは發揮される。投内連係では、素早く口を処理。長身を感じさせない機敏な動きを評価が高い。チームで台湾遠征をし、試合の雰囲気も経験済み。「みんなレベルが高いけど、開幕戦で投げたい」。エースになれる覚悟はできている。

◆日本の予選リーグなどの日程

7月29日	19時	豪州 VS 日本
30日	18時	日本 VS キューバ
31日	13時半	日本 VS 韓国
8月1日	18時	エコ VS 日本
2日	18時	日本 VS コロンビア
4~6日		各グループ上位3チーム同士が戦
7日		決勝、3位決定戦

U-15W杯は、2012年1月に第1回が開催された。日本は、メキシコの政情不安を理由に出場を辞退。同じくメキシコで行われた14年の第2回大会は7位だった。3度目の今大会では、初の世界一に期待がかかる。

前回に続いて代表を率いるのは、鹿取義監督（読売新聞スポーツアドバイザー）。指揮官は4月から全国各地で行われたトライアウトを規模化し、20人を選考した。

勝ち進むためのポイントとなるのは、投手陣。130キロを超える速球派がそろった。連日試合が行われるため、防の防止も含め、指揮官は細かい継投策で臨む。野手登録選手の登板もあるという。

攻撃面では、日本の持ち味である足を生かした攻撃が見

世界と勝負



20人束ねる期待の強肩

野口海音 捕手

いが、持ち前の野球センスと「ミュー」ケーション能力で、投手の良さを引き出そうと努めてきた。ついで、「自らの売り」として「墨への正確な滚球で投手陣を助ける。長打力も魅力で、クリーンアップ候補。1970、72

強化合宿の打撃練習でも鋭い打球を連発した。「打てる自信はある」と言い切る。

「20人みんなの力を合わせることが大切」と、初顔合わせの日から積極的にチームメートに話しかけてきた。世界一を目指す「侍ジャパンの責任感と自覚を持つて戦う」と、意識に力を込める。

The logo consists of the words "SAMURAI JAPAN" in a bold, black, sans-serif font, enclosed within a white-bordered shield-shaped frame. A red circle is positioned at the bottom center of the frame.

15歳以下の野球の世界大会「第3回WBSC（世界野球ソフトボール連盟）U-15ワールドカップ（W杯）2016」が29日、福島県いわき市で開幕する。初の日本開催となる今大会は、12の国と地域が参加。初優勝を目指す「侍ジャパン」U-15日本代表は韓国、豪州、ギリシャなどとの予選リーグに挑む。見所と注目選手を紹介する。



U
15
W

U15W杯 あす福島で開幕

卷之三

卷之三

野球連盟 試合実況新聞社 いわき市
後援) 外務省 指定リテラシー明治
[WBSCクローバルパートナー]
エスエスケイ、ミズノ

2016.7.28

読売新聞【福島版】

野球U15W杯 両監督親交が縁
いわき市で29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に向けて、鹿取義隆監督が率いる日本代表（読売新聞社など共催・主管）が29日、福島県いわき市で開幕する。今大会は初の日本開催で、12の国と地域が参加。「侍ジャパン」U-15日本代表は、初優勝を目指す。

野球U15W杯 両監督親交が縁
いわき市で29日～8月7日に開催される野球のU15（15歳以下）ワールドカップ（W杯）に向けて、鹿取義隆監督が率いる日本代表（読売新聞社など共催・主導）が29日、福島県いわき市で開幕する。今大会は初の日本開催で、12の国と地域が参加。「侍ジャパン」U-15日本代表は、初優勝を目指す。
選手らはストレッチやキヤツチボールの後、合同でフリー打撃や試合形式の練習を行った。日本の初戦の相手はオーストラリア。NZは29日正午から、同市平上荒川の平野球場でパナマと戦う。

NZ代表と合同練習



一緒に走る日本とニュージーランドの代表選手（27日、いわき市で）

2016.7.29

読売新聞【全国版】

侍U15世界一への戦い きょうから福島でW杯

15歳以下の野球の世界大会「第3回WBSC（世界野球ソフトボール連盟）U-15ワールドカップ（W杯）」が29日、福島県いわき市で開幕する。今大会は初の日本開催で、12の国と地域が参加。「侍ジャパン」U-15日本代表は、初優勝を目指す。

鹿取義隆監督はトライアントを全て視察し、代表20人を選んだ。目指すのは、バントなど小技を絡めた攻撃で得点し、投手力で守りきり、実現した。選手らはストレッチやキヤツチボールの後、合同でフリー打撃や試合形式の練習を行った。日本の初戦の相手はオーストラリア。NZは29日正午から、同市平上荒川の平野球場でパナマと戦う。

（日本）日本の試合日程

8月1日（18時）▼2日（18時）▼3日（18時）▼4日（18時）▼5日（18時）▼6日（18時）▼7日（18時）

（韓国）（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）

（チエコ）（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）

（日本）日本の試合日程

8月1日（18時）▼2日（18時）▼3日（18時）▼4日（18時）▼5日（18時）▼6日（18時）▼7日（18時）

（韓国）（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）

（チエコ）（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）

（日本）日本の試合日程

8月1日（18時）▼2日（18時）▼3日（18時）▼4日（18時）▼5日（18時）▼6日（18時）▼7日（18時）

（韓国）（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）▼（13時30分）

（チエコ）（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）▼（18時）

2016.7.29

読売新聞 [福島版]

12の国と地域の代表チームが参加する15歳以下の野球の世界大会「第3回 WBSC (世界野球ソフトボール連盟) U-15ワールドカップ (W杯) 2016 in いわき」(読売新聞社など共催・主幹) が29日夕、いわき市開幕する。

いわきで野球U15W杯 きょう開幕



投球練習する日本代表の選手(28日、いわき市で)

日本代表は予選リーグで、

豪州(試合開始 29日午後

7時)、キューバ(30日午

後6時)、韓国(31日午後

1時半)、チェコ(8月1

日午後6時)、コロンビア

(2日午後6時)と戦い、

上位チーム同士のスーパ

ーラウンドなどへの進出

を目指す。日本代表の予選会場はいずれも同スタジアム。

鹿取義隆監督によると、日本代表20人のうち、12人は投手ができるといい、「球数制限がある大会では強みになる」という。鹿取監督は「全力でぶつかるだけ。守備からリズムを作りたい」と話している。

2016.7.30

読売新聞 [福島版]

侍U15W杯 いわきで開幕

15歳以下の野球の世界大会「第3回 WBSC (世界野球ソフトボール連盟) U-15ワールドカップ (W杯) 2016 in いわき」(読売新聞社など共催・主幹) が29日夕、いわき市で開幕し、同市のいわきグリーンスタジアムで午後5時半から開会式が

行われた。

出場する12の国・地域の選手らが行進した後、「侍ジャパン」U-15日本代表の野口海音主将が英語で「チームの名誉のために最後まで全力で戦います」と選手宣誓。WBSC野球部門のトム・ペイン第二副会長は「大会は復興を歩むいわき市にとって大切な一步になる」とあいさつし、内堀知事が開会式を宣言した。ス

タンドで見守った同市の平第三中学校3年、園部裕士さん(14)は「同世代が世界と戦うのはすごい」と目を輝かせていた。

同日夜、日本代表は豪州と対戦し、13-0で七回コールド勝ち。同市立の12中学校が1校ずつ出場チームを応援する取り組みで、湯本第一中の生徒ら約60人はアメリカ代表を応援した。

2016.7.30

読売新聞 [全国版]

日本 豪に大勝

野球・U-15(15歳以下)
ワールドカップ第1回(29日)
日・福島いわきグリーンほ
か)——日本が豪州に13—0
0で7回コールド勝ちし
た。二回、打者一巡の猛攻
で7点を先取り、三回も稻
生(東海ボーイズ)の2点

適時三塁打などで4点を加
えた。五、六回もそれぞれ
1得点。4人の投手リレー
で無失点に抑えた。

▽A組

日本(1勝)13—0 豪州

(1敗)、韓国(1勝)14—4 チェ

コ(1敗)、キューバ(1勝)1—0

コロンビア(1敗)▽B組

ベネズエラ(1勝)11—1 メキシコ(1

敗)、パナマ(1勝)16—1 ニュ

ジーランド(1敗)、米国(1勝)18—3 台湾(1敗)

か)——日本が豪州に13—0
0で7回コールド勝ちし
た。二回、打者一巡の猛攻
で7点を先取り、三回も稻
生(東海ボーイズ)の2点

■主将野口が火打 大
勝の流れを作ったのは、主
将の野口(松原ボーイズ)
だ。「回二死」、三塁から
先制の2点左越え二塁打
を放ち、チームはこの回
に一挙7得点。「試合前は
緊張していたが、打ててほ
うとした」。捕手としては
投手陣を好り一戦。開会式
では、大会前から練習し
た英語の選手宣誓をやり
遂げた。次戦のキューバ戦
に向か「日本らしく元気を
出していきたい」と意気込
んだ。

2016.7.31

読売新聞 [全国版]

日本、キューバ零封

野球・U-15(15歳以下)
ワールドカップ第2回(30日)
日・福島いわきグリーンほ
か)——読売新聞社など共催
——日本がキューバを4—0
で破った。四回、小山(愛
知木曽川リトルシア)の
中越え適時二塁打で2点を
先取りし、五、八回もそれぞ
れ1点を加えた。先発の及川
(匝瑳リトルシア)は7回
無失点の好投。

■及川、強気の投球 前
回の覇者を、先発の及川が
7回無失点とねじ伏せた。
80~90キロ台のカーブを交え
ながら、130キロ超の直球
で詰まらせた。「変化球で
泳がせてからの直球が生き
た」と鹿取監督。七回二死
二、三塁のピンチでも動じ
ず、直球主体の投球で「邪
飛、一飛で切り抜けた」「エ
ースになりたい」と大会前
に誓っていた左腕は「狙い
通り強気に直球で攻めた」
と胸を張った。

△A組 日本(2勝)4—0 キ
ューバ(1勝1敗)、チエコ(1
勝1敗)10—0 豪州(2敗)、コ
ロンビア(1勝1敗)1—5 韓国
(1勝1敗)▽B組 メキシコ(1
勝1敗)11—3 ニュージーランド
(2勝)6—4 台湾(2勝)4—1
ベネズエラ(1勝1敗)

2016.8.1

読売新聞 [全国版]

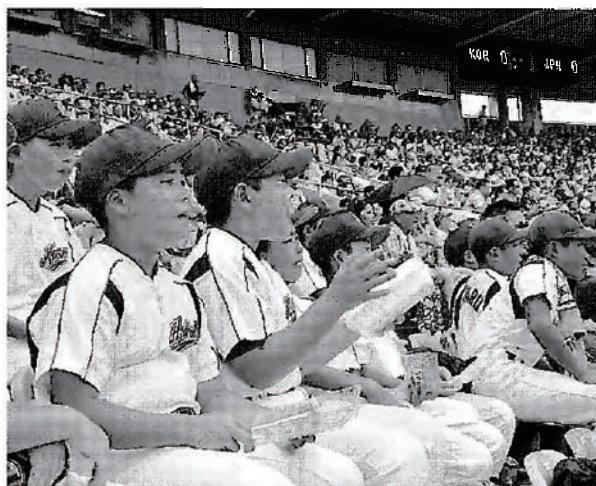
侍 U15 3連勝

野球・U-15(15歳以下)
ワールドカップ第3回(31日)
日・福島いわきグリーンほ
か)——読売新聞社など共
催)——日本が韓国を15—4
で下し3連勝。二回、嘉
手丸(姫路アイアンズ)の
2点適時二塁打などで4点
を先取りし、二回も6連打で
4点を加えた。その後も加
点し7回コールド勝ちし
た。

△A組 日本(3勝)15—4 韓国
(1勝2敗)、コロンビア(2勝1
敗)9—4 チエコ(1勝2敗)、キ
ューバ(2勝1敗)4—3 豪州(3
敗)▽B組 台湾(1勝2敗)9—
8 メキシコ(1勝2敗)、ベネズエ
ラ(2勝1敗)16—3 ニュージーラ
ンド(3敗)、米国(3勝)11—1
パナマ(2勝1敗)

2016.8.1

読売新聞〔福島版〕



U15野球W杯

いわき市で行われている15歳以下の野球の世界大会「第3回 WBSC（世界野球ソフトボール連盟）U-15ワールドカップ（W杯）2016 in いわき」

試合中に歓声を上げる観客ら

いわきに活気 1万1440人

（野球・U-15（15歳以下））

開催支援委員会事務局によると、30日までの2日間で計約1万440人が市内3球場に来場した。29日の日本対オーストラリアは約4000人、30日のキューバ戦では約5000人がいわきグリーンスタジアムで観戦した。

31日も同球場で韓国戦が行われ、大勢の関係者が応援した。韓国の応援で1週間前に初来日した高永一さん（46）は「日本人はとても親切。街並みも大地震があったとは思えないほど美しい」と語った。同市平から訪れたアルバイト残間栄さん（66）は「地元に活気が戻ったよううれしい」と話した。

ワールドカップ第4日（1日・福島いわきグリーンほか）
（読売新聞社など共催）

日本がチエコを15-0と5回コールドで下し、4連勝で決勝ラウンド進出を決めた。一回、鈴木（勝田りトルシニア）の適時二塁打などで3点を先取し、一回以降も着実に加点した。先発の黒須（いわきボーイズ）は4回無失点と好投した。

日本3番・稻生（東海ボイズ）が好調だ。この日は3安打3打点の活躍。3点リードの「回二死二、三塁から、「走者がいる時は大きな当たりを打つ」という心がけ通りに、真ん中の直球を強振し右前へ。五回一死一、二塁では中前に



2回2死2、3塁 稲生が2点適時打を放つ

侍U15大勝決勝Rへ

「わないと負けない」と鹿取監督は語っていた。始まってみれば、予選の4試合中3試合で2桁安打。「だんだん世界一という目標に向けてまとめてきた」と話す3番打者が、活発な打線を引っ張っている。（佐藤雄一）

2016.8.2

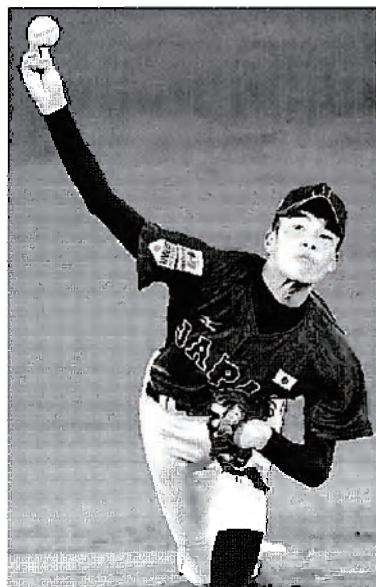
読売新聞〔全国版〕

日本3番・稻生（東海ボイズ）が好調だ。この日は3安打3打点の活躍。3点リードの「回二死二、三塁から、「走者がいる時は大きな当たりを打つ」という心がけ通りに、真ん中の直球を強振し右前へ。五回一死一、二塁では中前に

日本前は国際規格の金属バットに慣れなかつた。飛んだと思つた打球でも外野フライだった。練習を重ねる中で見つけた解決策が「三振しない程度にフルスイング」だった。初戦で中越えの2点三塁打を放つなど4戦連続で長打を記録しているのは、バットをしっかり振り切れている証だ。

大会前、「投手中心に戦

侍U15大勝決勝Rへ



4回を無失点に抑えた、先発の黒須

野球・U-15（15歳以下）ワールドカップ第4日（1日・福島いわきグリーンほか）読売新聞社など共催）——日本がチェコを15—0と5回コールドで下し、4連勝で決勝ラウンド進出を決めた。一回、鈴木（勝田リトルシニア）の適時二塁打などで3点を取り、一回以降も着実に加点した。先発の黒須（いわきボーイズ）は4回無失点と好投した。

黒須 地元で好投

開催地・いわき市のチームに所属する日本の先発黒須が、4回無失点でチームを決勝ラウンドに導いた。1回85の長身から投じる直球に威力があった。球速は120キロ台後半で、「球速よりも球の回転を意識し

た」という。一回は「リズム良くていい」と、3者連続奪三振。相手打者が球の下を空振りする場面が目立つと待望んでいたマウンドを決勝ラウンドに導いた。

（佐藤雄一）

で出場した初戦は「緊張した」といい、2打数無安打で途中交代。3連勝で迎えたこの日は「チームの雰囲気が良かつた」と、投手としてのびのびとプレーした。

チーム唯一の福島出身。東日本大震災から5年がたち、「一歩ずつ復興が進んでいることを発信する大切な大会。福島出身の自分が元気に楽しくプレーできれば」試合の映像はインターネットを通じて世界中に配信されている。思いはきつと届くはずだ。（佐藤雄一）

2016.8.2

読売新聞〔全国版〕



熱戦 県民がサポート



U-15野球W杯 アナウンスや球場整備

熱戦が続く15歳以下の野球の世界大会「第3回 WBSC (世界野球ソフトボール連盟) U-15ワールドカップ (W杯) 2016 in いわき」(読売新聞社など共催・主管)では、開催地のいわき市民など、1日約500人のボランティアが運営を支えている。

1日午後、同市平上荒川の平野球場で行われたニュージーランド対アメリカ戦でアナウンスを務めたのは、磐城桜が丘高校の佐久間麗奈さん(16)と益弘千波瑠さん(16)の2年生2人。野球部のマネジャーで、英語でのアナウンスのために外国語指導助手(A.L.T.)から发音指導を受けたり、日本語での読み上げを練習したりしてきました。「外国の方にも分かるような発音で大会を支えたい」と語る。櫛葉町体育協会から大会の開催支援委員会に派遣されている坂本貴志さん(44)が関わるのは、土をならすグラウンド整備。同市常磐湯本町のいわきグリーンスタジアムを担当している。

東京電力福島第一原発事故の避難指示が解除された櫛葉町の自宅といわき市を行き来して生活している。大の野球好きで「大会に観られて幸せ。選手らがけがをしない環境作りに励みたい」と話している。

試合のアナウンスをする佐久間さん(左)と益弘さん(右)、いわき市の平野球場で

2016.8.2

読売新聞 [福島版]

侍U15 5連勝 ロンビアに10-6

侍U15きょう
ベネズエラ戦
決勝戦

野球・U-15(15歳以下)

ワールドカップ第5回(2

日・福島いわきグリーンほ
かー読売新聞社など共催)
—日本はコロンビアを10
—6で下し、5連勝で予選

ラウンドを1位で通過し
た。二回、田口(栃木下野
リトルシニア)の右前適時
打で勝ち越し。二回に4点、
四回も5点を加えて突き放
した。

いう積極的な走塁で勝利を
たぐり寄せた。予選ラウン
ドを全勝で飾り、指揮官は
「想定内の勝ちゲーム。子
供たちがよく頑張つてい
る」とたたえた。

ボール見極め14四球

日本がそのない攻撃で
5連勝。連戦の疲れもあつ
たのか、打線は3安打に抑
えられたが、4番の嘉手劔
(姫路アイアンズ)が1人
で4四球、チーム全体で14

四球とボールを見極めた。
さらに「外国チームと比べ
てうまい」(鹿取監督)と

野球のU-15(15歳以下)
ワールドカップ(読売新聞
社など共催)は、4日から
福島いわきグリーンスタジ
アムなどで決勝ラウンドが
始まる。

Aグループを5戦全勝で
1位通過した日本は、うち
4試合で2桁得点を奪うな
ど計57得点と打線が好調。
投手陣も3試合で零封と、
危なげない戦いを続けてき
た。決勝ラウンドはベネズ
エラ、米国、パナマの順に
対戦。鹿取監督は「選手の
頑張りでここまで来られ
た。もつともつと上に行けれ
ると思つてゐる」と意気込
みを語った。

【日本の試合日程】△4日
ネズエラ△5日 米国△6日 パベ
ンスタジアム

2016.8.3

読売新聞 [福島版]

2016.8.4

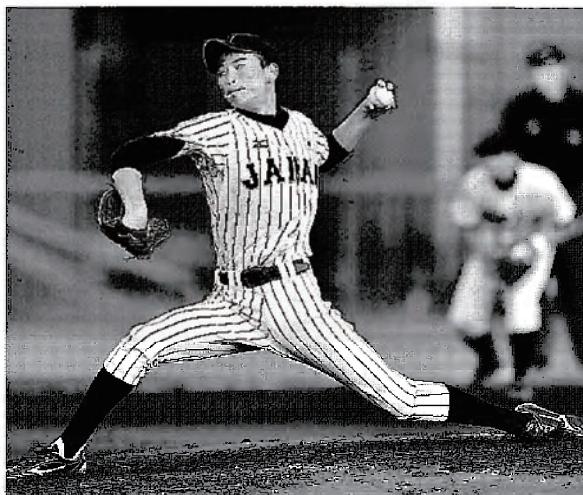
読売新聞 [福島版]

侍U15ベネズエラに快勝

野球・J-15(15歳以下) ワールドカップ第6回(4)

本がベネズエラに快勝した。小山（愛知本曾）た。一回、川口リトルシニアの適時打で先制し、四回には植田（試験官）と及川（監督）の連携でリトルシニアの2点適時打でリードを広げた。守っては、3投手の継投で審封した。

及川 慶急抜群　日本の先発・及川が、快勝の流れを呼び込んだ。五回途中無失点の好投で、「チーム全員で戦っている雰囲気を感じながら投げられた」と笑顔を見せた。



好投を見せた先発の及川

日本(3勝) 8-0
ベネズエラ(3敗)、パナマ(3敗)
勝敗 14-4 ローナンジア(2)
キューバ(2勝敗) 11-2 米国(2)
勝(1敗)
※通常成績は予選リーグの結果を加味したもの

三

「エースになりたい」という言葉通りの活躍だ。予選リーグでは最大の難敵、キューバ戦で先発を任せられ、7回無失点。決勝ラウンド初戦を「前回より球が走っていなかつた」と振り返ったが、申し分ない内容で、鹿取監督は「安定感があった」とたたえた。

今大会の球数制限では、65球までなら2日間空けて登板である。56球での交代は、7日の決勝を見越してのこと。「みんな乗っていてほしい、いい投球をしてチームに貢献したい」。大一番を見据えた。(平沢祐)

2016.8.5

讀売新聞〔全国版〕

2016.8.6

讀賣新聞〔全國版〕

決勝進出持ち越し
野球・U-15(15歳以下)
ワールドカップ第7回(6月)

■主将・野口「負け生かす」日本の主将・野口（松原ボーアイズ）は「米国の気迫を感じた。とにかく悔しい」と敗戦をかみしめた。140キロ超の直球で押していく米国投手陣に対し、日本打線はバットを短く持ち、すり足氣味にして対応。六回には2本の一塁打で同点とするなど、前回大会で完敗した野球大国と、ほぼ互角に渡り合った。決勝進出の可能性は残っており、「A」の負けを生かして、明日絶対に勝ちたい」と意欲を見せた。

日本代表・鹿取監督「前半の好機で一本が出なかつた。米国から見習うことがたくさんあった。選手は全力で戦ってくれたので、明日もそのままの姿勢でやつてもらいたい」

→ 明陞水 → 前　缺明　蓮淨（前）の事例は、この実験結果と一致する。

2016.8.7

読売新聞 [全国版]



1回死 稲生が先制本塁打を放つ

野球・U-15(15歳以下)
ワールドカップ第8日(6
日・福島いわきグリーンほ
か=読売新聞社など共催)
――日本がパナマを2-1
で破り、決勝進出を決めた。
一回に稻生(東海ボーイズ)
のソロ本塁打で先制し、二

回には田口(栃木下野リト
ルシニア)の適時打で加点。
3投手の継投で逃げ切つ
た。決勝はキューバと対戦
する。

勝利への執念

恩詰まる接戦を制した日

初めて黒星を喫した。米国
ナインは、ピンチでは手を
たたいて仲間を鼓舞し、点
が入ればベンチを飛び出し
て喜んだ。一方、日本の選
手は悔しさが表情に出てい
なかつた。指揮官は「米国
の姿を見て、選手がどう感
じてくれるか」と奮起を期
待していた。

決勝進出をかけた一戦
は、勝利への執念が表れて
いた。野手は堅守で、ベン
チの選手は大声で、投手を
もり立てる。先発の岡田(京
葉ボーイズ)は「みんなの
熱い思いを感じて投げた」。
6回1失点と好投し、バト
チでは、二塁手の田口が立
て続けにゴロを好捕し、ガ
ツツボーズ。「勝ちたい気
持ちがプレーにつなが

た」と胸を張った。大一番
を前に、チームの結束は強
張った」とたたえた。
前日の米国戦で、今大会
初めて黒星を喫した。米国
ナインは、ピンチでは手を
たたいて仲間を鼓舞し、点
が入ればベンチを飛び出し
て喜んだ。一方、日本の選
手は悔しさが表情に出てい
なかつた。指揮官は「米国
の姿を見て、選手がどう感
じてくれるか」と奮起を期
待していた。

決勝進出をかけた一戦
は、勝利への執念が表れて
いた。野手は堅守で、ベン
チの選手は大声で、投手を
もり立てる。先発の岡田(京
葉ボーイズ)は「みんなの
熱い思いを感じて投げた」。
6回1失点と好投し、バト
チでは、二塁手の田口が立
て続けにゴロを好捕し、ガ
ツツボーズ。「勝ちたい気
持ちがプレーにつなが

た」と胸を張った。大一番
を前に、チームの結束は強
張った。全員で世界一を取
りに行く。(平沢祐)

▽決勝ラウンド 日本(4勝1敗)2-1パナマ(2勝3敗)、
キューバ(4勝1敗)4-2ベネズエラ(1勝4敗)、コロンビア(1勝4敗)7-5米国(3勝2敗)
(※通算成績は予選リーグの結果を加味したもの)

日本 決勝進出 パナマ下す

2016.8.8

読売新聞〔全国版〕



決勝でキューバに敗れ、悔しそうな表情
で引き揚げるU-15日本代表の選手たち

キューバに力負け

侍U15 初V逃す

野球・U-15(15歳以下)

ワールドカップ最終日(7日・福島いわきグリーン)|

読売新聞社(アサヒクリエイティブ)――

日本は決勝でキューバに敗

れ、初優勝はならなかつた。

一回に5点を先行され、四

回にもリードを広げられ

た。六回以降追い上げたが、

及ばなかつた。キューバは

大会2連覇。3位決定戦は

米国がパナマを破つた。

次につながる

7勝2敗準V

頂点には届かなかつた
が、日本は力を出し尽くし、
準優勝に輝いた。決勝は日

△決勝	キューバ	0	50	300
△本	0	0	0	0
△3位決定戦	米国	8	1	210
	パナマ			49

をはじめ、どのチームよりも安定感があった。投手の岡田(京葉ボーラーズ)が「後ろには、世界一強い仲間がいた」と驚いたほどだ。

指揮官は戦いを終えた選

手に温かいまなざしを向け

いた。「悔しいけど負けて覚

えることもある。褒めてあげたい」。2020年東京

五輪では野球が3大会ぶり

に復活することが決まつ

た。この経験を糧に、さら

に上の世代で「侍ジャパン」

として戦う姿を見せてほし

い。(平沢祐)

鹿取監督は今大会、勝敗だけにとらわれず、「次へのステップとして戦う」と臨んだ。国内では対戦したこのない速球や鋭いスイングに、選手それぞれが工夫して立ち向かった。投打がかみ合い、7勝2敗。日本のレベルの高さを示した。

特に守備が光った。好ア

レーレーを連発した田口(栃木

下野りトルシニア)、近藤(嘉麻ボーグズ)の二遊間

(嘉麻ボーグズ)

の守備が光った。好ア

レーレーを連発した田口(栃木

2016.8.8

読売新聞【福島版】



記念撮影をする日本代表の選手ら（7日、いわき市）

侍U15 準V

「侍ジャパン」U-15 日本代表は見事、準優勝に輝いた。15歳以下の野球の世界大会〔第3回 WBSC（世界野球ソフトボール連盟）U-15ワールドカップ（WBSC）2016 in いわき〕（読売新聞社など共催

・主管）は7日、いわき市立いわきグリーンスタジアムで決勝が行われ、日本は前回優勝のキューバに4-9で敗れたものの、スタンードの観客から惜しみない拍手が送られた。

試合後、鹿取義隆監督は「準優勝に終わつたが、観客にも勇気と元気を与えた。大会を支えてくれた

いわきに野球で恩返し

いわきの人たちにも、野球で恩返しができた」と話した。閉会式で、日本の選手には銀メダルが贈られた。

決勝では出場機会はなかつたが、同市出身の黒須大誠

選手は「最高の仲間や地元に支えられて最後まで頑張ることができた。地元の人には少しは元気を与えられたと思う」と語った。

スタンンドから声援を送つた同市小島町、塗装会社経営者野田昇さん（54）は「子供たちはつらつプレーに感動した。各国とも素晴らしいかった」とたたえた。

福島県内テレビ局 放送

1 TUFレビュー福島

インフォマーシャル90秒+30秒の事前告知

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月2日（土）	第1回 大会概要紹介	2'00"	18:55
2	7月9日（土）	第2回 大会概要紹介 合宿の手ごたえ	2'00"	18:55
3	7月18日（祝）	第3回 大会概要紹介 選手紹介	2'00"	15:47
4	7月23日（土）	第4回 大会概要紹介 来場誘引	2'00"	18:55

ニュース関連

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月25日（月）	スイッチ いわき直前合宿	1'00"	18:15
2	7月28日（木）	スイッチ U-15特集 大会内容 前夜祭開場中継	10'00"	18:15
3	7月29日（金）	ひるおび第1部（TUFニュース） U-15今日開幕	1'00"	11:30
4	7月30日（土）	TUFニュース U-15「VSオーストラリア」	1'00"	11:45
5	7月31日（日）	TUFニュース U-15「VSキューバ」	1'00"	11:30
6	7月31日（日）	Nスタ U-15「Vs韓国」会津大学パブリックビューイング	1'00"	17:30
7	8月1日（月）	スイッチ 台湾チーム交流ラベント順位	4'00"	18:15

情報番組関連

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月29日（金）～8月2日（火）	げっきんチェック 開催告知ボード作成・番組内	1'30"	9:55
2	8月28日（日）	シルミルいわき（いわき広報番組内）	4'00"	16:46

事前告知（7/8金～7/28木）

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月8日（金）～28日（木）	15秒の事前告知スポット	0'15"	100本

2 FTV福島テレビ

FTVみんなのニュース(月-金16:50～19:00)

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	6月22日（水）	U15世界野球にいわき市の中学生	1'35"	18:54
2	7月4日（月）	U15世界野球>いわきの黒須選手は...東京で強化合宿	2'00"	18:19
3	7月5日（火）	U15世界野球で警戒	50"	17:50
4	7月6日（水）	U15世界野球でコロンビアの出前授業	1'15"	18:54
5	7月21日（木）	U15世界野球で小学校で料理教室	1'15"	18:25
6	7月25日（月）	U15世界野球開幕に向け 事前合宿はじまる	1'15"	18:21
7	7月28日（木）	ちょうど今、歓迎レセプション	45"	18:27
8	7月28日（木）	特集>U15世界野球 地元は盛り上がる	4'05"	18:28
9	7月29日（金）	U15世界野球がいわきで開幕	1'30"	18:19
10	7月29日（金）	地元の星 黒須大誠選手	2'30"	18:20

FNNスピーカー（県内）（土11:50～11:58）

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月30日（土）	U-15開幕 開幕戦の結果	2'00"	11:50

大会総集編（土16:00～16:30）

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	8月27日（土）	大会総集編	29'00"	16:00

3 KFB福島放送

番組

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月18日（月）	大会概要紹介 主力選手紹介	3'30"	15:05
2	7月21日（木）	大会概要紹介 黒須選手クローズアップ	3'30"	15:35
3	7月30日（土）	大会概要紹介 盛り上げるための地元の取組	3'30"	15:25

パブリシティ

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月26日（火）	ふくしまスーパーJチャンネル1部 取材バズ「気になる」120秒	2'00"	17:44
2	7月28日（木）	ふくしまスーパーJチャンネル1部 出演バズ60秒	1'00"	17:44
3	7月30日（土）	ドミソラ2 中継	25"	9:35

ふくしまスーパーJチャンネル（月-金 16:50～19:00）

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	6月22日（水）	鹿取監督の野球教室+黒須君代表に	1'30"	17:48
2	7月7日（木）	U-15いわき大会にちなんだ給食を食べて小中学生が応援	1'20"	17:49
3	7月25日（月）	U-15大会出場各国の郷土料理を試食	1'05"	17:50
4	7月26日（火）	U-15日本代表が練習試合	1'00"	18:34
5	7月27日（水）	U-15日本代表が地元中学校訪問	1'15"	18:22
6	7月28日（木）	U-15公式練習、レセプション会場から中継	4'00"	18:15

KFBニュース（月-金 11:40～11:45）

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月29日（金）	U-15いわき大会開幕	1'00"	11:40

大会告知スポット（15秒・フリースポット）

No.	放送日	項目	枠時間	開始時間
1	7月27日（水）		0'15"	1753PT
2	7月27日（水）		0'15"	2310SB
3	7月28日（木）		0'15"	800PT
4	7月28日（木）		0'15"	1043PT
5	7月29日（金）		0'15"	1003SB
6	7月30日（土）		0'15"	1954SB
7	7月30日（土）		0'15"	1145PT
8	7月31日（日）		0'15"	1415SB
9	8月1日（月）		0'15"	1200SB
10	8月2日（火）		0'15"	800PT
11	8月3日（水）		0'15"	600PT
12	8月4日（木）		0'15"	1400SB
13	8月5日（金）		0'15"	2525PT
14	8月6日（土）		0'15"	550SB

B S 放送

国内最大4チャンネルのスポーツテレビ局、株式会社ジェイ・スポーツが侍ジャパンU-15代表戦を生中継で全試合放送。

また、PC、スマホ、タブレットで視聴できるオンデマンドサービス「J SPORTS オンデマンド2」でも全試合LIVE配信。

●オープニングラウンド

放送日	放送時間	放送内容	チャンネル
7月29日(金)	午後6:45~(生中継)	オーストラリア vs 日本	J SPORTS 2
7月30日(土)	午後5:55~(生中継)	日本 vs キューバ	J SPORTS 3
7月31日(日)	午後1:20~(生中継)	日本 vs 韓国	J SPORTS 1
8月1日(月)	午後5:50~(生中継)	チェコ vs 日本	J SPORTS 1
8月2日(火)	午後5:50~(生中継)	日本 vs コロンビア	J SPORTS 3

●スーパーラウンド

放送日	放送時間	放送内容	チャンネル
8月4日(木)	午後5:50~(生中継)	日本 vs ベネズエラ	J SPORTS 3
8月5日(金)	午後5:50~(生中継)	日本 vs アメリカ	J SPORTS 4
8月6日(土)	午後5:55~(生中継)	日本 vs パナマ	J SPORTS 3

●決勝戦

放送日	放送時間	放送内容	チャンネル
8月7日(日)	午後2:15~(生中継)	日本 vs キューバ	J SPORTS 1

YouTube ライブ配信

いわきグリーンスタジアムでの全試合(開会式・閉会式を含む)がyoutube.com/WBSCで視聴でき、WBSCの公式放送パートナーがなくテレビ中継されない国や地域でも生中継で試合観戦ができるサービスを実施。

Twitterが提供する動画サービスのSnappyTVでは、WBSCの放送パートナーと連携し、生放送からリプレイシーンをすぐに編集し、@WBSCを通して動画シェアされる。SNSのコメントやシェアを盛り上げて世界中のユーザーとつながるサービスが行われた。



大会協力企業

株式会社相双リテック

美津濃株式会社

富士通株式会社

浜通り交通株式会社

いわき市公営競技事務所（いわき平競輪場）

クリナップ株式会社

株式会社マルト

東北電力株式会社

いわき市建設業協同組合

株式会社丸東

山崎製パン株式会社

常光サービス株式会社

大会協力ボランティア団体・組織

福島県

楢葉町

楢葉町体育協会

いわき商工会議所

一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー

公益社団法人いわき青年会議所

いわき市旅館ホテル業連絡協議会

公益財団法人いわき市国際交流協会

一般財団法人いわき市公園緑地観光公社

東京電力株式会社

一般社団法人福島県理学療法士会

スポーツ＆メディカルフィットネス リ・バース

履正社医療スポーツ専門学校

いわき市体育協会

いわきベースボールコミュニケーション

いわき野球連盟

磐南野球連盟

相双リテック野球部

いわき菊田クラブ

福島県立医科大学

東日本国際大学

いわき明星大学

東京外国语大学

神田外国语大学

関東学院大学

道都大学

いわき短期大学

福島工業高等専門学校

磐城共立高等看護学院

松村看護専門学校

兵庫県立社高等学校

福島県高等学校野球連盟いわき支部

いわき市中学校長会

いわき市中体連野球専門部会

いわき市中学校野球一球会

平第一中学校

平第二中学校

平第三中学校

中央台北中学校

中央台南中学校

藤間中学校

草野中学校

赤井中学校

四倉中学校

大野中学校

久之浜中学校

小川中学校

内郷第一中学校

好間中学校

小名浜第一中学校

小名浜第二中学校

玉川中学校

江名中学校

泉中学校

湯本第一中学校

湯本第二中学校

湯本第三中学校

磐崎中学校

植田中学校

植田東中学校

錦中学校

勿来第一中学校

勿来第二中学校

上遠野中学校

入遠野中学校

いわきボーイズ

いわき平ボーイズ

いわき湘南ボーイズ

いわきシニアリーグ

いわきリトルリーグ

いわき学童野球連合会

マツザキガーデンジュニアスポーツ少年団

いわき菊田キッズ

いわき南野球スポーツ少年団

磐崎軟式野球スポーツ少年団

江名グランパス

小名浜少年野球教室

常磐軟式野球スポーツ少年団

中央台リトルベアーズ軟式野球スポーツ少年団

勿来少年野球教室

藤原スポーツ少年団

夏井くすの木スポーツ少年団

東北震災復興支援少年野球大会実行委員会

株式会社シミズオクト

東京本郷ロータリークラブ

文京区少年軟式野球連盟

福島民報社

福島民友新聞社

いわき民報社

福島テレビ

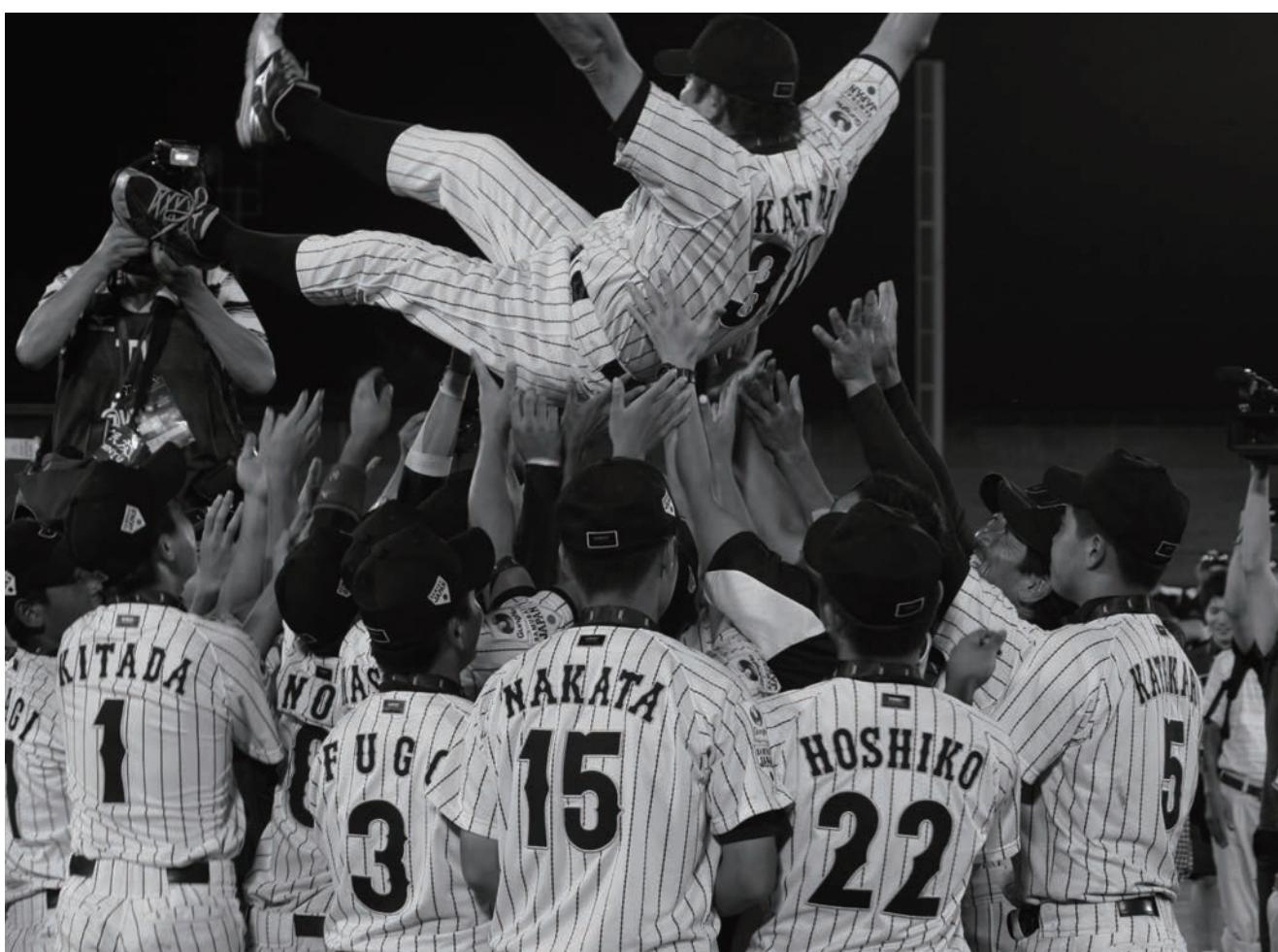
福島中央テレビ

テレビユー福島

福島放送

いわき市民コミュニティ放送 他

敬称略・順不同





参加選手のサインボール、メダル、ユニフォームなどの大会記念品は
いわきグリーンスタジアムロビーに展示。

第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ2016 in いわき 実行委員会 活動記録誌

平成29年2月発行

写真提供 世界野球・ソフトボール連盟 (WBSC)
高橋智裕、志賀新、高橋昌江、馬上幸一

編集／発行 公益財団法人日本野球連盟
第3回 WBSC U-15 ベースボールワールドカップ
2016 in いわき実行委員会
東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー内



第3回WBSC U-15
ベースボールワールドカップ2016 in いわき
実行委員会

活動記録誌